

令和7年度市民アンケート調査 結果報告書

令和8年1月

盛岡市

目 次

I 事業の概要 1

II 調査結果と考察

テーマ1	ごみの減量と3Rの推進について	
問1	ごみの減量やリサイクルのために日頃心がけていること	3
問2	市の施策に求めること	6
問3	ごみ処理の有料化への意識	9
問4	プラスチック使用製品廃棄物の分別に対する意識	12
問5	食品ロス削減のために日頃心がけていること	15
テーマ2	男女共同参画・女性活躍推進について	
問6	男女の地位の平等に関する現状の評価	18
問7	「男性は仕事、女性は家庭」という考え方への評価	20
問8	男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと	22
問9	家庭・社会・職場に必要なこと	25
問10	男性が家事等に参加するために必要なこと	27
問11	DVを受けた経験	30
問12	DVを受けたときの相談先	32
問13	DVを受けたときの相談相手	34
問14	「パートナーシップ・ファミリーシップ制度」の認識	36
テーマ3	認知症について	
問15	認知症の人と接した経験	38
問16	認知症の人と接した場面	40
問17	認知症基本法の認識	43
問18	認知症になってからの生活のイメージ	45
問19	認知症の人への適切な対応の理解	47
問20	認知症の人への適切な対応の可否	49
問21	認知症の人と話をすることへの抵抗感	51
問22	認知症になった場合、周囲への打ち明けの可否	53
問23	認知症になった場合、希望する暮らしの可否	55
問24	認知症になっても暮らしやすい社会に必要なこと	57
問25	認知症の人や家族が暮らしやすい社会のための行動	60
テーマ4	盛岡市役所のデジタル化について	
問26	日常生活でインターネットを利用するときに使う端末	63
問27	盛岡市役所のデジタル化の進捗	66
問28	デジタル化の進展を望む行政分野	68
問29	行政のデジタル化により期待すること	72
問30	マイナンバーカードに望む機能	76
問31	デジタル化の進展により生じる影響	79

I 事業の概要

1 事業の目的

市民アンケート調査は、市政に対する市民の考えや意見を把握し、調査結果を施策検討の際の基礎資料として活用することにより、「市政の合理的かつ効率的な運営」を図るため毎年実施しています。

2 事業テーマ

(1) ごみの減量と3Rの推進について	(担当：廃棄物対策課)	5問
(2) 男女共同参画・女性活躍推進について	(担当：男女共同参画推進室)	9問
(3) 認知症について	(担当：長寿社会課)	11問
(4) 盛岡市役所のデジタル化について	(担当：情報企画課)	6問

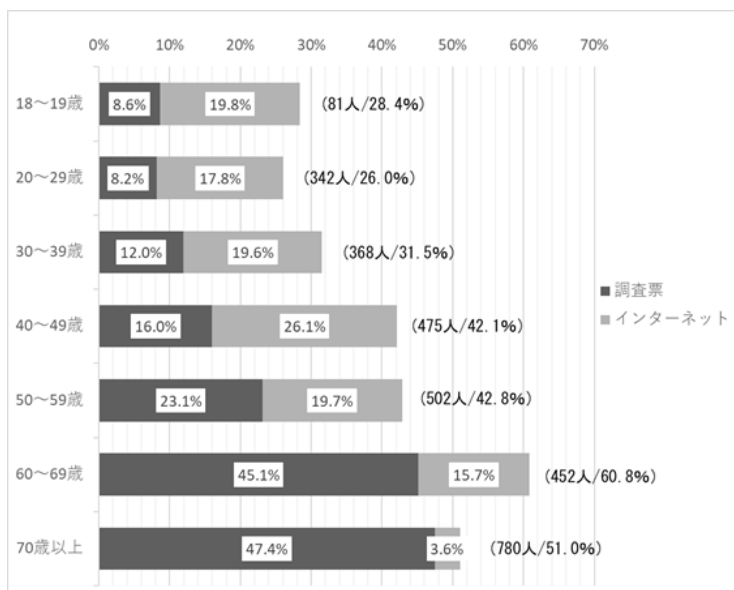
3 事業の設計

(1) 実施方法	アンケート方式による調査
(2) 調査地域	盛岡市全域
(3) 調査対象者	満18歳以上の市民
(4) 標本数	3,000人
(5) 抽出方法	住民票ファイル（令和7年6月30日）から無作為抽出
(6) 調査方法	郵送による配布・回収（インターネット回答を併用）
(7) 調査期間	令和7年8月12日～令和7年8月29日

4 調査の回収結果

- (1) 対象者数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,316人（内訳…調査票：845人、インターネット：471人）
- (3) 有効回収率 43.9%

【年代別回収率と回答媒体の内訳】



全体の有効回収率は令和6年度実施の同調査の42.9%よりも若干上昇した。

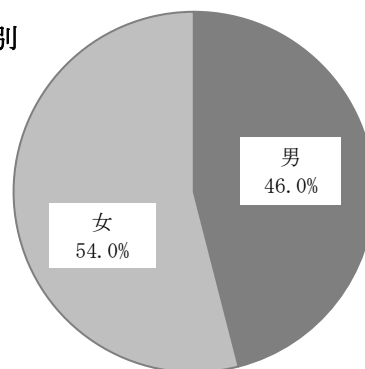
回答のうち、インターネットでの回答率は35.8%で、令和6年度の32.5%よりも3.3ポイント高くなった。

() 内の数は、その年代の対象者の人数及び回答率

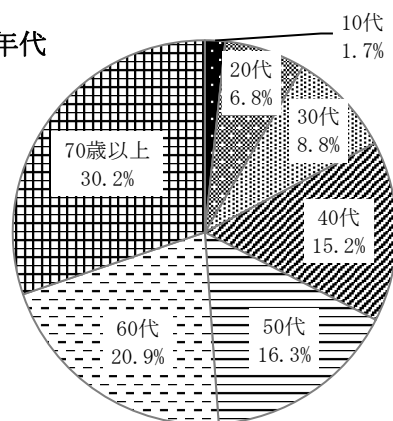
5 調査回答者の内訳

区分	実数（人）
全 体	1,316
【性別】	
男 性	606
女 性	710
【年代】	
18歳～19歳	23
20歳～29歳	89
30歳～39歳	116
40歳～49歳	200
50歳～59歳	215
60歳～69歳	275
70歳以上	398
【地区別】	
河 北	411
河 南	185
盛 南	186
厨 川	278
都 南	214
玉 山	42

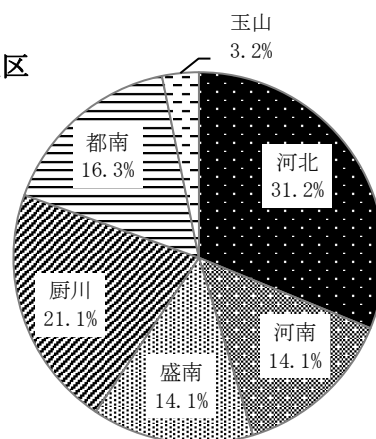
性別



年代



地区



【地区別】の区分について

現行のコミュニティ区分を基本単位とし、市域を次の6地区に区分しています。

1	河北	桜城、仁王、上田、緑が丘、松園、山岸、上米内
2	河南	城南、加賀野、中野、杜陵、大慈寺、築川
3	盛南	仙北、本宮、太田、繫
4	厨川	西厨川、土淵、東厨川、青山、みたけ、北厨川
5	都南	見前、飯岡、乙部
6	玉山	好摩、巻堀姫神、洪民、玉山藪川

6 留意事項について

- (1) 比率は全て百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入して算出しました。したがって、合計が100.0%とならない場合があります。
- (2) 複数回答を求める設問では、その回答の数値は延べ回答数に対する百分率ではなく回答者数を100とした場合の百分率です。したがって、合計は100.0%を超えることがあります。
- (3) 「N」は、その設問の回答者の実数で、比率算出の基礎になります。

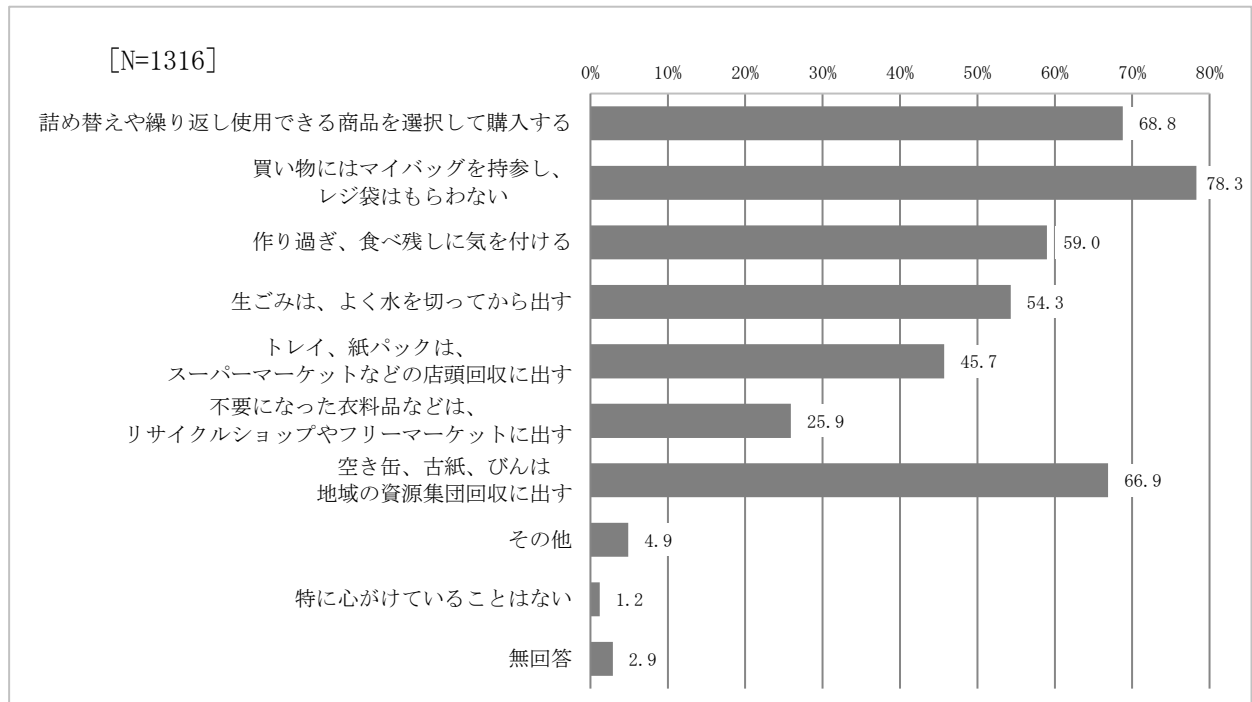
Ⅱ 調査結果と考察

《テーマ1 ごみの減量と3Rの推進について》

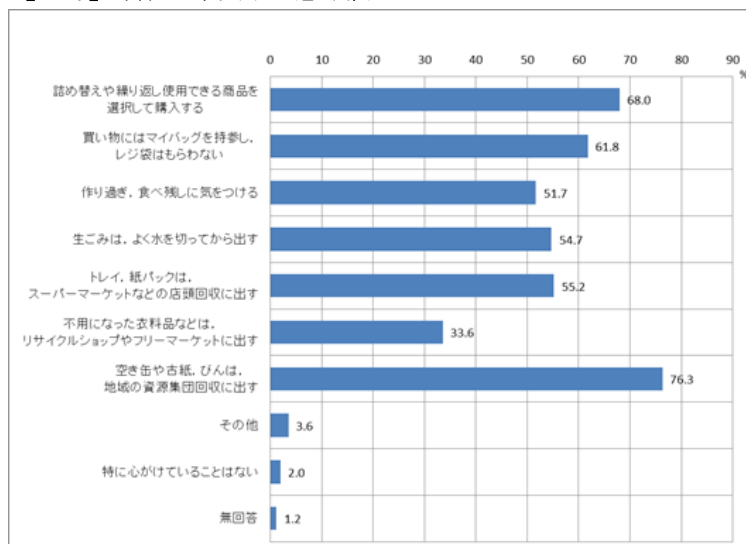
問1 あなたは、ごみの減量やリサイクルを図るために、日頃どのようなことを心がけていますか。
当てはまるものを全てに✓を付けてください。

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1 詰め替えや繰り返し使用できる商品を選択して購入する | 6 不要になった衣料品などは、リサイクルショップやフリーマーケットに出す |
| 2 買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋はもらわない | 7 空き缶、古紙、びんは地域の資源集団回収に出す |
| 3 作り過ぎ、食べ残しに気を付ける | 8 その他（ ） |
| 4 生ごみは、よく水を切ってから出す | 9 特に心がけていることはない |
| 5 トレイ、紙パックは、スーパーマーケットなどの店頭回収に出す | |

【全体】



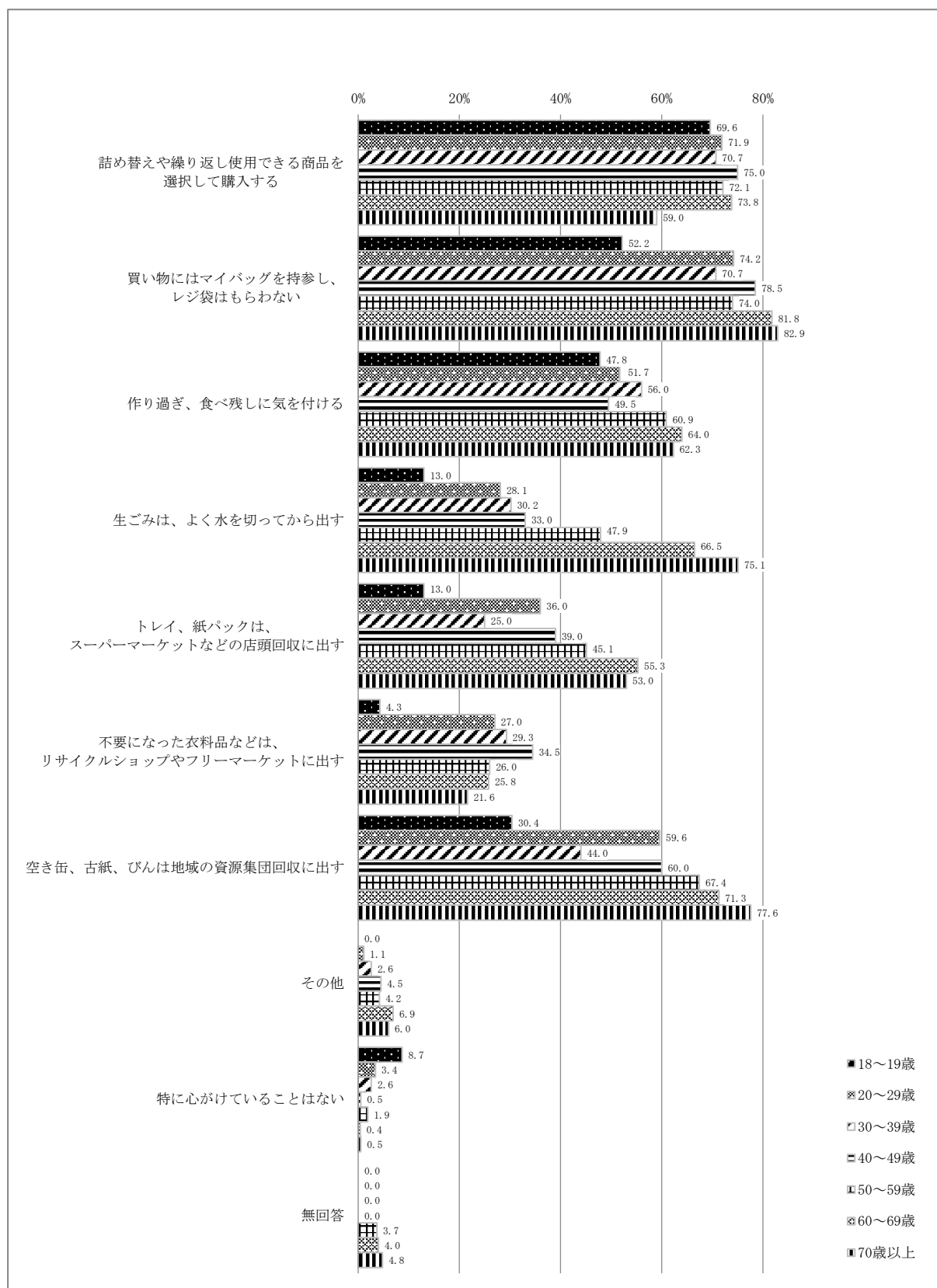
【参考】平成27年度市民意識調査



「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋はもらわない」の割合が78.3%と最も高く、前回調査（平成27年度市民意識調査）の61.8%から16.5ポイント上昇している。これは、令和2年7月のプラスチック製買物袋有料化が影響していると考えられる。

前回調査では「空き缶や古紙、びんは、地域の資源集団回収に出す」が最も高い76.3%だったが、今回調査は66.9%と9.4ポイント下降していた。今回も全体の中で高い割合が示されているが、資源集団回収の回収量は年々減少していることから、地域の活動を支援していく必要がある。

【年代別】



「生ごみは、よく水を切ってから出す」は70歳以上が75.1%と最も高く、10代～50代が13.0%～47.9%と全体の54.3%よりも低かった。各家庭における生ごみの水切りは、ごみの減量・資源化に有効な手段であることから、特に回答が40%を下回った10代～40代に向けた周知・啓発を図る必要がある。

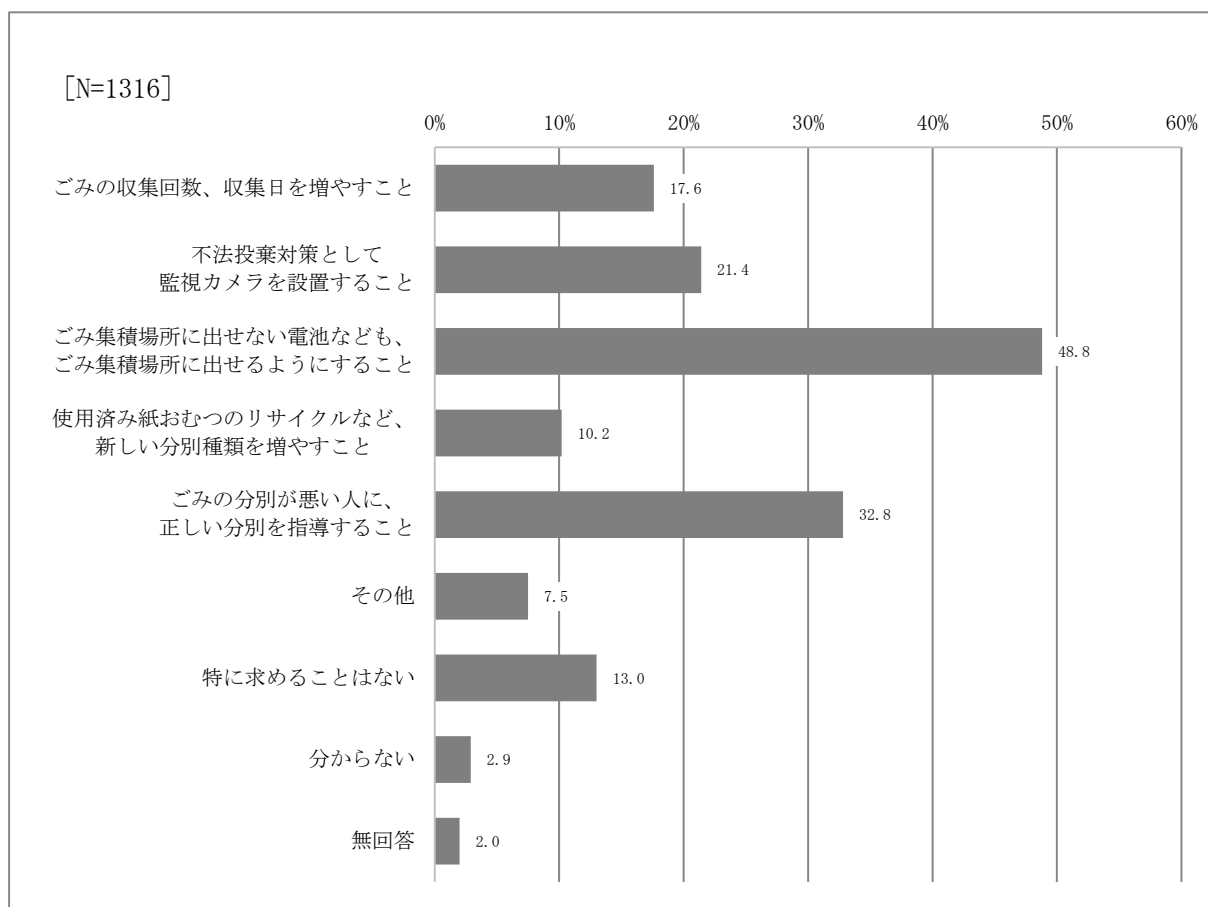
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	詰め替えや繰り返し使用できる商品を選択して購入する	買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋はもらわない	作り過ぎ、食べ残しに気を付ける	生ごみは、よく水を切ってから出す	トレイ、紙パックは、スーパーマーケットなどの店頭回収に出す	不要になった衣料品などは、リサイクルショップやフリーマーケットに出す	空き缶、古紙、びんは地域の資源集団回収に出す	その他	特に心がけていることはない	無回答
全体		1316	905	1031	776	714	602	341	881	65	16	38
性別	男	606	378	447	325	282	269	140	388	33	8	19
	女	710	527	584	451	432	333	201	493	32	8	19
年代	18～19歳	23	16	12	11	3	3	1	7	0	2	0
	20～29歳	89	64	66	46	25	32	24	53	1	3	0
	30～39歳	116	82	82	65	35	29	34	51	3	3	0
	40～49歳	200	150	157	99	66	78	69	120	9	1	0
	50～59歳	215	155	159	131	103	97	56	145	9	4	8
	60～69歳	275	203	225	176	183	152	71	196	19	1	11
	70歳以上	398	235	330	248	299	211	86	309	24	2	19
地区	河北	411	282	318	248	226	211	107	274	25	4	16
	河南	185	127	144	102	102	90	53	124	9	2	3
	盛南	186	135	148	105	97	73	44	119	8	3	4
	厨川	278	185	209	176	159	138	71	200	13	4	8
	都南	214	149	176	118	109	76	56	129	8	2	6
	玉山	42	27	36	27	21	14	10	35	2	1	1

問2 あなたは、ごみの減量やリサイクルを図るため、市の施策に求めることはありますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

- 1 ごみの収集回数、収集日を増やすこと
- 2 不法投棄対策として監視カメラを設置すること
- 3 ごみ集積場所に出せない電池なども、ごみ集積場所に出せるようにすること
- 4 使用済み紙おむつのリサイクルなど、新しい分別種類を増やすこと
- 5 ごみの分別が悪い人に、正しい分別を指導すること
- 6 その他（ ）
- 7 特に求めることはない
- 8 分からない

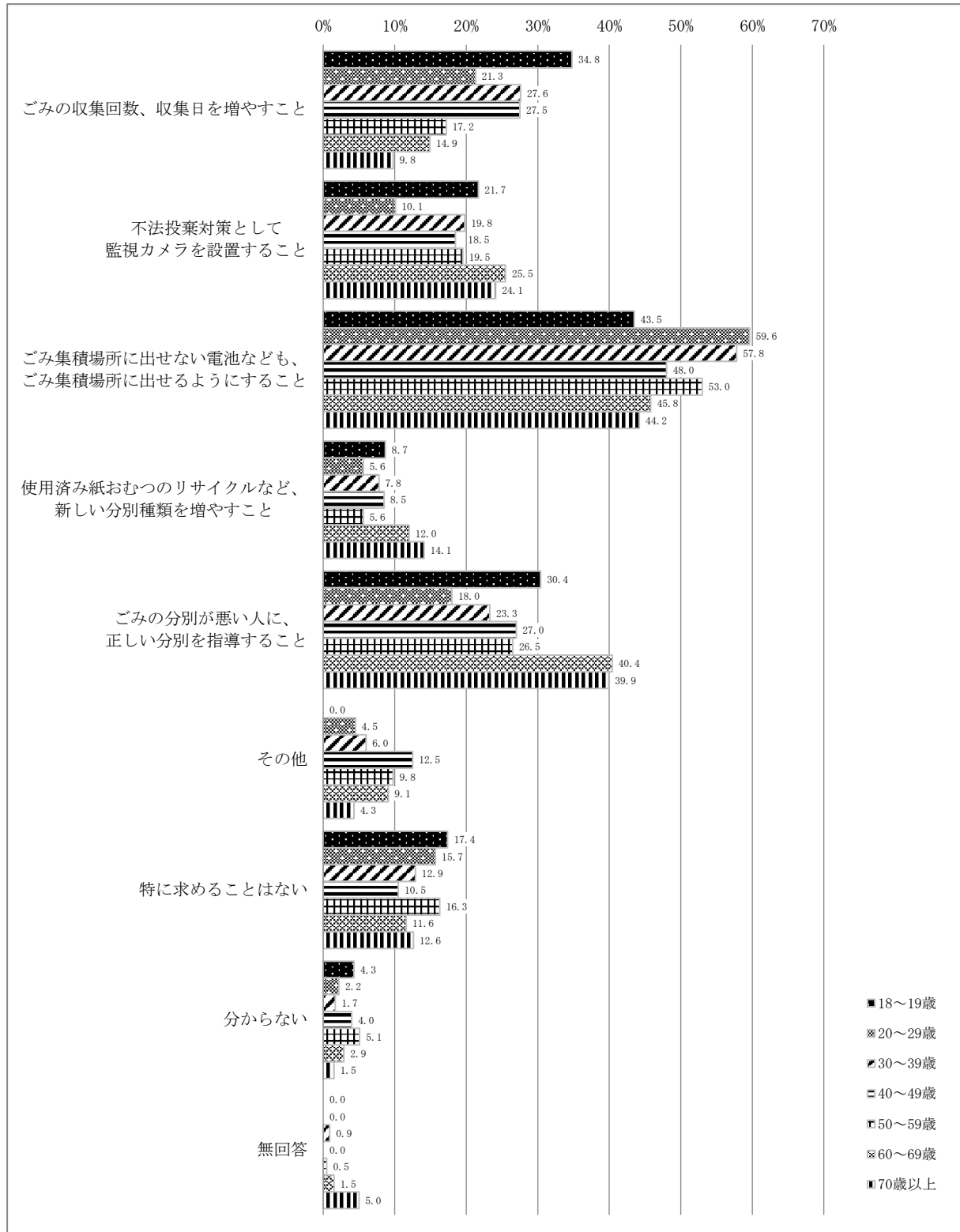
【全体】



「ごみ集積場所に出せない電池なども、ごみ集積場所に出せるようにすること」が48.8%と最も高く、ごみ集積場所に出せるごみの種類の拡充を求めるものと考えられる。

「ごみの分別が悪い人に、正しい分別を指導すること」が32.8%と次に高く、ごみの分別が悪い人向けに周知・啓発を継続しているものの、ごみの分別が悪い人が一向に減らない実態があると考えられる。

【年代別】



「ごみの収集回数、収集日を増やすこと」は40代よりも若い世代で21.3%～34.8%と全体よりも高く、「ごみの分別が悪い人に、正しい分別を指導すること」は60代以上が39.9%～40.4%と高く、年代別の傾向の違いが見られたことから、全世代に共通する施策のほか、各世代が求める施策も別々に展開するなど検討する必要がある。

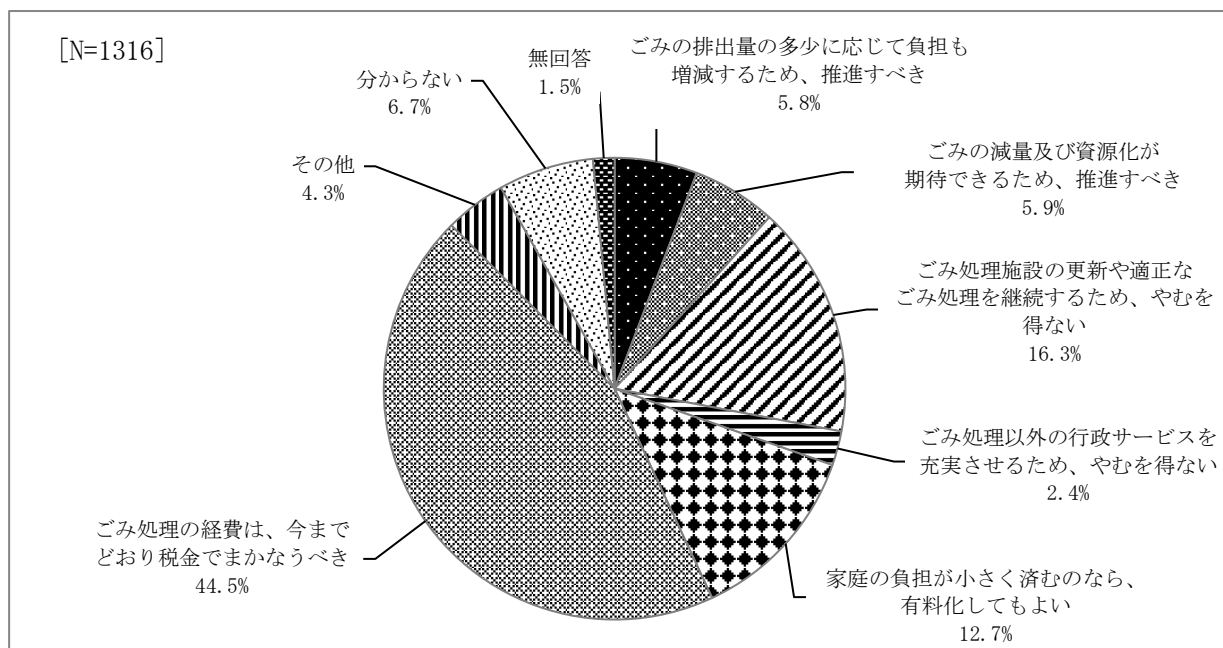
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	ごみの収集回数、収集日を増やすこと	不法投棄対策として監視カメラを設置すること	ごみ集積場所に出せない電池なども、ごみ集積場所に出せるようにすること	使用済み紙おむつのリサイクルなど、新しい分別種類を増やすこと	ごみの分別が悪い人に、正しい分別を指導すること	その他	特に求めることはない	分からない	無回答
全体		1316	231	282	642	134	431	99	171	38	26
性別	男	606	115	153	299	64	221	45	65	12	13
	女	710	116	129	343	70	210	54	106	26	13
年代	18～19歳	23	8	5	10	2	7	0	4	1	0
	20～29歳	89	19	9	53	5	16	4	14	2	0
	30～39歳	116	32	23	67	9	27	7	15	2	1
	40～49歳	200	55	37	96	17	54	25	21	8	0
	50～59歳	215	37	42	114	12	57	21	35	11	1
	60～69歳	275	41	70	126	33	111	25	32	8	4
	70歳以上	398	39	96	176	56	159	17	50	6	20
地区	河北	411	71	98	217	47	138	33	45	11	9
	河南	185	35	33	88	23	66	16	24	6	4
	盛南	186	33	37	92	18	59	16	20	6	3
	厨川	278	44	62	127	22	91	23	36	9	7
	都南	214	40	44	98	20	62	10	40	6	2
	玉山	42	8	8	20	4	15	1	6	0	1

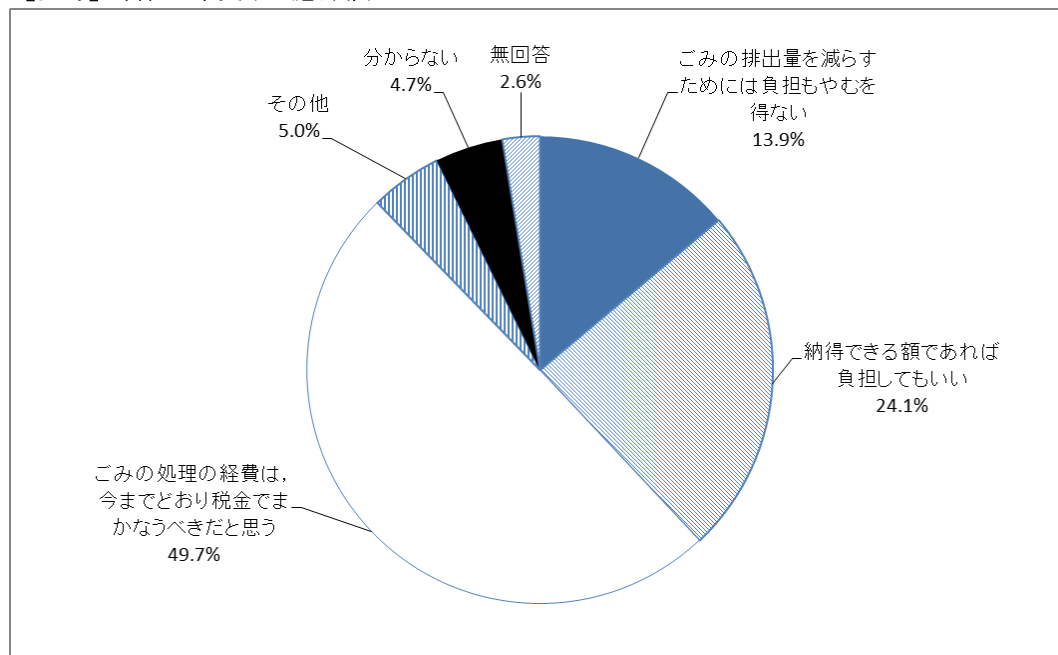
問3 ごみ処理費用の一部をごみを出す人に負担してもらうことで、ごみを多く出す人と少なく出す人との負担の公平化を図ることができると言われています。ごみ処理を有料化することについて、あなたはどのように考えますか。最も近いもの1つに✓を付けてください。

- 1 ごみの排出量の多少に応じて負担も増減するため、推進すべき
- 2 ごみの減量及び資源化が期待できるため、推進すべき
- 3 ごみ処理施設の更新や適正なごみ処理を継続するため、やむを得ない
- 4 ごみ処理以外の行政サービスを充実させるため、やむを得ない
- 5 家庭の負担が小さく済むのなら、有料化してもよい
- 6 ごみ処理の経費は、今までどおり税金でまかなうべき
- 7 その他（ ）
- 8 分からない

【全体】

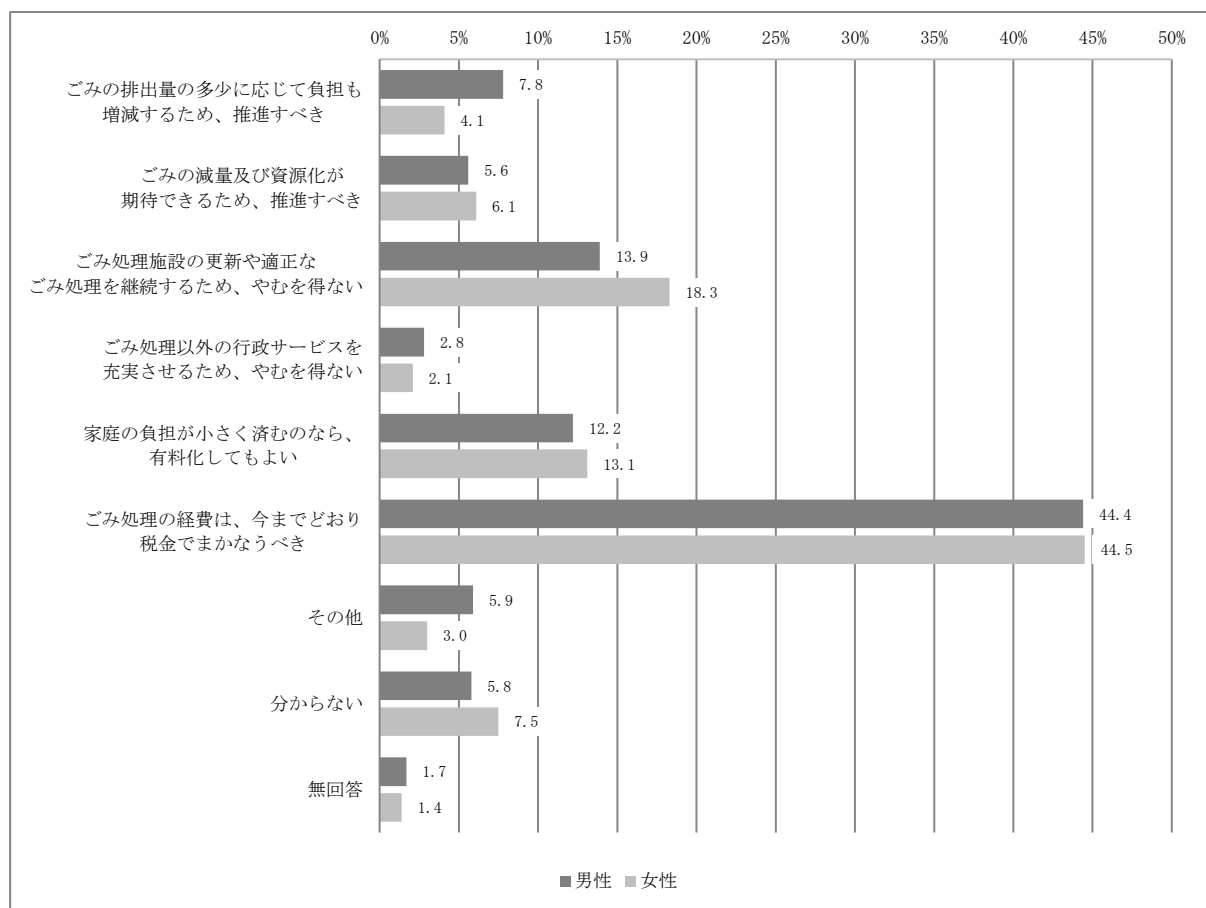


【参考】平成27年度市民意識調査



「ごみ処理の経費は、今までどおり税金でまかなうべき」が44.5%と前回調査（平成27年度）の49.7%から 5.2ポイント下降したが最も高かった。条件付きを含む有料化を「推進すべき」「やむを得ない」「有料化してもよい」（選択肢1～5）の合計は43.1%と前回調査の38.0%から 5.1ポイント上昇したが、ごみ処理に対する負担を求めない傾向が続いていると考えられる。

【性別】



条件付きを含む有料化を「推進すべき」「やむを得ない」「有料化してもよい」（選択肢1～5）の合計は、男性が42.3%、女性が43.7%であり、性別による大きな差は見られなかった。

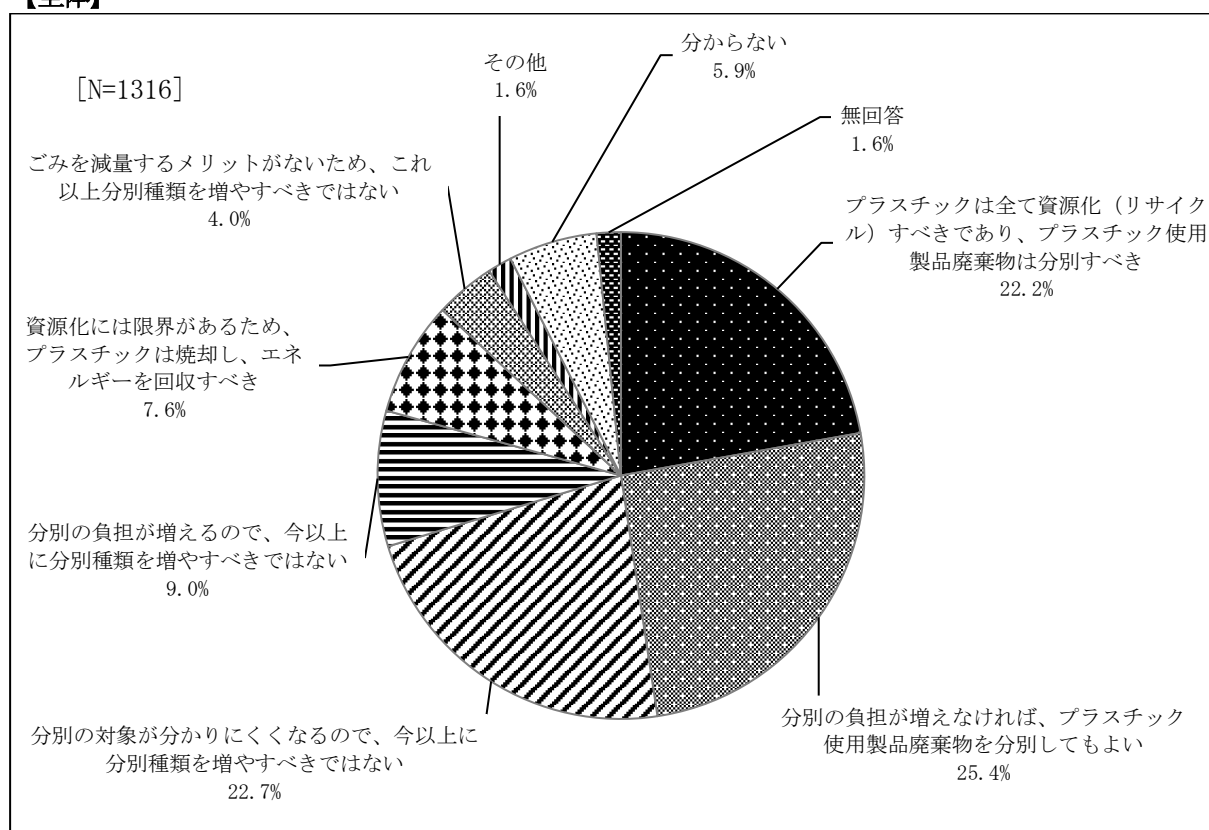
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	ごみの排出量の多少に応じて負担も増減するため、推進すべき	ごみの減量及び資源化が期待できるため、推進すべき	ごみ処理施設の更新や適正なごみ処理を継続するため、やむを得ない	ごみ処理以外の行政サービスを充実させるため、やむを得ない	家庭の負担が小さく済むのなら、有料化してもよい	ごみ処理の経費は、今までどおり税金でまかなうべき	その他	分らない	無回答
全体		1316	76	77	214	32	167	585	57	88	20
性別	男	606	47	34	84	17	74	269	36	35	10
	女	710	29	43	130	15	93	316	21	53	10
年代	18～19歳	23	0	4	5	0	4	4	0	6	0
	20～29歳	89	3	5	17	1	13	41	4	5	0
	30～39歳	116	6	5	19	5	17	51	5	7	1
	40～49歳	200	13	9	29	10	31	83	14	11	0
	50～59歳	215	12	7	47	2	27	96	12	11	1
	60～69歳	275	10	18	44	6	27	139	11	17	3
	70歳以上	398	32	29	53	8	48	171	11	31	15
地区	河北	411	30	21	63	11	58	176	16	30	6
	河南	185	9	10	34	3	21	84	9	10	5
	盛南	186	9	13	29	5	26	86	7	11	0
	厨川	278	17	23	38	8	37	111	14	24	6
	都南	214	9	8	44	4	20	105	11	11	2
	玉山	42	2	2	6	1	5	23	0	2	1

問4 国では、容器包装廃棄物（「プラ」マークの記載があるもの）以外のプラスチック使用製品廃棄物の分別収集を推進していますが、市では、不燃ごみ（燃えないごみ）として収集しています。あなたは、プラスチック使用製品廃棄物を分別することについてどう考えますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

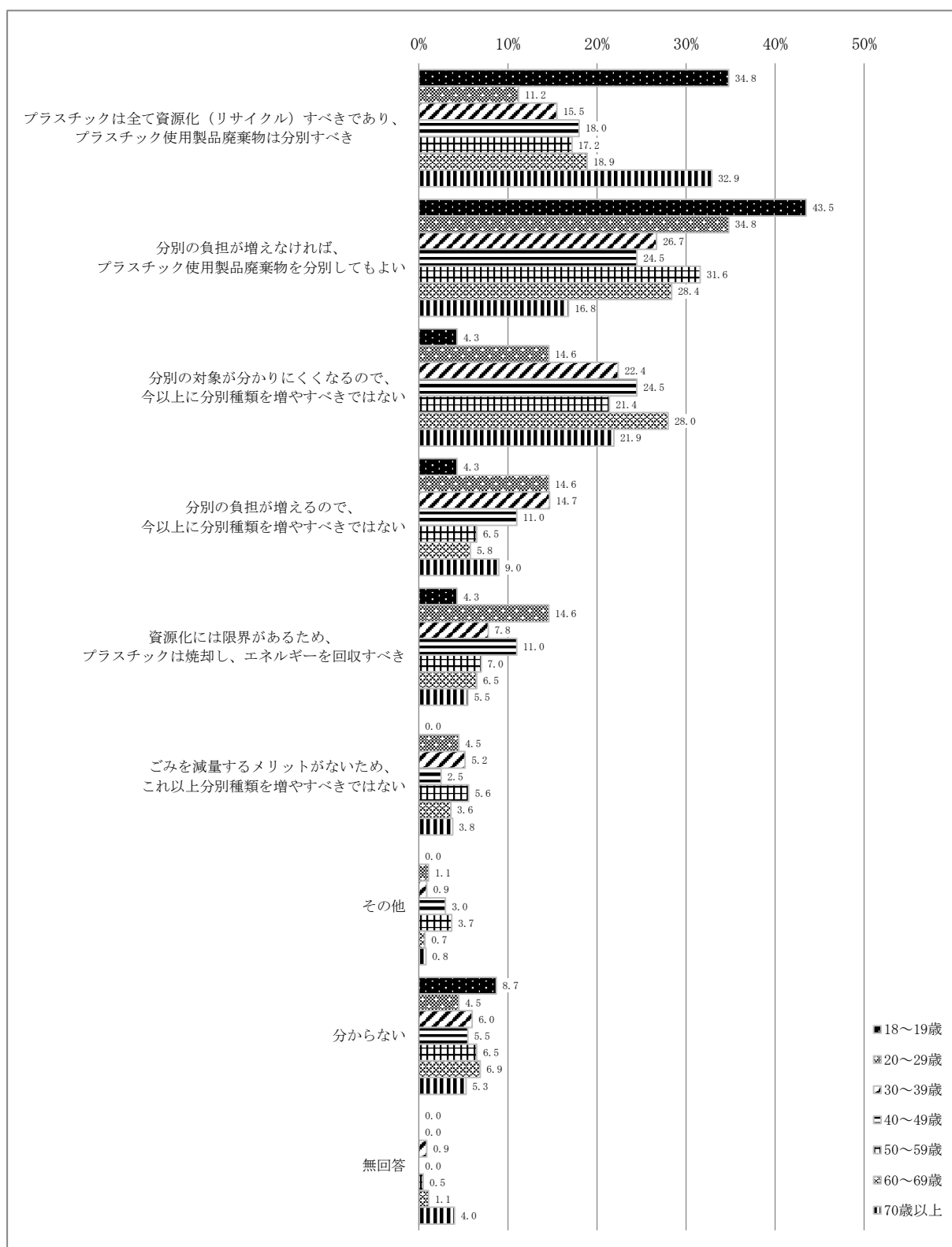
- 1 プラスチックは全て資源化（リサイクル）すべきであり、プラスチック使用製品廃棄物は分別すべき
- 2 分別の負担が増えなければ、プラスチック使用製品廃棄物を分別してもよい
- 3 分別の対象が分かりにくくなるので、今以上に分別種類を増やすべきではない
- 4 分別の負担が増えるので、今以上に分別種類を増やすべきではない
- 5 資源化には限界があるため、プラスチックは焼却し、エネルギーを回収すべき
- 6 ごみを減量するメリットがないため、これ以上分別種類を増やすべきではない
- 7 その他（ ）
- 8 分からない

【全体】



「分別すべき」「負担が増えなければ分別してもよい」（選択肢1・2）のいずれかを選択した割合が47.6%であることから、プラスチック製容器包装の分別収集が浸透しているほか、国のプラスチック製買物袋有料化の開始により、プラスチック資源を有効活用しようとする考えが広まっていると考えられる。

【年代別】



「分別すべき」（選択肢１）との回答が、10代が34.8%、70代以上が32.9%と高く、他の年代は11.2%～18.9%と全体の22.2%を下回った一方で、「負担が増えなければ分別してもよい」（選択肢２）が10代、20代、30代、50代及び60代で全体の25.4%を上回った。

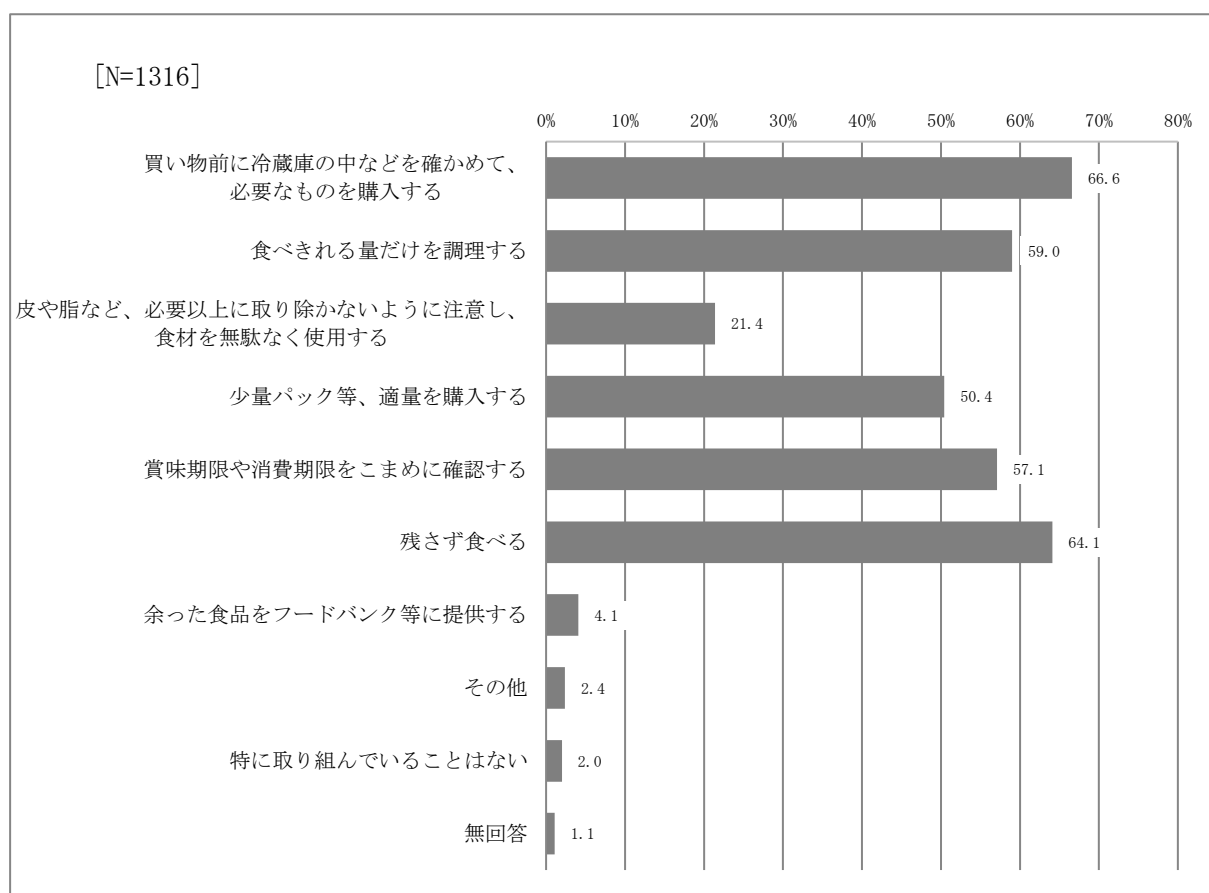
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	プラスチックは全て資源化（リサイクル）すべきであり、プラスチック使用製品廃棄物は分別すべき	分別の負担が増えなければ、プラスチック使用製品廃棄物を分別してもよい	分別の対象が分かりにくくなるので、今以上に分別種類を増やすべきではない	分別の負担が増えるので、今以上に分別種類を増やすべきではない	資源化には限界があるため、プラスチックは焼却し、エネルギーを回収すべき	ごみを減量するメリットがないため、これ以上分別種類を増やすべきではない	その他	分からない	無回答
	全体	1316	292	334	299	119	100	52	21	78	21
性別	男	606	137	147	137	42	59	29	12	32	11
	女	710	155	187	162	77	41	23	9	46	10
年代	18～19歳	23	8	10	1	1	1	0	0	2	0
	20～29歳	89	10	31	13	13	13	4	1	4	0
	30～39歳	116	18	31	26	17	9	6	1	7	1
	40～49歳	200	36	49	49	22	22	5	6	11	0
	50～59歳	215	37	68	46	14	15	12	8	14	1
	60～69歳	275	52	78	77	16	18	10	2	19	3
	70歳以上	398	131	67	87	36	22	15	3	21	16
地区	河北	411	99	99	99	33	27	11	7	30	6
	河南	185	40	54	37	14	17	5	3	11	4
	盛南	186	36	60	37	19	12	7	4	11	0
	厨川	278	70	57	65	24	26	11	4	17	4
	都南	214	43	55	52	21	16	11	3	8	5
	玉山	42	4	9	9	8	2	7	0	1	2

問5 あなたは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにすること、いわゆる食品ロスの削減を図るため、日頃どのようなことを心がけていますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

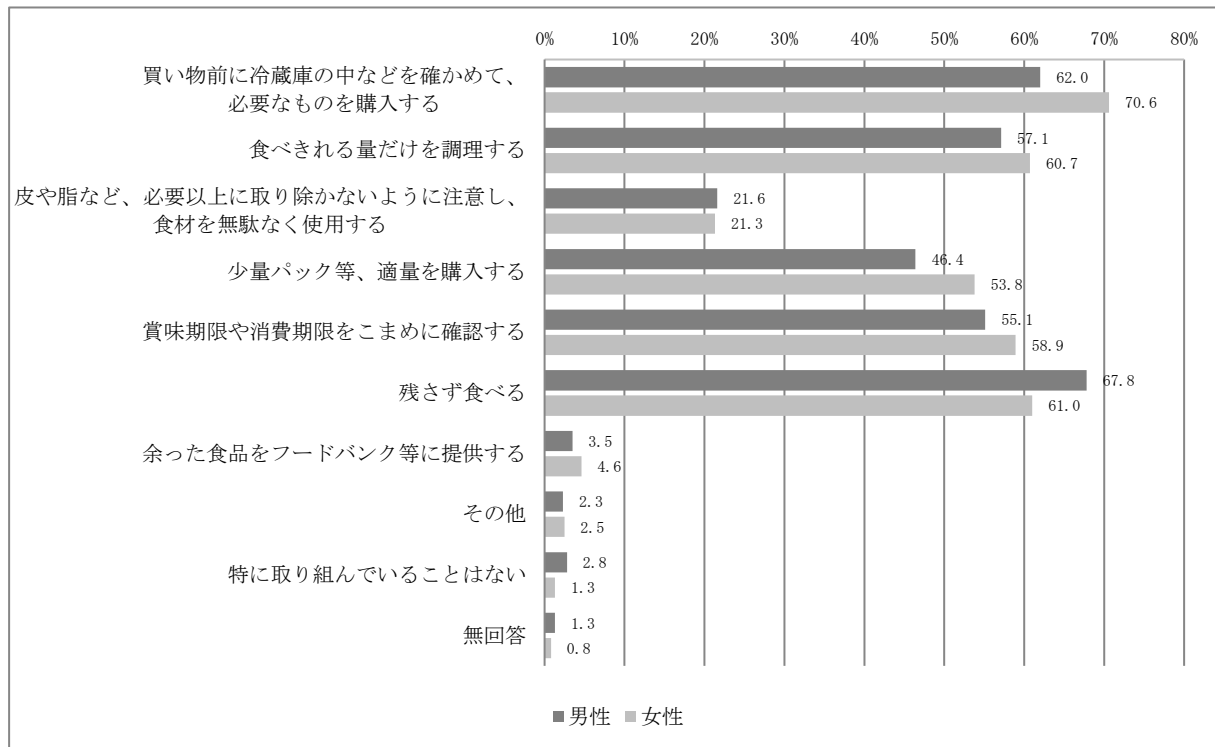
- 1 買い物前に冷蔵庫の中などを確かめて、必要なものを購入する
- 2 食べきれる量だけを調理する
- 3 皮や脂など、必要以上に取り除かないように注意し、食材を無駄なく使用する
- 4 少量パック等、適量を購入する
- 5 賞味期限や消費期限をこまめに確認する
- 6 残さず食べる
- 7 余った食品をフードバンク等に提供する
- 8 その他（ ）
- 9 特に取り組んでいることはない

【全体】



「買い物前に冷蔵庫の中などを確かめて、必要なものを購入する」が66.6%、「残さず食べる」が64.1%となっており、市民が食品ロス削減に向けて取り組んでいることが分かる。このことが、盛岡市一般廃棄物処理基本計画に掲げる数値目標の「1人1日当たりの家庭ごみ排出量（資源を除く。）」が令和8年度目標 443 g に対して令和6年度実績 444 g と結果に結び付いていると考えられる。

【性別】



「買い物前に冷蔵庫の中などを確かめて、必要なものを購入する」「少量パック等、適量を購入する」が男性よりも女性の方がそれぞれ 8.6ポイント、7.4ポイント高かったが、性別による回答差は 0.3ポイント～ 8.6ポイント以内であり、大きな差は見られなかった。このことから、食品ロス削減の取組は性別に関係なく浸透しているものと考えられる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

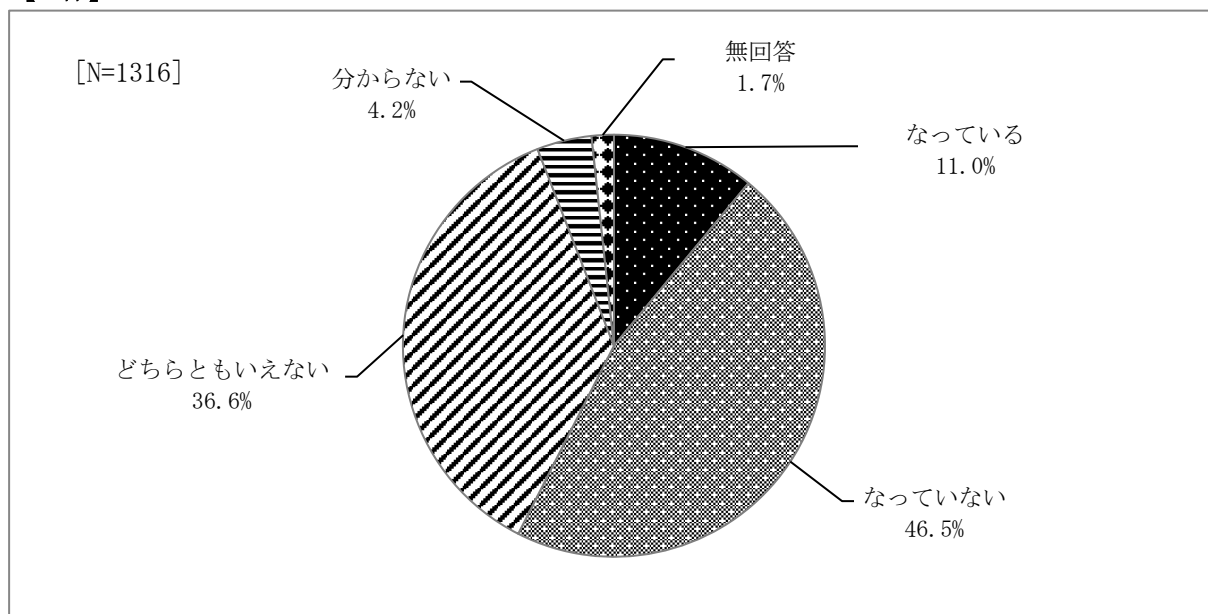
		実数（人）	買い物前に冷蔵庫の中などを確かめて、必要なものを購入する	食べきれる量だけを調理する	皮や脂など、必要以上に取り除かないように注意し、食材を無駄なく使用する	少量パック等、適量を購入する	賞味期限や消費期限をこまめに確認する	残さず食べる	余った食品をフードバンク等に提供する	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体		1316	877	777	282	663	752	844	54	32	26	14
性別	男	606	376	346	131	281	334	411	21	14	17	8
	女	710	501	431	151	382	418	433	33	18	9	6
年代	18～19歳	23	7	9	5	8	13	18	1	0	2	0
	20～29歳	89	58	50	15	42	50	61	1	0	5	0
	30～39歳	116	73	64	21	42	77	80	4	6	3	1
	40～49歳	200	119	105	23	75	91	139	11	6	6	1
	50～59歳	215	146	134	38	104	115	145	8	5	2	1
	60～69歳	275	192	170	63	147	155	180	12	5	7	2
	70歳以上	398	282	245	117	245	251	221	17	10	1	9
地区	河北	411	281	251	91	218	242	269	21	12	10	6
	河南	185	122	114	43	86	94	114	4	5	2	4
	盛南	186	126	100	34	78	110	113	10	6	1	0
	厨川	278	184	159	58	152	161	181	12	5	8	2
	都南	214	140	126	48	108	124	140	7	3	4	1
	玉山	42	24	27	8	21	21	27	0	1	1	1

《テーマ2 男女共同参画・女性活躍推進について》

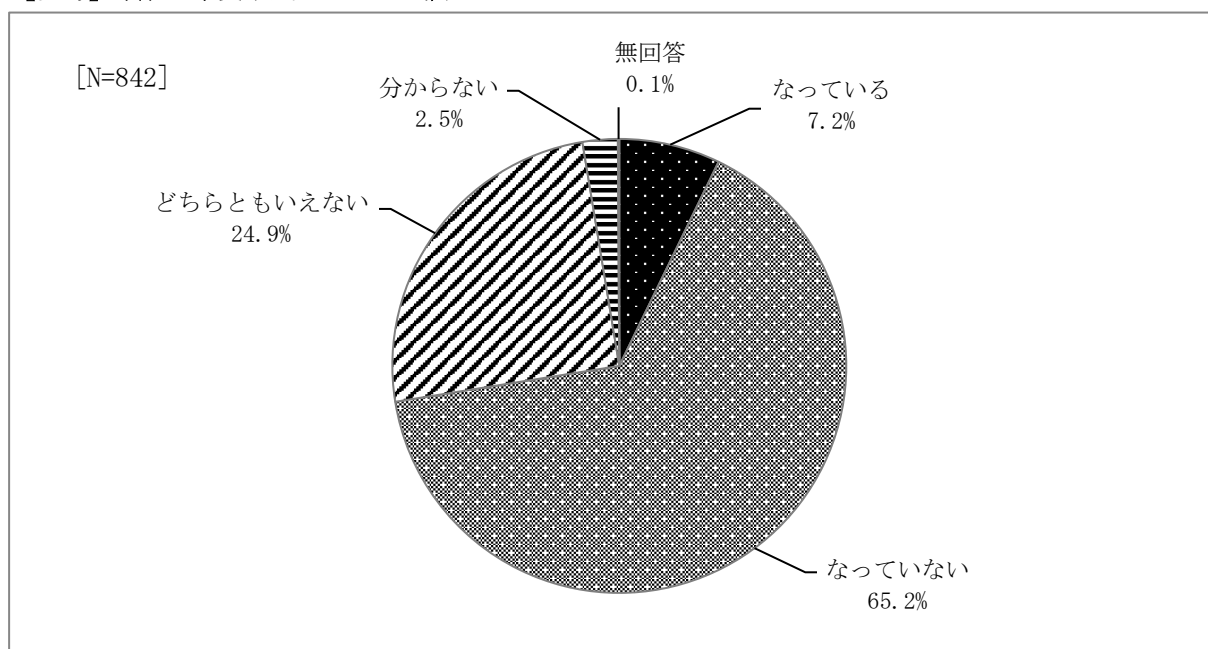
問6 日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等」とされていますが、社会全体で見た場合、あなたは、男女の地位は平等になっていると思いますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- | | |
|----------|-------------|
| 1 なっている | 3 どちらともいえない |
| 2 なっていない | 4 分からない |

【全体】

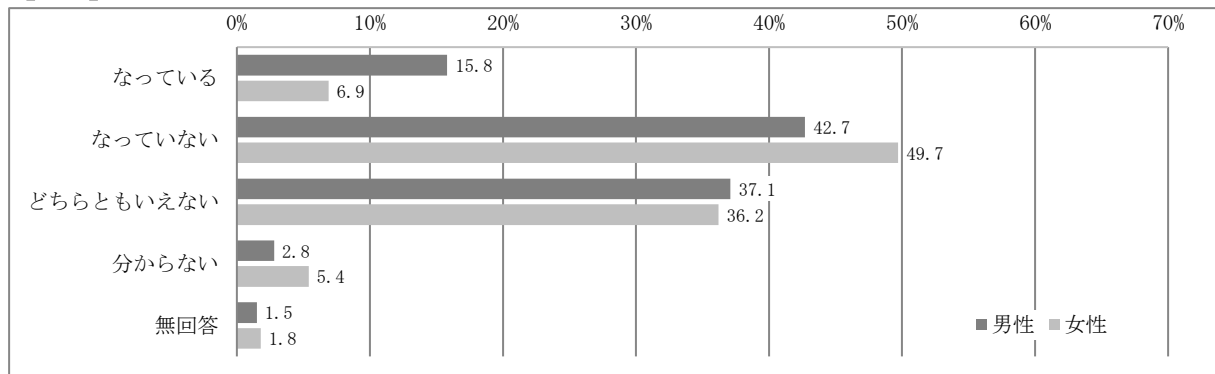


【参考】平成30年度市民アンケート調査

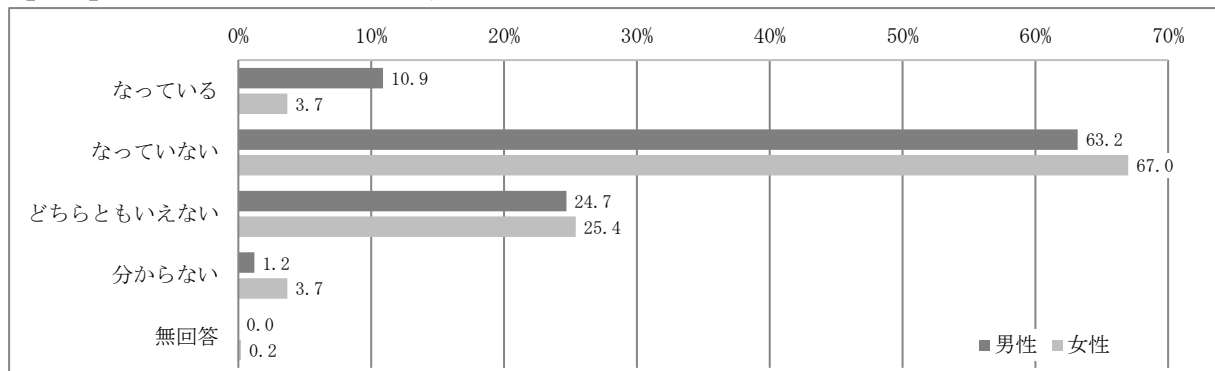


「なっていない」と回答した人の割合が46.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が36.6%、「なっている」は11.0%にとどまった。前回調査（平成30年）では「なっていない」が65.2%であったことから、一定の改善は見られるものの、依然として多くの市民が男女の地位に不平等を感じていることがうかがえる。

【性別】



【参考】平成30年度市民アンケート調査



男性の15.8%が「なっている」と回答したのに対し、女性は 6.9%と低く、男女間で認識の差が見られる。前回調査（平成30年）では、男性10.9%、女性 3.7%であったことから、いずれも上昇傾向にあるものの、現状を肯定的に捉えている人は男女ともに依然として少ない。

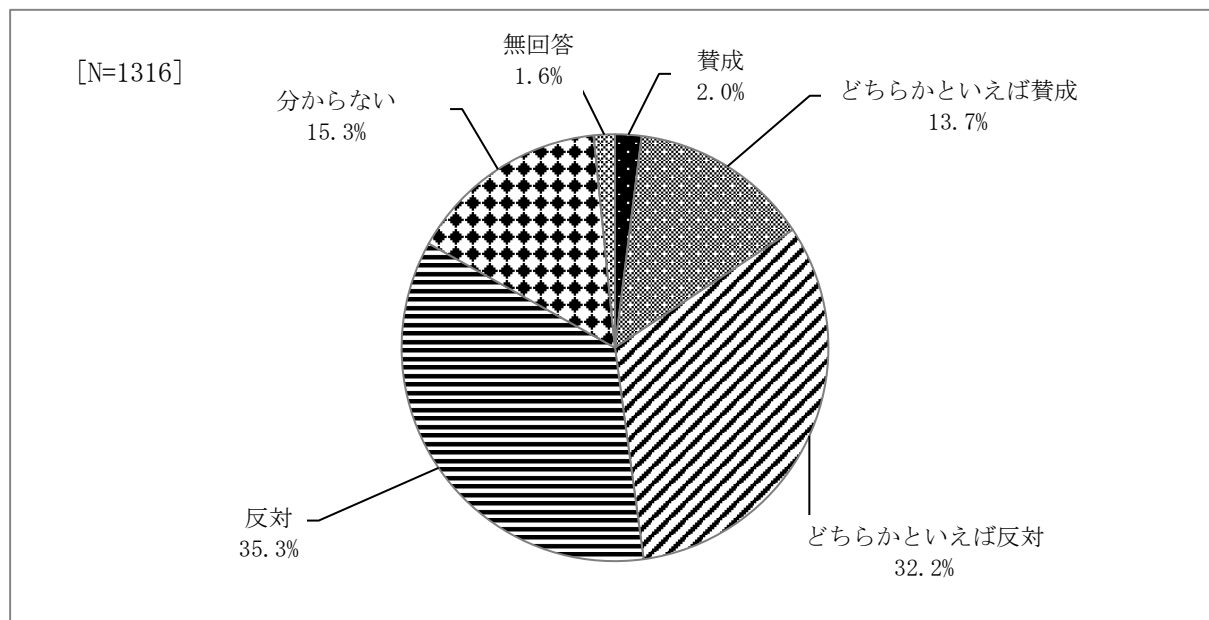
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	な っ て い る	な っ て い な い	ど ち ら と も い え な い	分 か ら な い	無 回 答
全体		1316	145	612	482	55	22
性別	男	606	96	259	225	17	9
	女	710	49	353	257	38	13
年代	18～19歳	23	0	14	8	1	0
	20～29歳	89	10	41	33	5	0
	30～39歳	116	12	63	39	1	1
	40～49歳	200	21	102	72	5	0
	50～59歳	215	24	82	94	13	2
	60～69歳	275	30	131	104	7	3
	70歳以上	398	48	179	132	23	16
地区	河北	411	43	201	146	14	7
	河南	185	26	90	59	5	5
	盛南	186	24	84	67	9	2
	厨川	278	26	119	114	14	5
	都南	214	19	105	79	9	2
	玉山	42	7	13	17	4	1

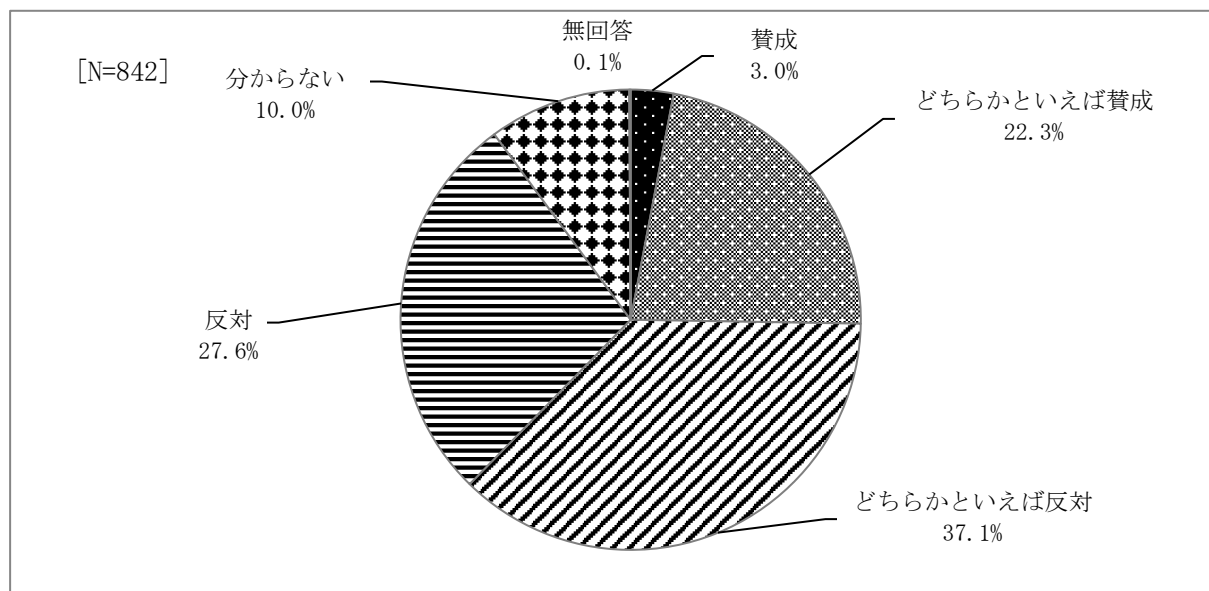
問7 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。当てはまるもの**1つに✓**を付けてください。

- | | |
|--------------|---------|
| 1 賛成 | 4 反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 5 分からない |
| 3 どちらかといえば反対 | |

【全体】

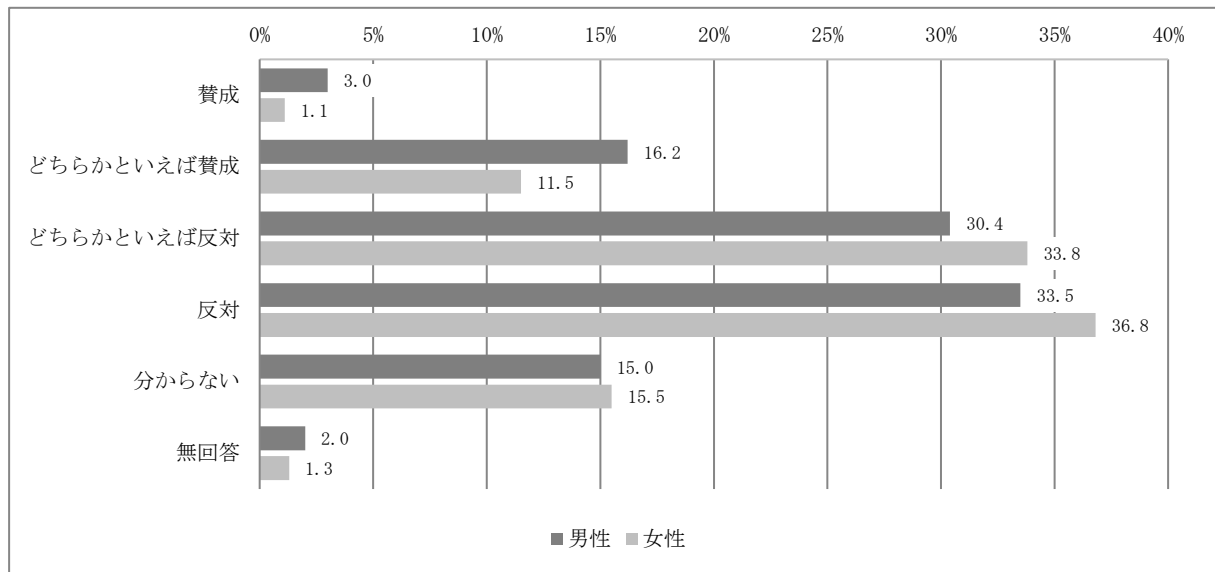


【参考】平成30年度市民アンケート調査



「反対」が35.3%、次いで「どちらかといえば反対」が32.2%で、合計すると67.5%が固定的性別役割分担意識に対する否定的な意見を示した。前回調査（平成30年度市民アンケート）では、「反対」が27.6%、「どちらかといえば反対」が37.1%で、合計すると64.7%であったことから、否定的意見の割合はわずかに上昇しており、市民の意識は少しずつ変化しつつある。

【性別】



「反対」「どちらかといえば反対」を合計した割合は、女性が70.6%で、男性の63.9%を上回っている。

【性別、年代別、地区別の回答数】

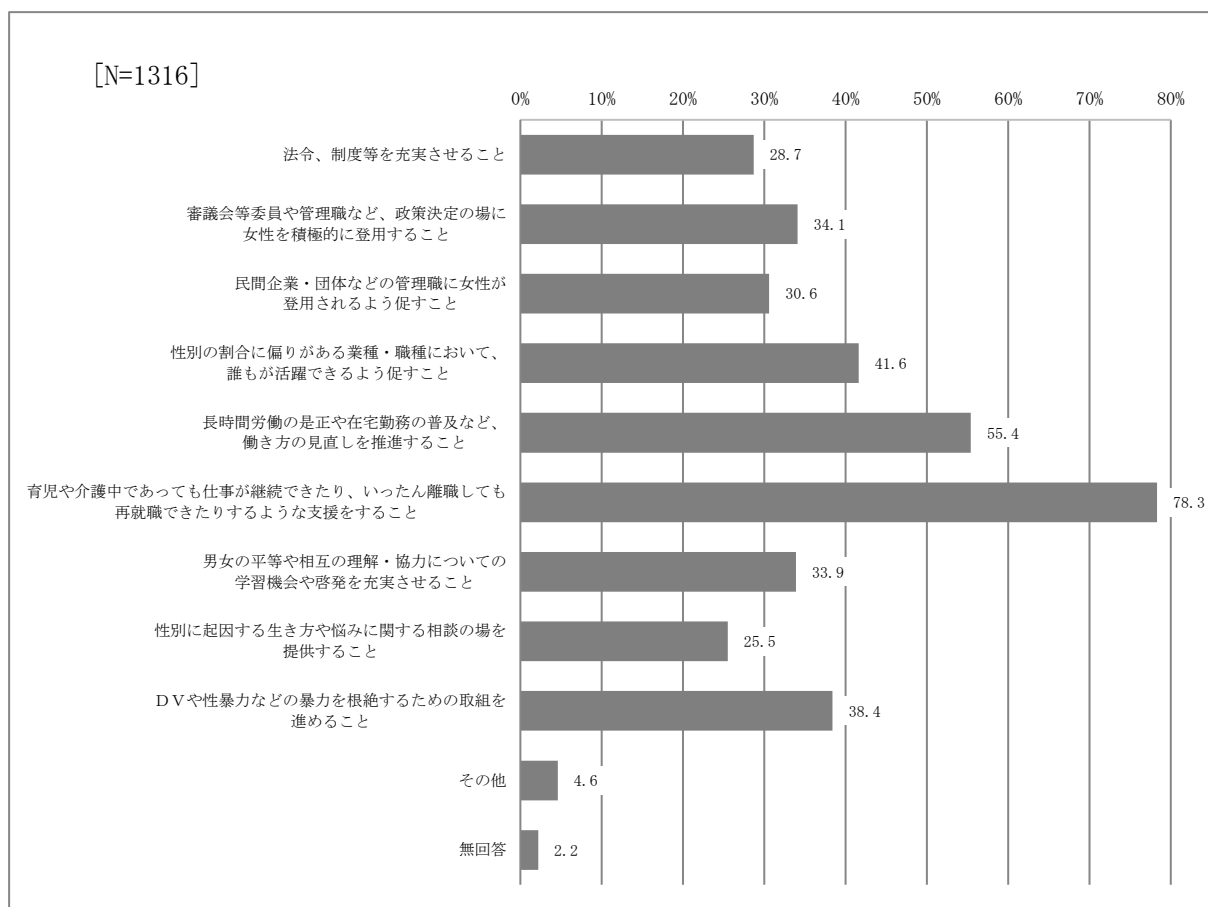
		実数 (人)	賛成	どちらか といえば賛成	どちらか といえば反対	反対	分からない	無回答
全体		1316	26	180	424	464	201	21
性別	男	606	18	98	184	203	91	12
	女	710	8	82	240	261	110	9
年代	18～19歳	23	0	2	6	13	2	0
	20～29歳	89	0	9	28	42	10	0
	30～39歳	116	5	19	32	40	19	1
	40～49歳	200	2	33	55	79	30	1
	50～59歳	215	5	26	69	66	47	2
	60～69歳	275	4	30	93	102	43	3
	70歳以上	398	10	61	141	122	50	14
地区	河北	411	7	59	125	151	61	8
	河南	185	3	18	58	70	30	6
	盛南	186	7	28	56	66	28	1
	厨川	278	6	42	88	86	52	4
	都南	214	2	28	80	78	25	1
	玉山	42	1	5	17	13	5	1

問8 国は、男女共同参画社会基本法において「少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、緊要な課題となっている」としています。

あなたは、男女共同参画社会を実現するために、今後、市がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

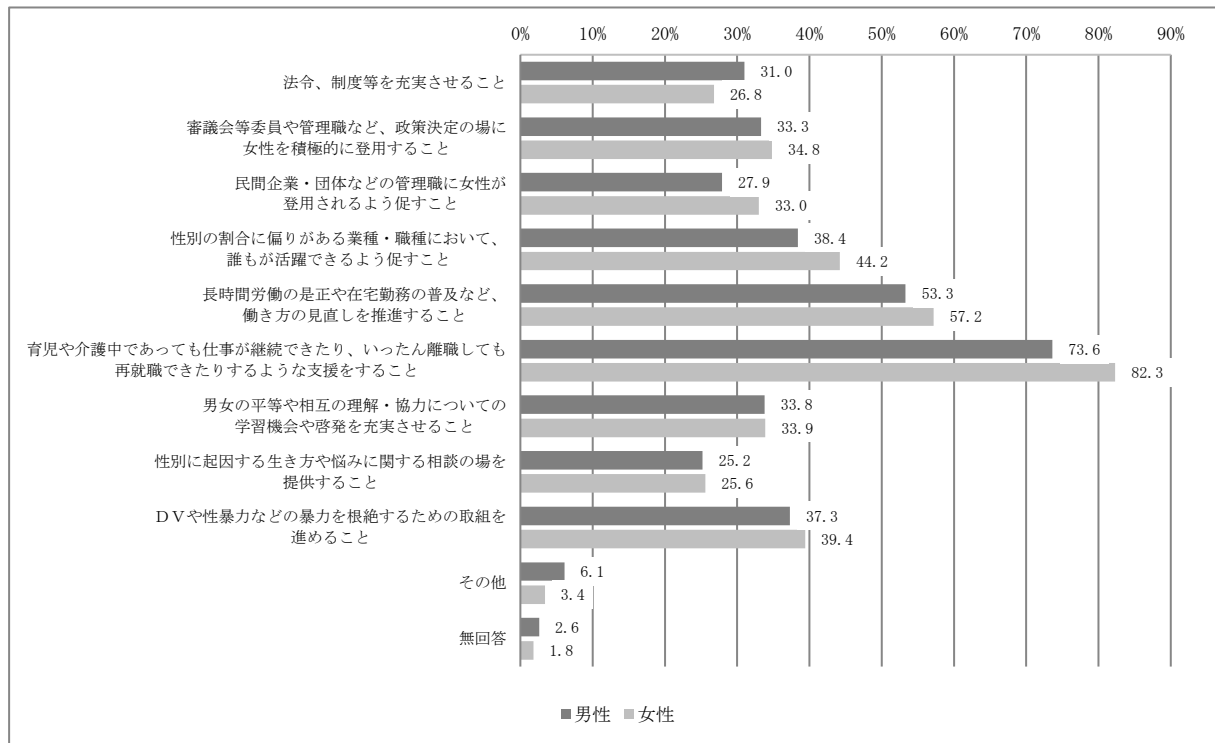
- 1 法令、制度等を充実させること
- 2 審議会等委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用すること
- 3 民間企業・団体などの管理職に女性が登用されるよう促すこと
- 4 性別の割合に偏りがある業種・職種において、誰もが活躍できるよう促すこと
- 5 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを推進すること
- 6 育児や介護中であっても仕事が継続できたり、いったん離職しても再就職できたりするような支援をすること
- 7 男女の平等や相互の理解・協力についての学習機会や啓発を充実させること
- 8 性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場を提供すること
- 9 DVや性暴力などの暴力を根絶するための取組を進めること
- 10 その他（ ）

【全体】



「育児や介護中であっても仕事が継続できたり、いったん離職しても再就職できたりするような支援をすること」の割合が78.3%と最も高く、次いで「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを推進すること」が55.4%となった。市民の多くが家庭と仕事の両立支援を求めており、制度の整備よりも、より実践的な支援を重視する傾向がうかがえる。

【性別】



「育児や介護中であっても仕事が継続できたり、いったん離職しても再就職できたりするような支援をすること」が女性82.3%、男性73.6%と男女ともに高く、特に女性にとっては重要な課題であることがうかがえる。また、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを推進すること」も男女ともに50%を超えており、働き方改革への期待も強いと考えられる。

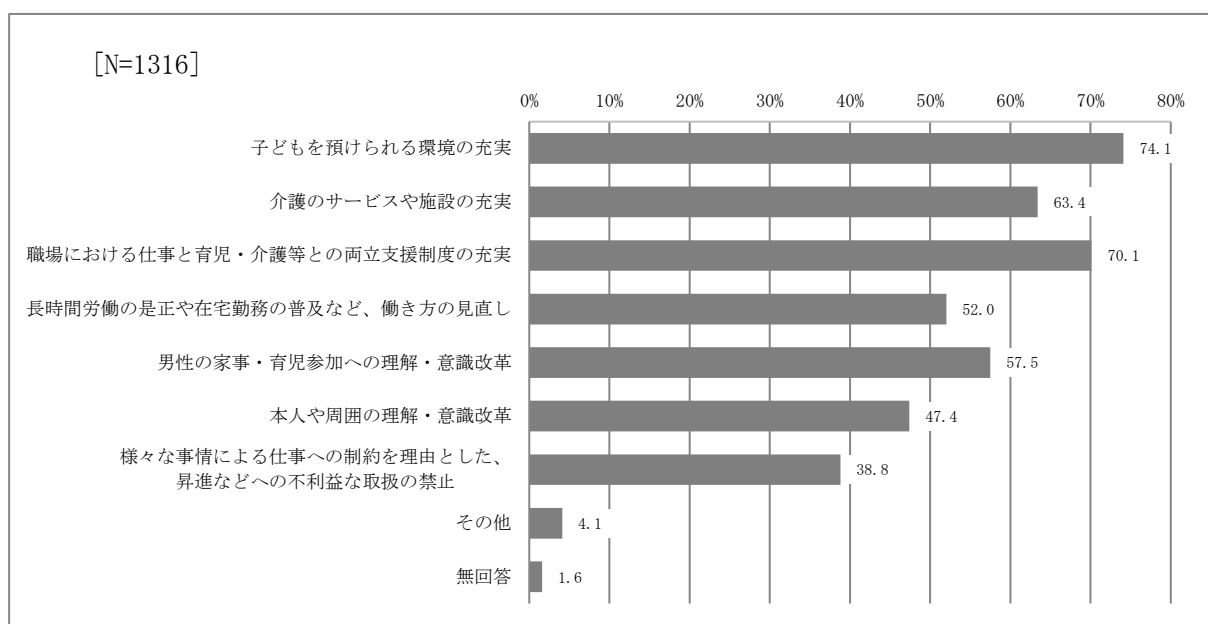
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	法令、 制度等を充実させること	審議会等委員や管理職など、 政策決定の場に女性を積極的に登用すること	民間企業・団体などの管理職に女性が登用されるよう促すこと	性別の割合に偏りがある業種・職種において、 誰もが活躍できるように促すこと	長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、 働き方の見直しを推進すること	育児や介護中であっても仕事が継続できたり、 再就職できたりするような支援をすること	男女の平等や相互の理解・協力についての学習機会や啓発を充実させること	性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場を提供すること	DVや性暴力などの暴力を根絶するための取組を進めること	その他	無回答
全体		1316	378	449	403	547	729	1030	446	335	506	61	29
性別	男	606	188	202	169	233	323	446	205	153	226	37	16
	女	710	190	247	234	314	406	584	241	182	280	24	13
年代	18～19歳	23	6	7	4	9	15	20	10	8	9	0	0
	20～29歳	89	22	20	23	38	61	68	35	26	31	1	0
	30～39歳	116	34	24	20	42	83	86	33	26	37	9	2
	40～49歳	200	39	44	53	72	104	152	57	39	64	18	0
	50～59歳	215	46	57	52	84	113	162	58	46	67	17	3
	60～69歳	275	90	105	80	114	141	218	95	72	113	12	4
	70歳以上	398	141	192	171	188	212	324	158	118	185	4	20
地区	河北	411	139	148	134	172	236	340	151	107	164	14	10
	河南	185	47	67	59	80	99	135	70	50	75	9	9
	盛南	186	39	50	46	75	106	137	51	48	66	14	1
	厨川	278	82	93	87	120	144	205	86	72	104	17	6
	都南	214	66	78	66	84	120	180	80	47	75	6	1
	玉山	42	5	13	11	16	24	33	8	11	22	1	2

問9 あなたは、女性が生き生きと働き続けるために、家庭・社会・職場ではどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

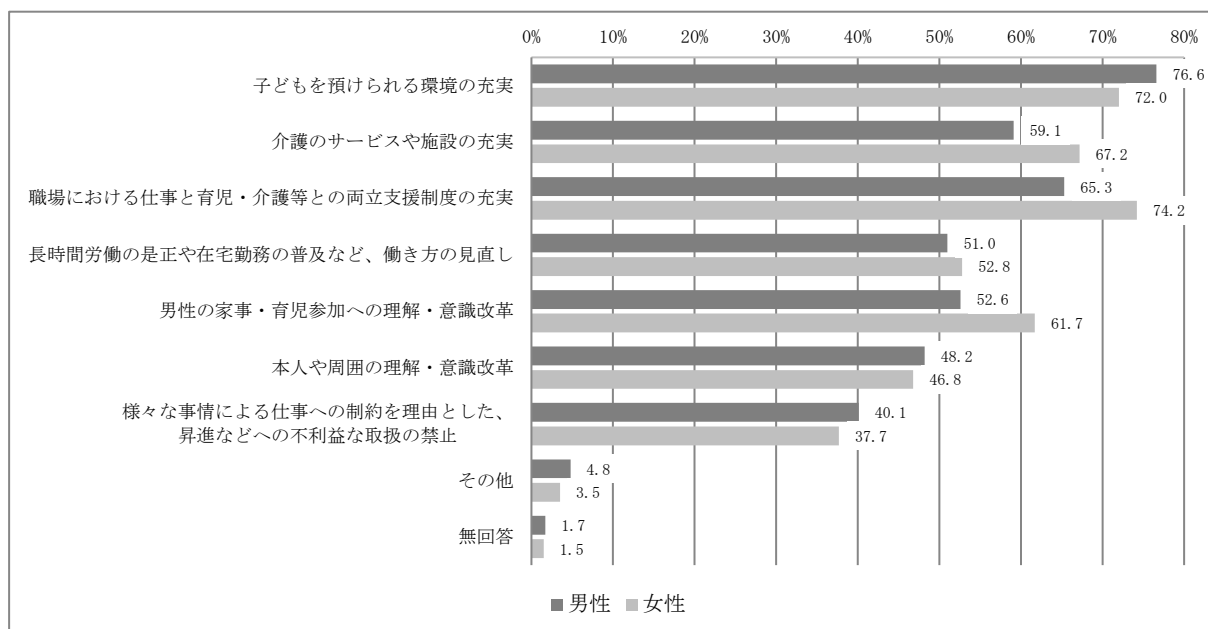
- 1 子どもを預けられる環境の充実
- 2 介護のサービスや施設の充実
- 3 職場における仕事と育児・介護等との両立支援制度の充実
- 4 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直し
- 5 男性の家事・育児参加への理解・意識改革
- 6 本人や周囲の理解・意識改革
- 7 様々な事情による仕事への制約を理由とした、昇進などへの不利益な取扱の禁止
- 8 その他（ ）

【全体】



「子どもを預けられる環境の充実」が74.1%と最も高く、次いで「職場における仕事と育児・介護等との両立支援制度の充実」が70.1%となった。女性が就労を継続するためには、家庭との両立を支える支援が不可欠であることがうかがえる。

【性別】



「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」は、女性が61.7%、男性が52.6%であり、男性の家庭への積極的な参画を女性の方がより強く求めている。また、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直し」は男女ともに50%を超えており、職場での働き方改革は、男性の家庭参画を促す上でも重要な課題である。

【性別、年代別、地区別の回答数】

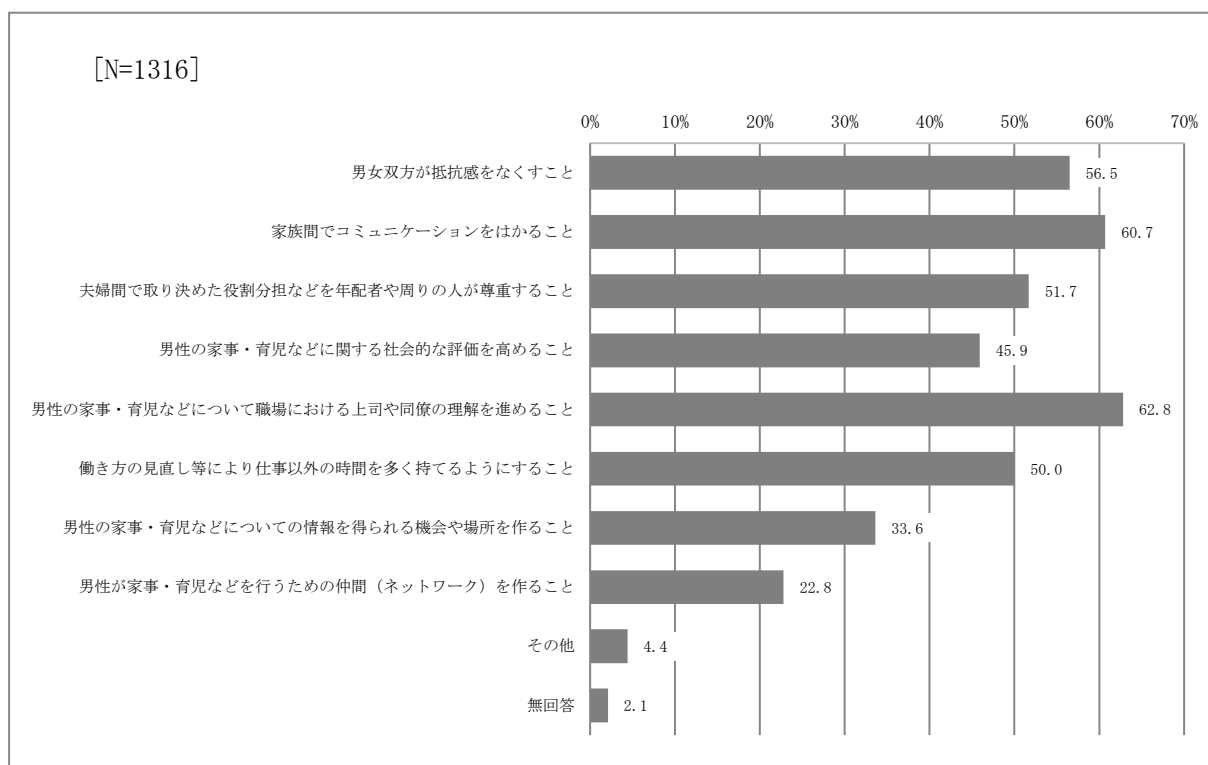
		実数 (人)	子どもを預けられる環境の充実	介護のサービスや施設の充実	職場における仕事と育児・介護等との両立支援制度の充実	長時間労働の是正や在宅勤務の普及など、働き方の見直し	男性の家事・育児参加への理解・意識改革	本人や周囲の理解・意識改革	様々な事情による仕事への制約を理由とした、昇進などへの不利益な取扱の禁止	その他	無回答
全体		1316	975	835	923	684	757	624	511	54	21
性別	男	606	464	358	396	309	319	292	243	29	10
	女	710	511	477	527	375	438	332	268	25	11
年代	18～19歳	23	19	10	19	9	18	10	9	0	0
	20～29歳	89	68	45	57	60	52	36	42	2	0
	30～39歳	116	83	58	76	75	68	52	35	4	1
	40～49歳	200	138	108	133	98	115	94	70	18	1
	50～59歳	215	157	149	138	100	106	103	76	11	1
	60～69歳	275	202	183	201	139	160	137	110	8	3
	70歳以上	398	308	282	299	203	238	192	169	11	15
地区	河北	411	310	269	301	220	251	202	168	13	8
	河南	185	139	119	112	98	109	82	71	9	5
	盛南	186	137	115	129	94	101	87	65	10	0
	厨川	278	192	165	196	131	152	122	106	15	5
	都南	214	165	145	153	120	122	112	88	6	2
	玉山	42	32	22	32	21	22	19	13	1	1

問 10 「男性が外で働き、女性は家庭を守る」というフレーズに代表される、性別によって役割を決めつけるような考え方を「**固定的役割分担意識**」といい、このような考え方が女性の社会進出を阻んできた一方で、男性の生き方を画一的なものにしてきたともいわれています。

男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に今よりも積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

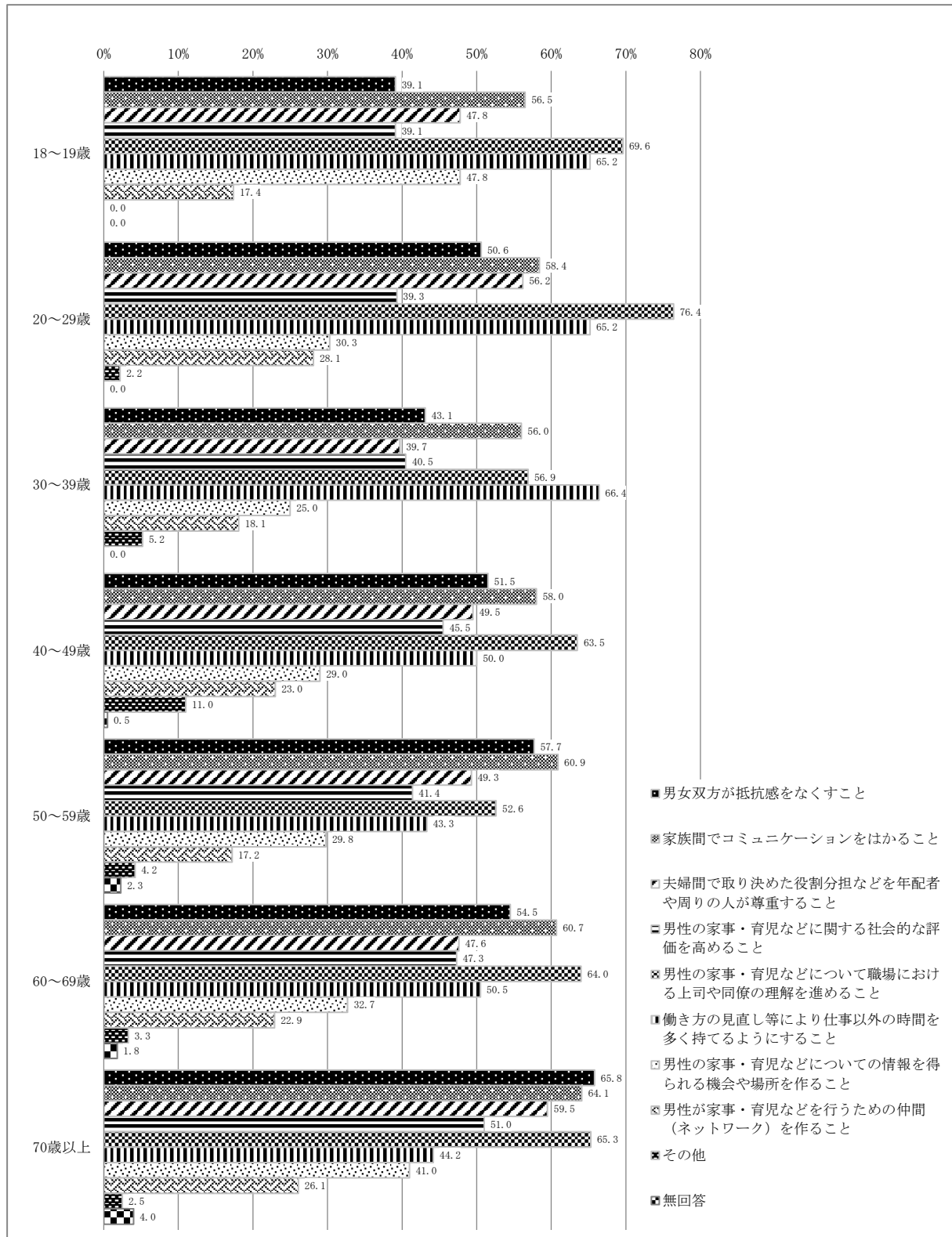
- 1 男女双方が抵抗感をなくすこと
- 2 家族間でコミュニケーションをはかること
- 3 夫婦間で取り決めた役割分担などを年配者や周りの人が尊重すること
- 4 男性の家事・育児などに関する社会的な評価を高めること
- 5 男性の家事・育児などについて職場における上司や同僚の理解を進めること
- 6 働き方の見直し等により仕事以外の時間を多く持てるようにすること
- 7 男性の家事・育児などについての情報を得られる機会や場所を作ること
- 8 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）を作ること
- 9 その他（ ）

【全体】



「男性の家事・育児などについて職場における上司や同僚の理解を進めること」が62.8%で最も割合が高く、「家族間でコミュニケーションをはかること」が60.7%、「男女双方が抵抗感をなくすこと」が56.5%と続いた。職場環境の整備に加え、家庭や社会全体での意識改革の必要性を多くの人が感じていると考えられる。

【年代別】



20代では「男性の家事・育児などについて職場における上司や同僚の理解を進めること」が76.4%、10代では69.6%と、若年層ほど職場環境の改善を求める傾向が強い。70歳以上では「男女双方が抵抗感をなくすこと」が65.8%、「夫婦間で取り決めた役割分担などを年配者や周りの人が尊重すること」が59.5%と他の年代よりも高く、固定的性別役割分担意識の解消に前向きな姿勢が見られた。

【性別、年代別、地区別の回答数】

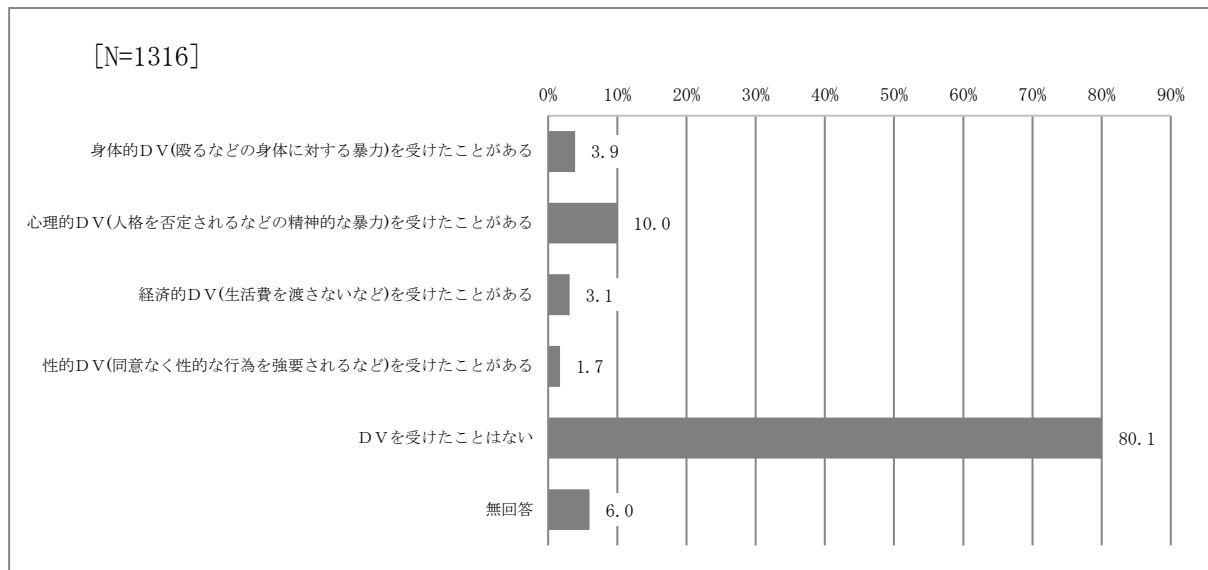
		実数（人）	男女双方が抵抗感をなくすこと	家族間でコミュニケーションをはかること	夫婦間で取り決めた役割分担などを年配者や周りの人が尊重すること	男性の家事・育児などに関する社会的な評価を高めること	男性の家事・育児などについて職場における上司や同僚の理解を進めること	働き方の見直し等により仕事以外の時間を多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについての情報を得られる機会や場所を作ること	男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）を作ること	その他	無回答
	全体	1316	743	799	680	604	826	658	442	300	58	27
性別	男	606	335	351	286	285	357	295	188	132	34	12
	女	710	408	448	394	319	469	363	254	168	24	15
年代	18～19歳	23	9	13	11	9	16	15	11	4	0	0
	20～29歳	89	45	52	50	35	68	58	27	25	2	0
	30～39歳	116	50	65	46	47	66	77	29	21	6	0
	40～49歳	200	103	116	99	91	127	100	58	46	22	1
	50～59歳	215	124	131	106	89	113	93	64	37	9	5
	60～69歳	275	150	167	131	130	176	139	90	63	9	5
	70歳以上	398	262	255	237	203	260	176	163	104	10	16
地区	河北	411	248	263	220	211	261	221	146	107	21	8
	河南	185	103	114	86	81	120	88	68	44	8	3
	盛南	186	99	102	94	72	107	82	59	36	14	1
	厨川	278	153	161	135	117	172	132	88	57	11	10
	都南	214	119	139	127	105	143	112	70	50	3	3
	玉山	42	21	20	18	18	23	23	11	6	1	2

問 11 DV（ドメスティック・バイオレンス）とは配偶者間（パートナー）や恋人など親しい間柄での暴力をいいます。あなたは配偶者や交際相手から暴力（DV）を受けたことがありますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

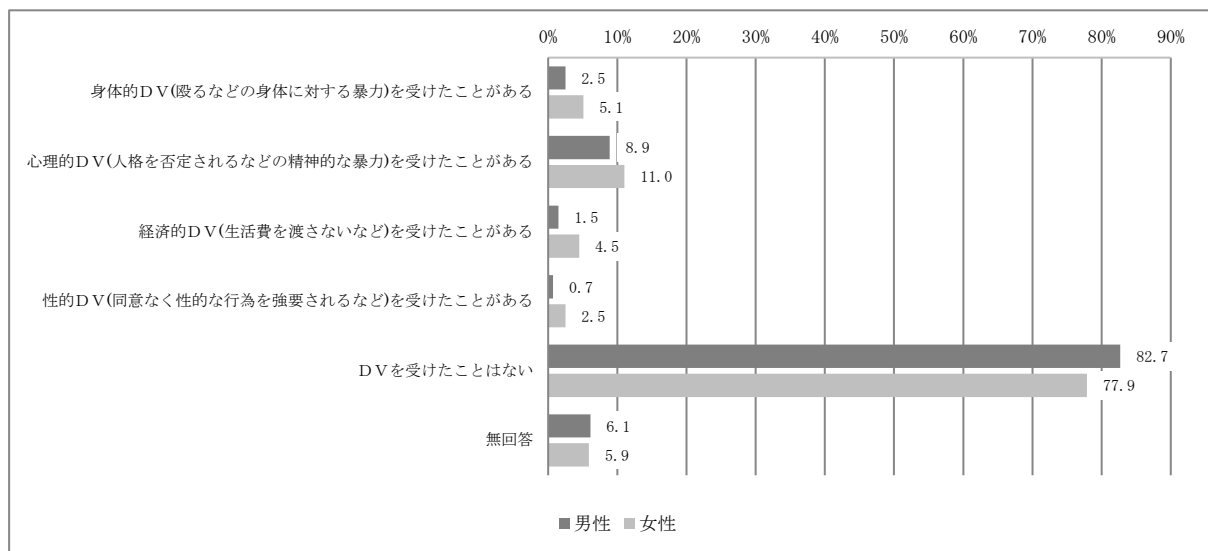
- 1 身体的DV(殴るなどの身体に対する暴力)を受けたことがある
- 2 心理的DV(人格を否定されるなどの精神的な暴力)を受けたことがある
- 3 経済的DV(生活費を渡さないなど)を受けたことがある
- 4 性的DV(同意なく性的な行為を強要されるなど)を受けたことがある
- 5 DVを受けたことはない … 問 14 へ

問 12 へ

【全体】



【性別】



DVを受けたことがある項目（選択肢1～4）の割合は女性の方が男性よりも高い。特に「心理的DV」の割合が男女ともに最も高く、DV被害の中心的な形態となっていることがうかがえる。

【全体を通して】

「DVを受けたことはない」の割合が80.1%で最も高かった一方で、「心理的DV」の経験者が10.0%、「身体的DV」 3.9%、「経済的DV」 3.1%、「性的DV」 1.7%と、何らかのDV被害を経験している人が一定数存在し、身体的なものに限らず、多様な形態のDVが存在していることが分かる結果となった。

【性別、年代別、地区別の回答数】

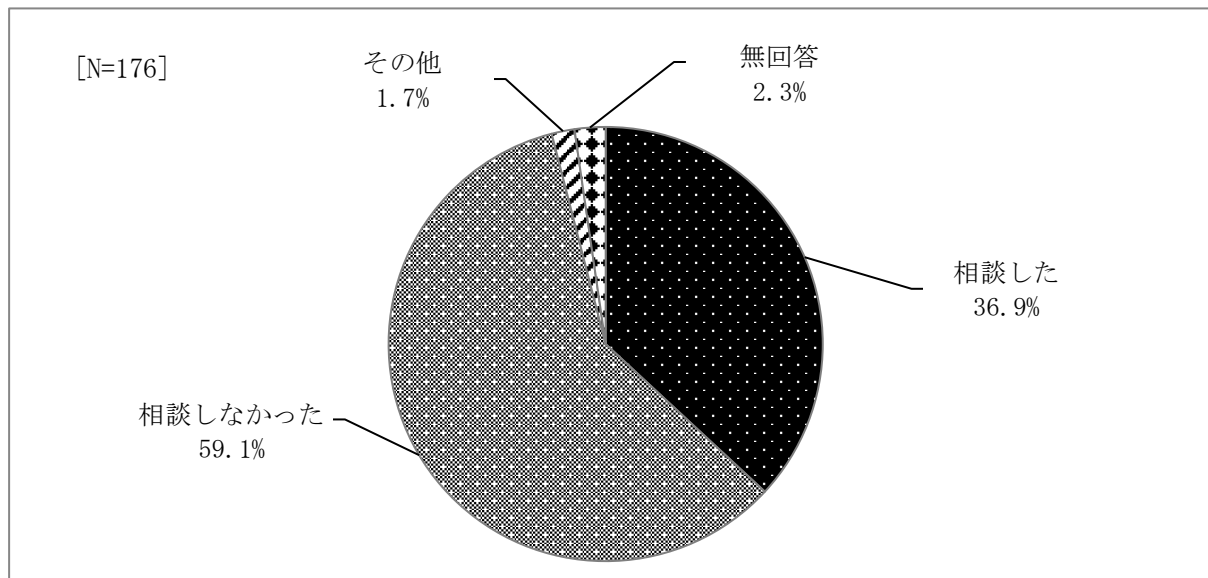
		実数（人）	身体的DV（殴るなどの身体に対する暴力）を受けたことがある	心理的DV（人格を否定されるなどの精神的な暴力）を受けたことがある	経済的DV（生活費を渡さないなど）を受けたことがある	性的DV（同意なく性的な行為を強要されるなど）を受けたことがある	DVを受けたことはない	無回答
全体		1316	51	132	41	22	1054	79
性別	男	606	15	54	9	4	501	37
	女	710	36	78	32	18	553	42
年代	18～19歳	23	0	0	0	0	22	0
	20～29歳	89	0	5	1	1	83	0
	30～39歳	116	5	13	3	1	99	0
	40～49歳	200	11	26	7	2	162	2
	50～59歳	215	9	20	7	4	181	6
	60～69歳	275	8	27	14	5	229	6
	70歳以上	398	18	41	9	9	278	65
地区	河北	411	11	49	9	8	326	25
	河南	185	8	13	7	5	151	12
	盛南	186	5	15	5	2	156	8
	厨川	278	11	24	8	6	224	17
	都南	214	14	29	10	1	164	12
	玉山	42	2	2	2	0	33	5

問12 問11で1～4を選んだ方にお聞きします。被害を受けたことについて、誰か（親族や友人、相談機関など）に相談したり打ち明けたりしましたか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- 1 相談した … 問13へ
 2 相談しなかった
 3 その他（ ）

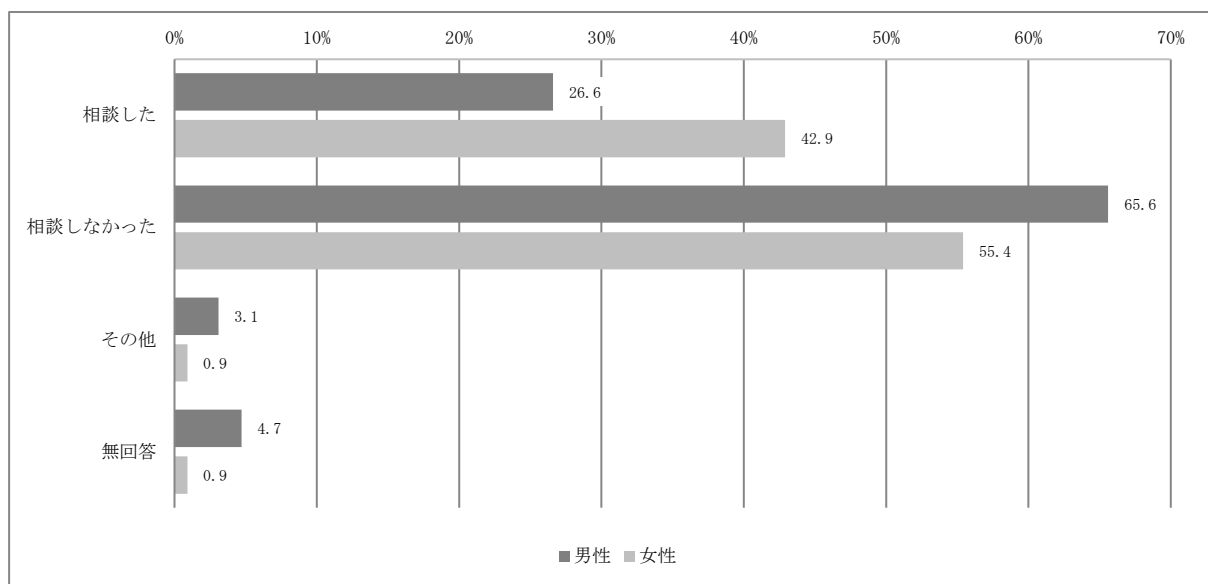
} 問14へ

【全体】



「相談しなかった」が59.1%と過半数を占め、「相談した」は36.9%にとどまった。DV被害時の相談行動には依然として高いハードルがあり、DV被害者が孤立しやすい状況にあることが考えられる。

【性別】



「相談した」の割合は、男性が26.6%、女性が42.9%であり、男性の方が相談に至らない傾向が見られた。こうした傾向は、一般的に指摘されている社会的な性役割意識や羞恥心などが影響している可能性があり、男性が相談に踏み出しにくい背景がうかがえる。

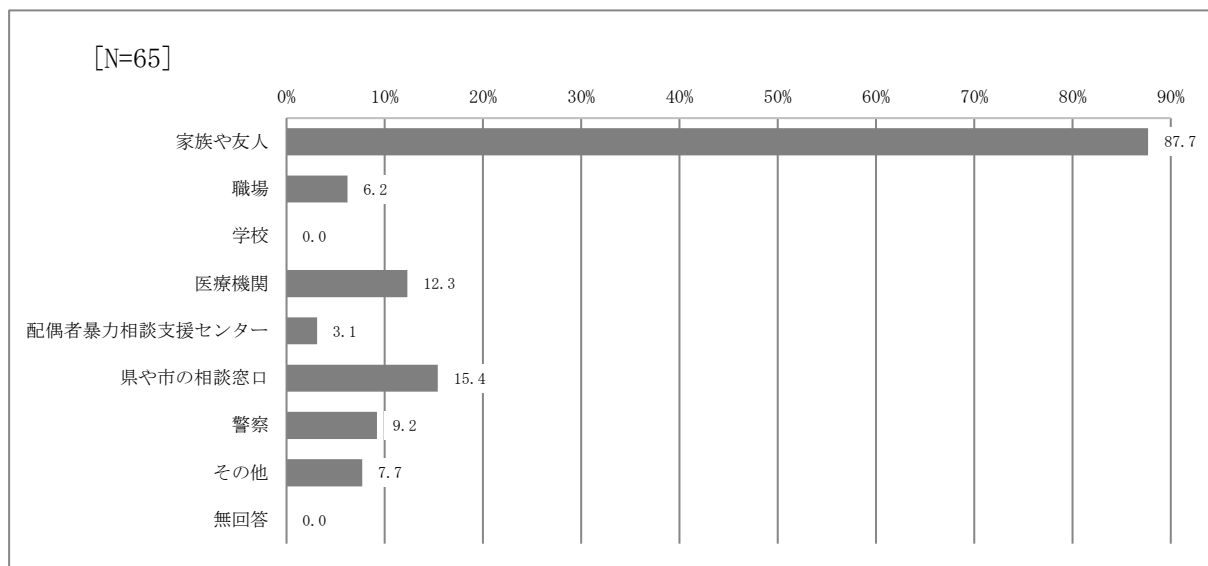
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	相談した	相談しなかった	その他	無回答
	全体	176	65	104	3	4
性別	男	64	17	42	2	3
	女	112	48	62	1	1
年代	18～19歳	0	0	0	0	0
	20～29歳	5	2	3	0	0
	30～39歳	17	11	6	0	0
	40～49歳	35	10	23	1	1
	50～59歳	27	11	15	1	0
	60～69歳	39	11	26	1	1
	70歳以上	53	20	31	0	2
地区	河北	59	16	40	2	1
	河南	22	11	10	0	1
	盛南	21	10	9	1	1
	厨川	34	13	21	0	0
	都南	36	13	22	0	1
	玉山	4	2	2	0	0

問 13 問 12 で「1 相談した」を選んだ方にお聞きします。相談した相手は誰ですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

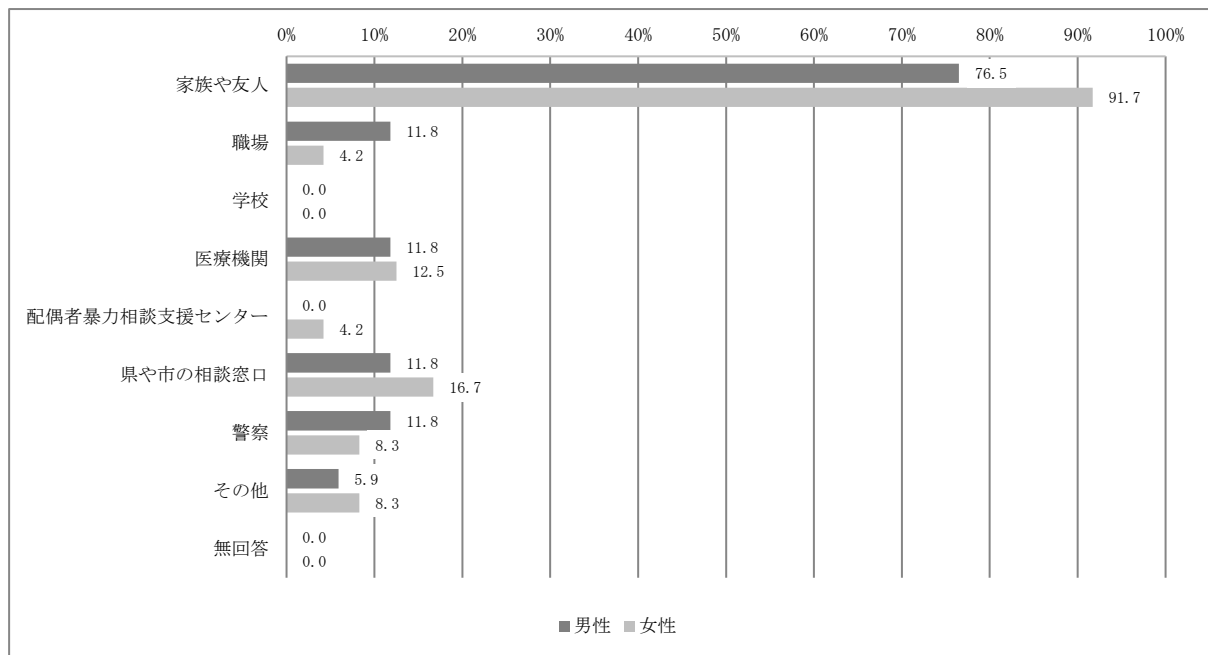
- | | |
|---------|-----------------|
| 1 家族や友人 | 5 配偶者暴力相談支援センター |
| 2 職場 | 6 県や市の相談窓口 |
| 3 学校 | 7 警察 |
| 4 医療機関 | 8 その他 () |

【全体】



相談先としては「家族や友人」が87.7%と圧倒的多数を占めており、「県や市の相談窓口」「医療機関」「警察」の割合は、いずれも2割以下と低調だった。「家族や友人」以外の相談先は、選択肢として十分に認識されていない可能性がある。

【性別】



男性は「職場」への相談が11.8%と、女性の4.2%よりも高く、職場が比較的身近で信頼できる相談先として認識されている可能性がある。

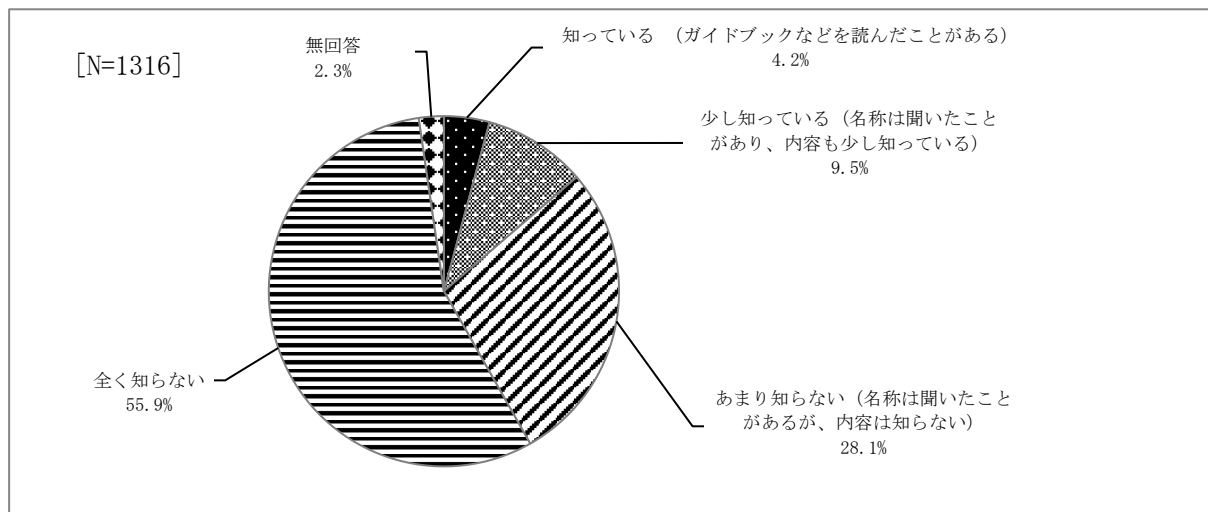
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	家族や友人	職場	学校	医療機関	配偶者暴力相談支援センター	県や市の相談窓口	警察	その他	無回答
全体		65	57	4	0	8	2	10	6	5	0
性別	男	17	13	2	0	2	0	2	2	1	0
	女	48	44	2	0	6	2	8	4	4	0
年代	18～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～29歳	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	30～39歳	11	11	0	0	4	2	1	1	2	0
	40～49歳	10	7	1	0	1	0	3	2	1	0
	50～59歳	11	11	0	0	0	0	2	1	0	0
	60～69歳	11	8	2	0	2	0	2	2	1	0
	70歳以上	20	18	1	0	1	0	2	0	1	0
地区	河北	16	16	2	0	1	0	1	0	0	0
	河南	11	9	0	0	0	2	3	1	2	0
	盛南	10	8	0	0	3	0	2	1	2	0
	厨川	13	11	1	0	1	0	1	1	1	0
	都南	13	11	1	0	3	0	3	3	0	0
	玉山	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0

問 14 あなたは、盛岡市が「パートナーシップ・ファミリーシップ制度」を導入していることを知っていますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

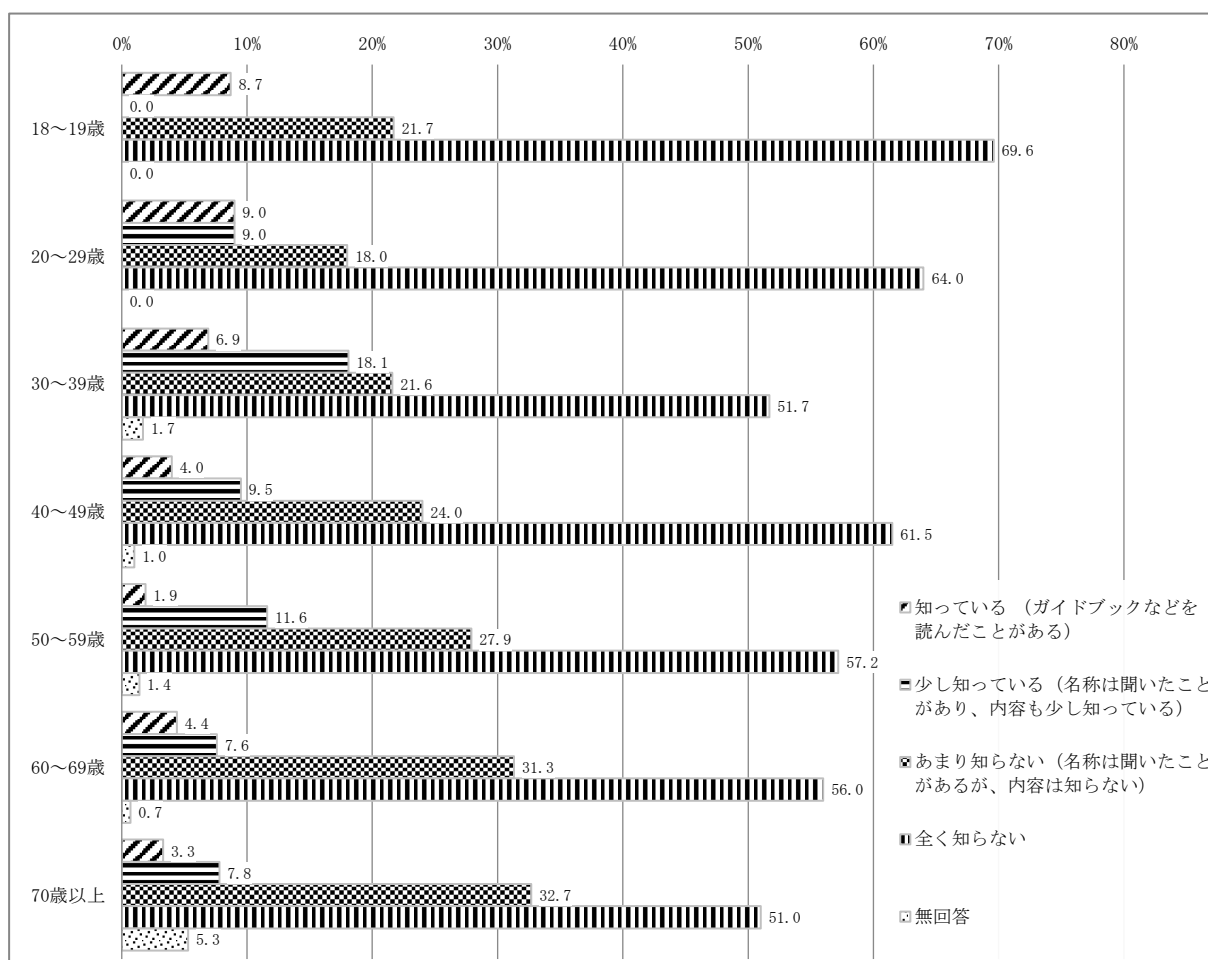
- 1 知っている (ガイドブックなどを読んだことがある)
- 2 少し知っている (名称は聞いたことがあり、内容も少し知っている)
- 3 あまり知らない (名称は聞いたことがあるが、内容は知らない)
- 4 全く知らない

【全体】



「全く知らない」が55.9%と過半数を占め、「知っている」は4.2%にとどまった。このことから、制度の認知度が非常に低く、広報が十分に届いていないことが分かる。

【年代別】



10代は「全く知らない」が69.6%であり、若年層ほど制度の認知が進んでいないことがうかがえる。30代～60代では「少し知っている」「あまり知らない」の割合が増えるものの、制度への理解は十分とは言えない。

【性別、年代別、地区別の回答数】

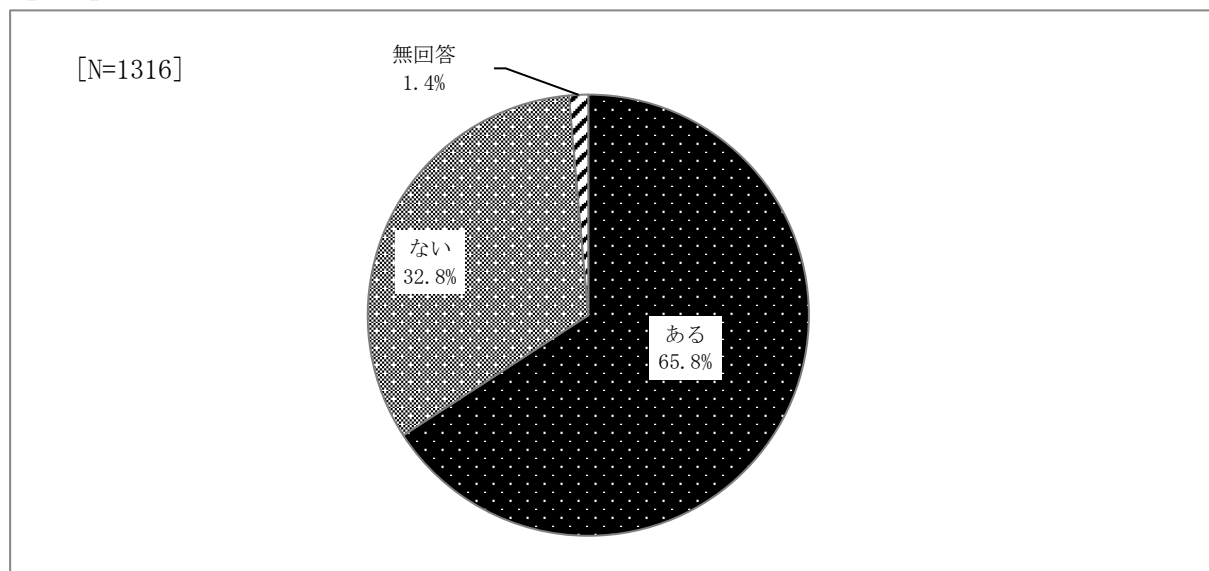
		実数 (人)	知っている (ガイドブックなどを読んだことがある)	少し知っている (名称は聞いたことがあり、内容も少し知っている)	あまり知らない (名称は聞いたことがあるが、内容は知らない)	全く知らない	無回答
全体		1316	55	125	370	736	30
性別	男	606	23	59	145	367	12
	女	710	32	66	225	369	18
年代	18～19歳	23	2	0	5	16	0
	20～29歳	89	8	8	16	57	0
	30～39歳	116	8	21	25	60	2
	40～49歳	200	8	19	48	123	2
	50～59歳	215	4	25	60	123	3
	60～69歳	275	12	21	86	154	2
	70歳以上	398	13	31	130	203	21
地区	河北	411	18	42	115	229	7
	河南	185	16	12	56	98	3
	盛南	186	8	16	48	109	5
	厨川	278	8	29	81	150	10
	都南	214	4	18	59	129	4
	玉山	42	1	8	11	21	1

《テーマ3 認知症について》

問 15 あなたは、認知症の人と接したことがありますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

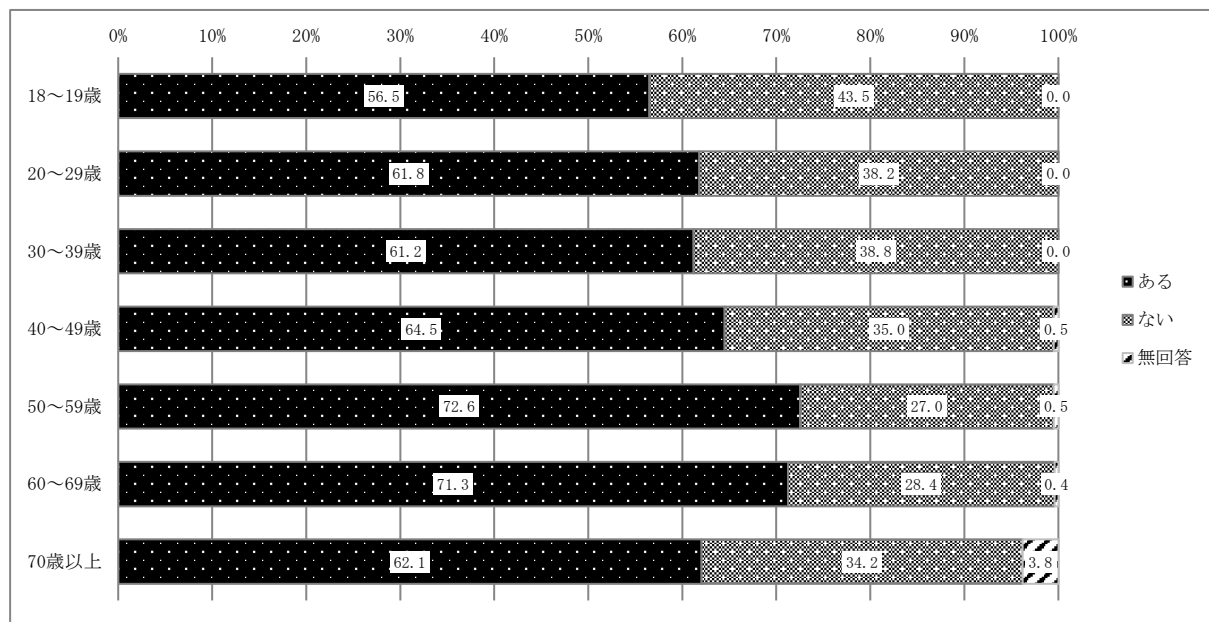
- | | | | |
|---|----|---|------|
| 1 | ある | … | 問16へ |
| 2 | ない | … | 問17へ |

【全体】



6割以上の人が認知症の人と接したことがあると回答していることから、日常生活の中で、認知症が身近な病気になっていると考えられる。

【年代別】



どの年代においても半数以上が「ある」と回答しており、特に50代は72.6%、60代は71.3%と割合が高くなっている。

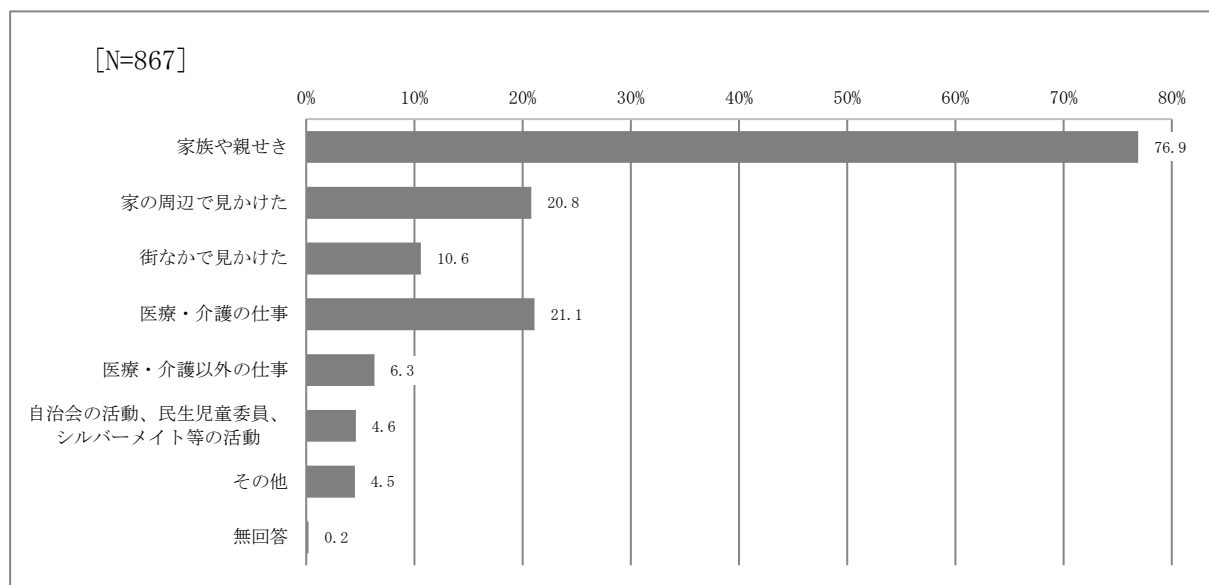
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	ある	ない	無回答
全体		1316	867	431	18
性別	男	606	391	209	6
	女	710	476	222	12
年代	18～19歳	23	13	10	0
	20～29歳	89	55	34	0
	30～39歳	116	71	45	0
	40～49歳	200	129	70	1
	50～59歳	215	156	58	1
	60～69歳	275	196	78	1
	70歳以上	398	247	136	15
地区	河北	411	273	135	3
	河南	185	124	59	2
	盛南	186	139	45	2
	厨川	278	170	100	8
	都南	214	137	75	2
	玉山	42	24	17	1

問 16 問 15 で「1 ある」を選んだ方にお聞きします。あなたが実際に接したのはどのような場面ですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

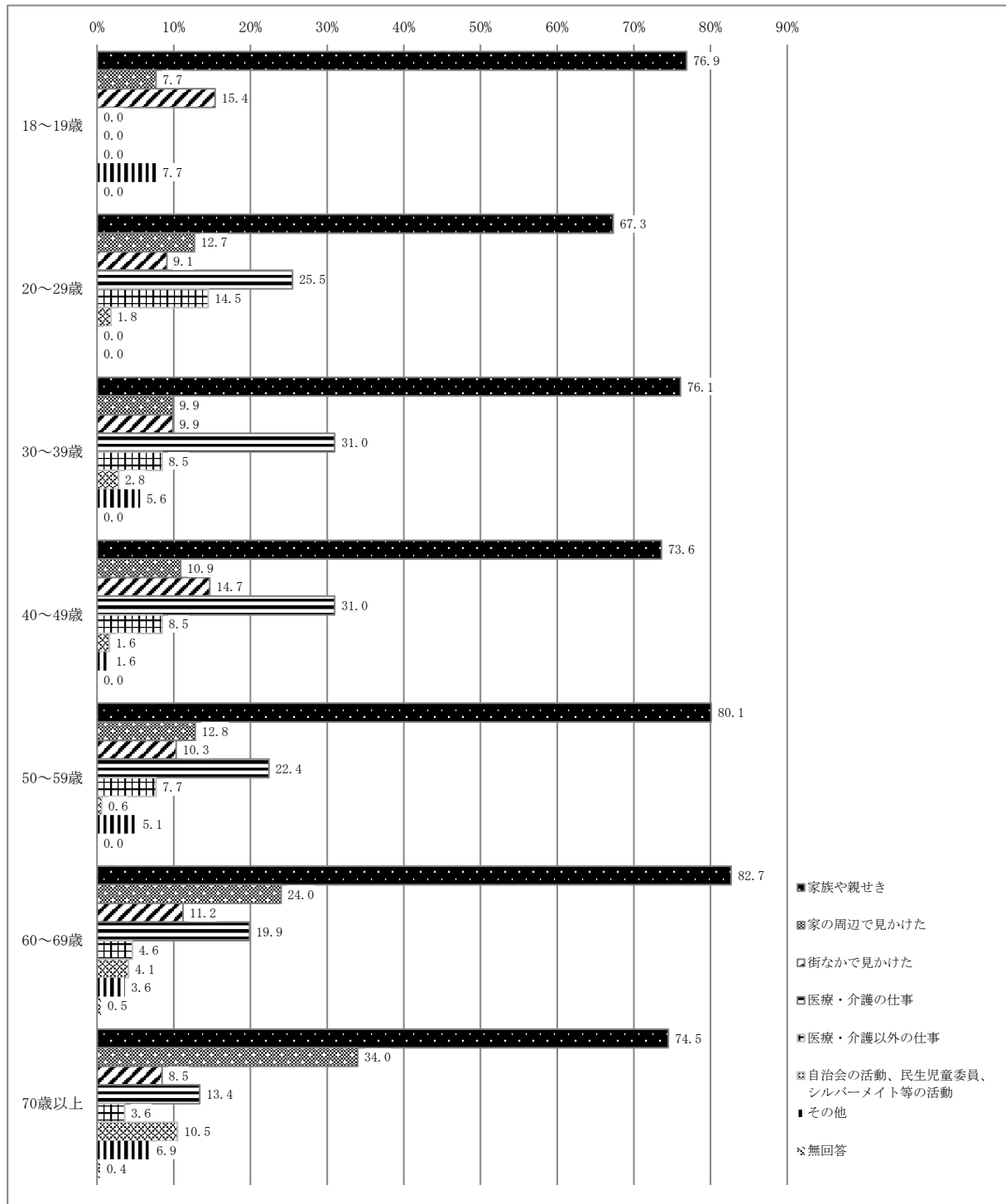
- 1 家族や親せき
- 2 家の周辺で見かけた
- 3 街なかで見かけた
- 4 医療・介護の仕事
- 5 医療・介護以外の仕事
- 6 自治会の活動、民生児童委員、シルバーメイト等の活動
- 7 その他（ ）

【全体】



「家族や親せき」が最も多く76.9%となっており、家族等の身近な関係性の中で認知症の人と接する機会が多いことが分かる。「家の周辺で見かけた」「街なかで見かけた」といった、社会生活の場で接した経験も一定数見受けられることから、家族支援の充実及び社会生活の場で接する機会を想定した啓発や学ぶ機会が必要と考えられる。

【年代別】



どの年代においても「家族や親せき」の割合が最も高くなっている。2番目に高い項目を年代別に見ると、10代は「街なかで見かけた」、20代～50代は「医療・介護の仕事」、60代以上では「家の周辺で見かけた」となっており、年代に応じた活動の場において接する機会があることが分かる。

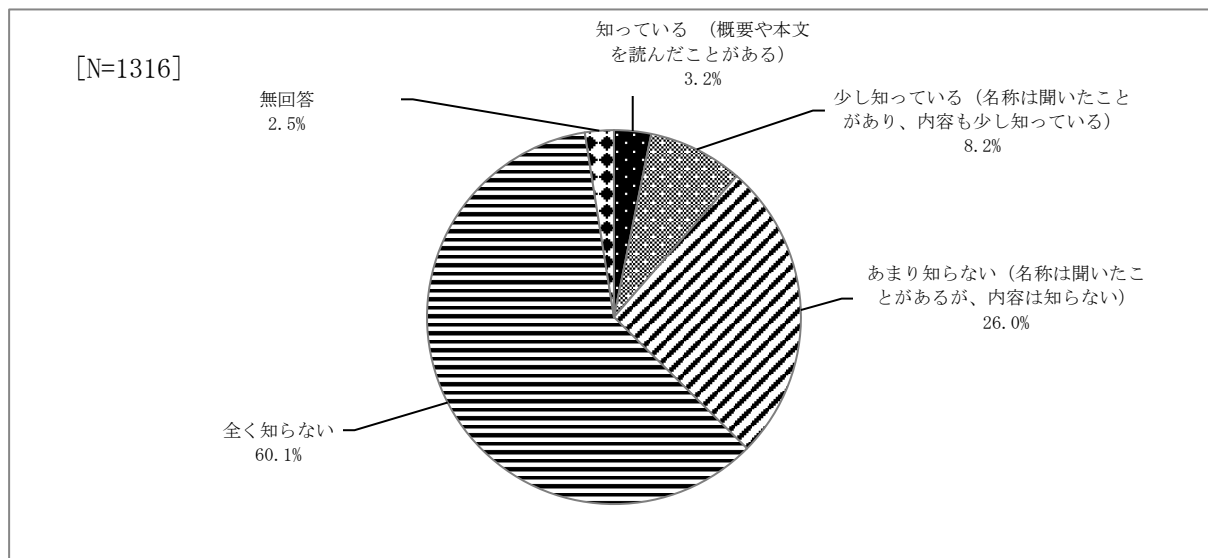
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	家族や親せき	家の周辺で見かけた	街なかで見かけた	医療・介護の仕事	医療・介護以外の仕事	自治会の活動、民生児童委員、シルバーマイト等の活動	その他	無回答
全体		867	667	180	92	183	55	40	39	2
性別	男	391	316	81	48	52	35	29	14	2
	女	476	351	99	44	131	20	11	25	0
年代	18～19歳	13	10	1	2	0	0	0	1	0
	20～29歳	55	37	7	5	14	8	1	0	0
	30～39歳	71	54	7	7	22	6	2	4	0
	40～49歳	129	95	14	19	40	11	2	2	0
	50～59歳	156	125	20	16	35	12	1	8	0
	60～69歳	196	162	47	22	39	9	8	7	1
	70歳以上	247	184	84	21	33	9	26	17	1
地区	河北	273	217	65	34	54	11	7	13	2
	河南	124	100	27	11	19	9	9	4	0
	盛南	139	111	22	12	27	8	5	4	0
	厨川	170	129	34	22	38	16	8	11	0
	都南	137	90	24	11	42	11	10	7	0
	玉山	24	20	8	2	3	0	1	0	0

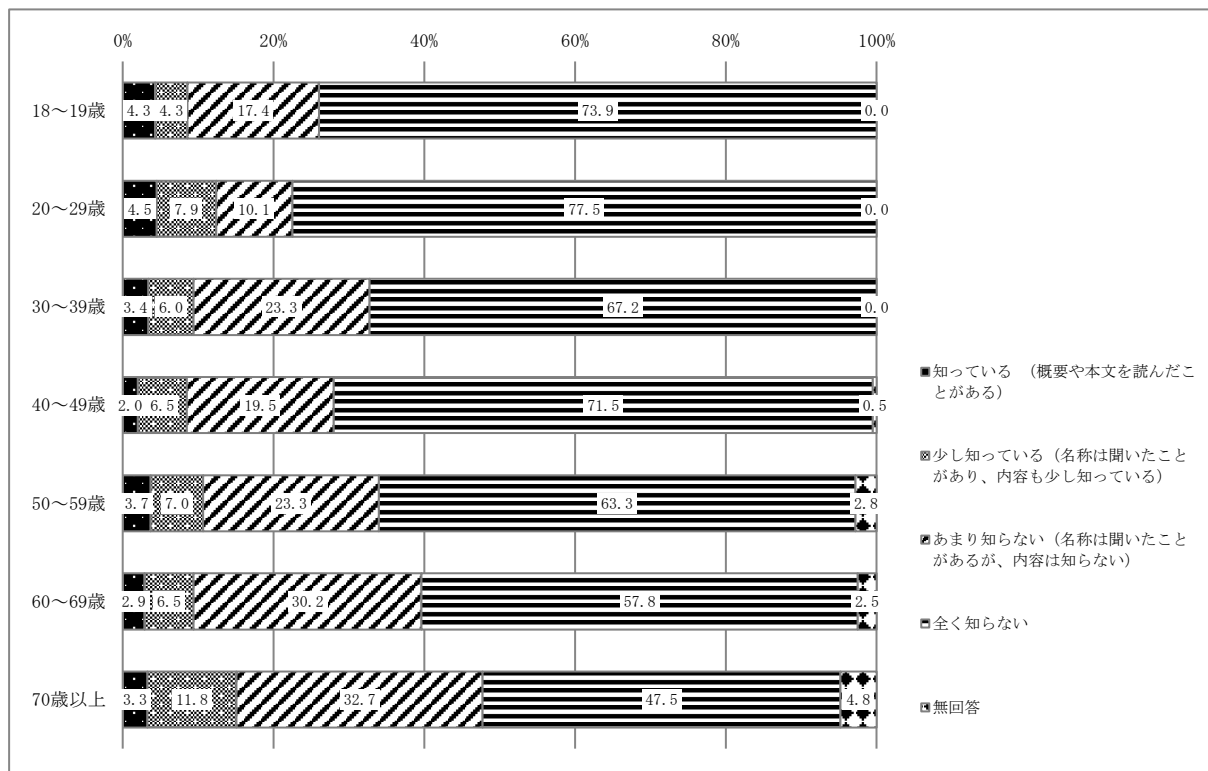
問 17 あなたは、令和6年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（認知症基本法）」について知っていますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- 1 知っている（概要や本文を読んだことがある）
- 2 少し知っている（名称は聞いたことがあり、内容も少し知っている）
- 3 あまり知らない（名称は聞いたことがあるが、内容は知らない）
- 4 全く知らない

【全体】



【年代別】



【全体を通じて】

全体、年代別ともに「全く知らない」の割合が最も高くなっており、認知症基本法の認知度が極めて低いことが分かる。今後、周知方法を検討し、より分かりやすく伝える工夫が必要である。

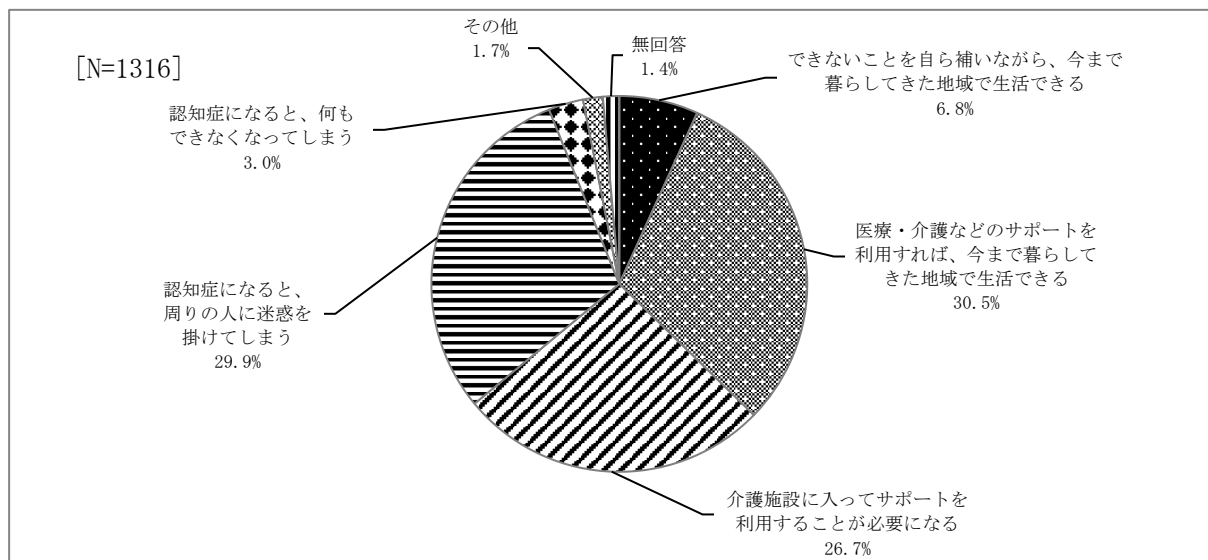
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	知っている (概要や本文を読んだことがある)	少し知っている (名称は聞いたことがある、内容も少し知っている)	あまり知らない (名称は聞いたことがあるが、内容は知らない)	全く知らない	無回答
全体		1316	42	108	342	791	33
性別	男	606	17	44	152	377	16
	女	710	25	64	190	414	17
年代	18～19歳	23	1	1	4	17	0
	20～29歳	89	4	7	9	69	0
	30～39歳	116	4	7	27	78	0
	40～49歳	200	4	13	39	143	1
	50～59歳	215	8	15	50	136	6
	60～69歳	275	8	18	83	159	7
	70歳以上	398	13	47	130	189	19
地区	河北	411	17	36	124	224	10
	河南	185	4	14	49	113	5
	盛南	186	4	8	47	122	5
	厨川	278	10	32	56	172	8
	都南	214	6	16	51	137	4
	玉山	42	1	2	15	23	1

問 18 あなたは、認知症になってからの生活について、どのようなイメージを持っていますか。最も近いもの1つに✓を付けてください。

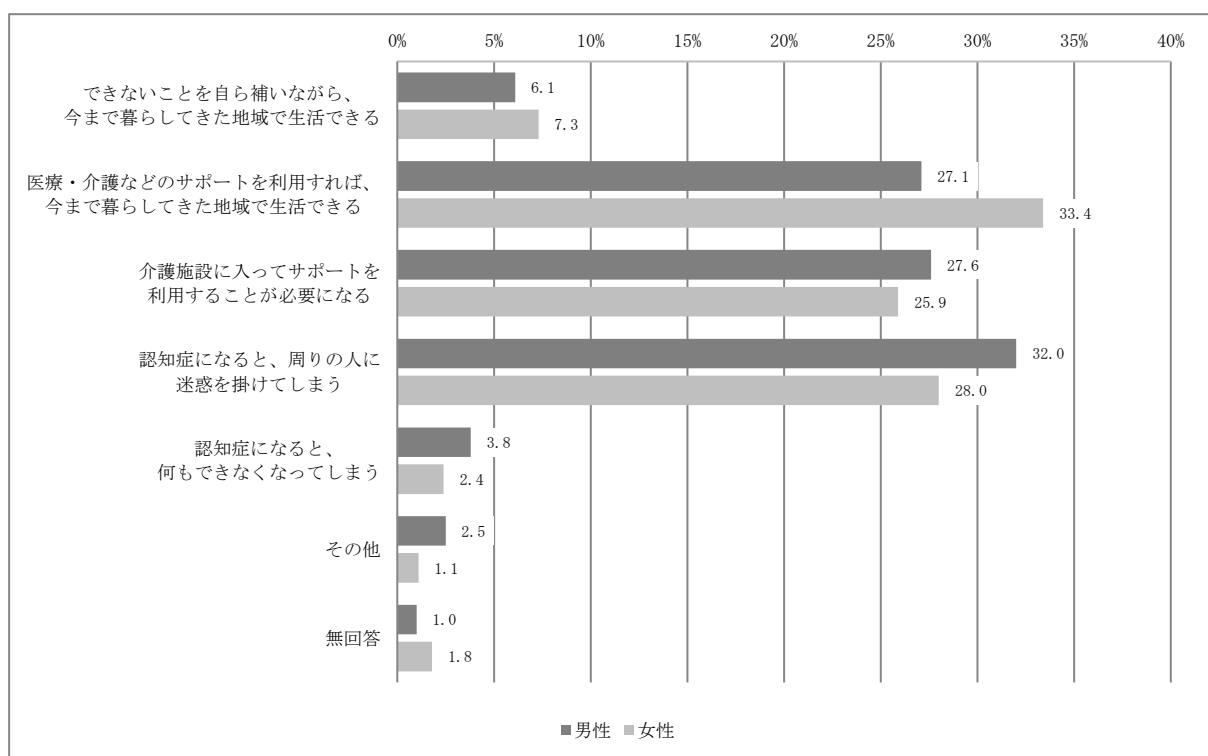
- 1 できないことを自ら補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活できる
- 2 医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活できる
- 3 介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
- 4 認知症になると、周りの人に迷惑を掛けてしまう
- 5 認知症になると、何もできなくなってしまう
- 6 その他（ ）

【全体】



「医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活できる」が30.5%、「認知症になると周りの人に迷惑を掛けてしまう」が29.9%、「介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が26.7%と、認知症になると何らかのサポートが必要になると感じている人の割合が高いことが分かる。認知症についての正しい知識の周知や生活支援体制の充実が必要になると考えられる。

【性別】



男性は「認知症になると周りの人に迷惑を掛けてしまう」が32.0%で最も割合が高く、周りの人に迷惑を掛けてしまうことに不安を感じる傾向がある。女性は「医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活できる」が33.4%で最も割合が高く、サービスの利用により生活を維持することができると感じる人の割合が高いことが分かる。

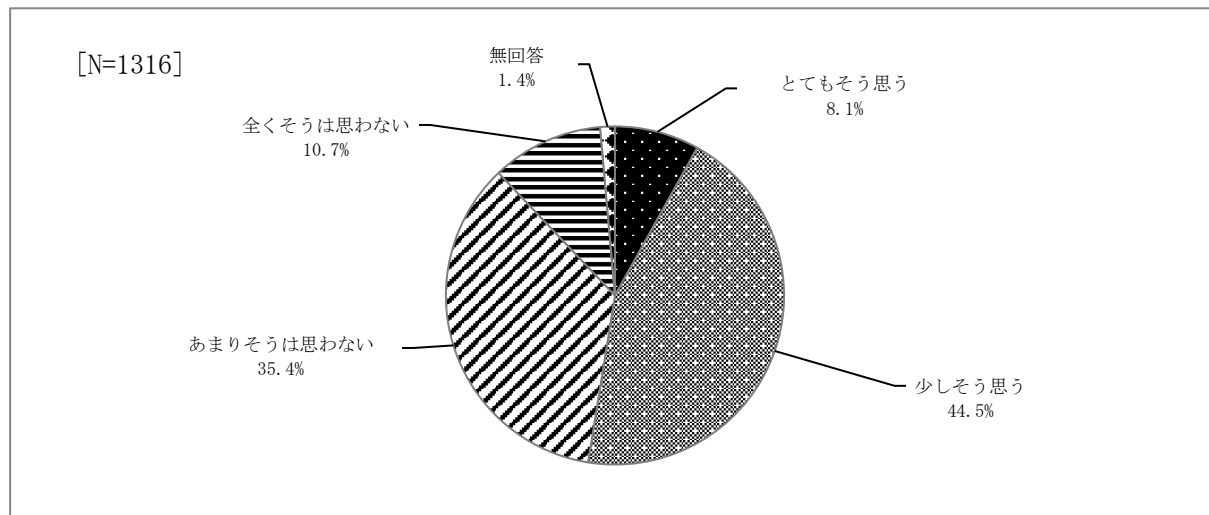
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	できないことを自ら補いながら、 今まで暮らしてきた地域で生活できる	医療・介護などのサポートを利用すれば、 今まで暮らしてきた地域で生活できる	介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になると、周りの人に迷惑を掛けてしまう	認知症になると、何もできなくなってしまう	その他	無回答
全体		1316	89	401	351	393	40	23	19
性別	男	606	37	164	167	194	23	15	6
	女	710	52	237	184	199	17	8	13
年代	18～19歳	23	2	3	7	10	1	0	0
	20～29歳	89	4	28	25	23	6	3	0
	30～39歳	116	4	23	33	51	3	2	0
	40～49歳	200	10	47	51	80	8	3	1
	50～59歳	215	9	75	57	63	3	6	2
	60～69歳	275	13	85	88	76	7	4	2
	70歳以上	398	47	140	90	90	12	5	14
地区	河北	411	34	138	106	114	9	7	3
	河南	185	10	54	44	63	7	4	3
	盛南	186	15	50	53	59	6	2	1
	厨川	278	16	78	74	86	8	7	9
	都南	214	11	68	60	61	9	3	2
	玉山	42	3	13	14	10	1	0	1

問19 あなたは、認知症の人への適切な対応について理解していますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

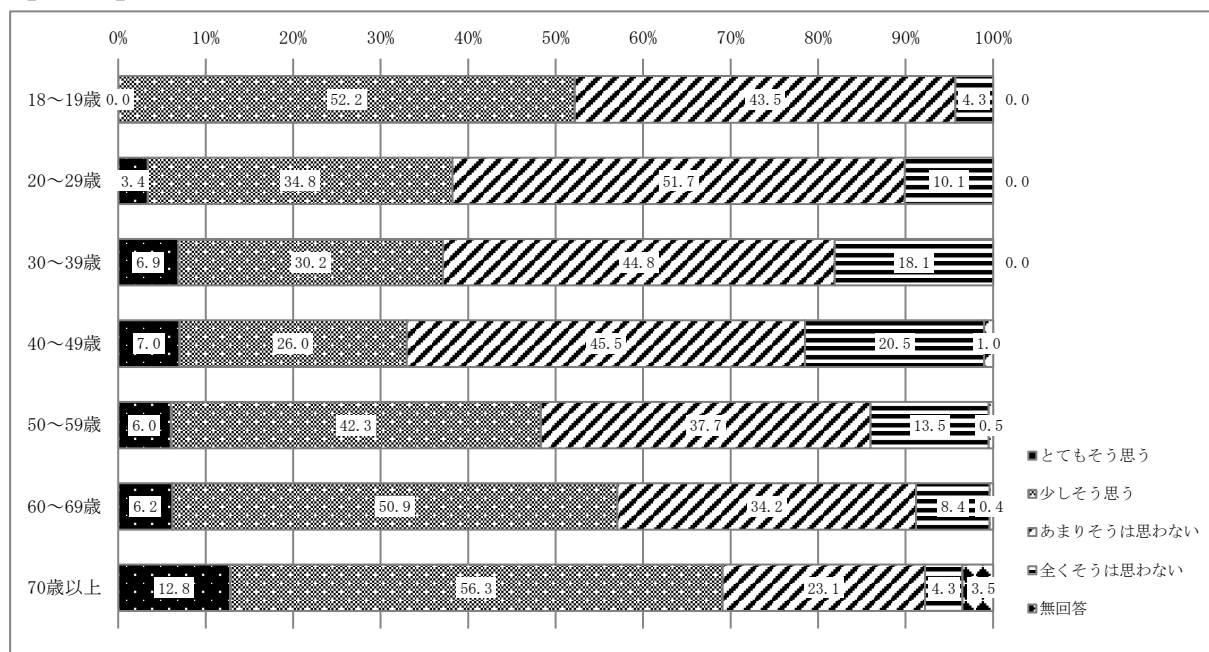
- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそうは思わない |
| 2 少しそう思う | 4 全くそうは思わない |

【全体】



「とてもそう思う」はわずか 8.1%と少数で、「少しそう思う」が最多の44.5%、次いで「あまりそうは思わない」が35.4%と比較的高い割合を占めており、一定の理解はあるが十分ではないと感じている人の割合が高いことが分かる。

【年代別】



10代と50代以上に「とてもそう思う」「少しそう思う」の割合が高い傾向が見られた。

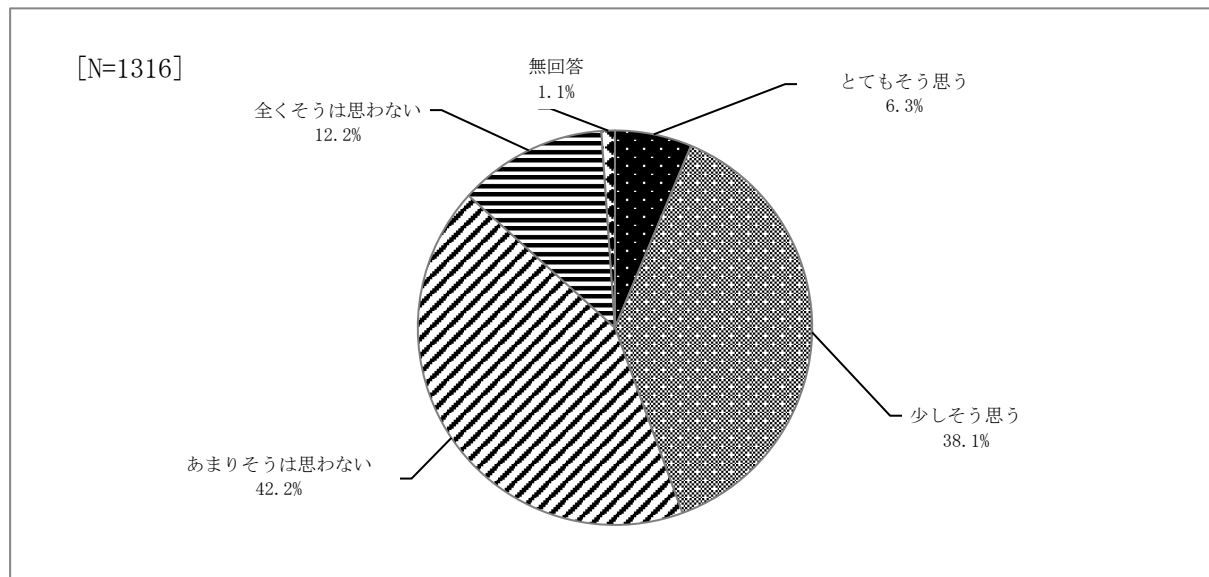
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	とても そう思う	少し そう思う	あまり そうとは思 わない	全く そうは思 わない	無回 答
全体		1316	106	585	466	141	18
性別	男	606	42	246	228	82	8
	女	710	64	339	238	59	10
年代	18～19歳	23	0	12	10	1	0
	20～29歳	89	3	31	46	9	0
	30～39歳	116	8	35	52	21	0
	40～49歳	200	14	52	91	41	2
	50～59歳	215	13	91	81	29	1
	60～69歳	275	17	140	94	23	1
	70歳以上	398	51	224	92	17	14
地区	河北	411	34	184	147	41	5
	河南	185	15	95	56	18	1
	盛南	186	17	74	71	22	2
	厨川	278	25	121	91	34	7
	都南	214	13	89	89	21	2
	玉山	42	2	22	12	5	1

問 20 あなたは、認知症の人に適切な対応ができますと思いますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそうは思わない |
| 2 少しそう思う | 4 全くそうは思わない |

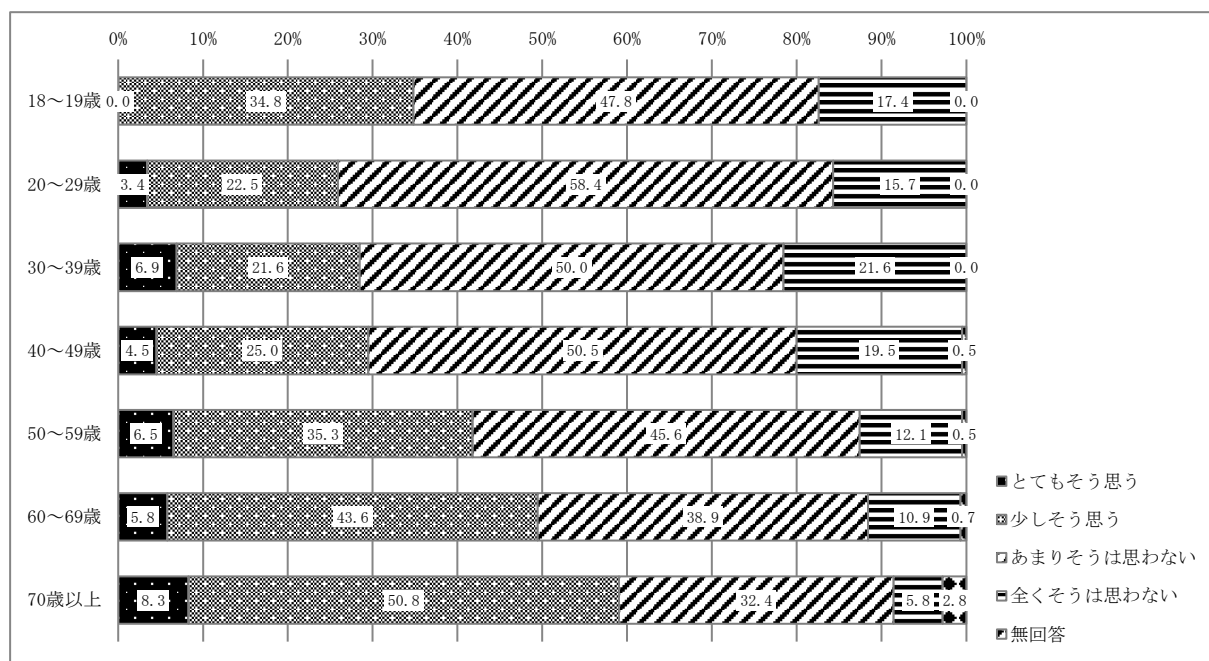
【全体】



「とてもそう思う」は6.3%と少数で、「あまりそうは思わない」が42.2%と最も高い割合を占めている。適切な対応ができないと感じている人の割合が高い傾向が見られた。

今後の啓発や学ぶ機会においては、認知症の人やその対応について、より実践的な内容が必要であると考えられる。

【年代別】



50代以上は年代が上がるにつれて「とてもそう思う」「少しそう思う」の割合が高くなる傾向が見られた。

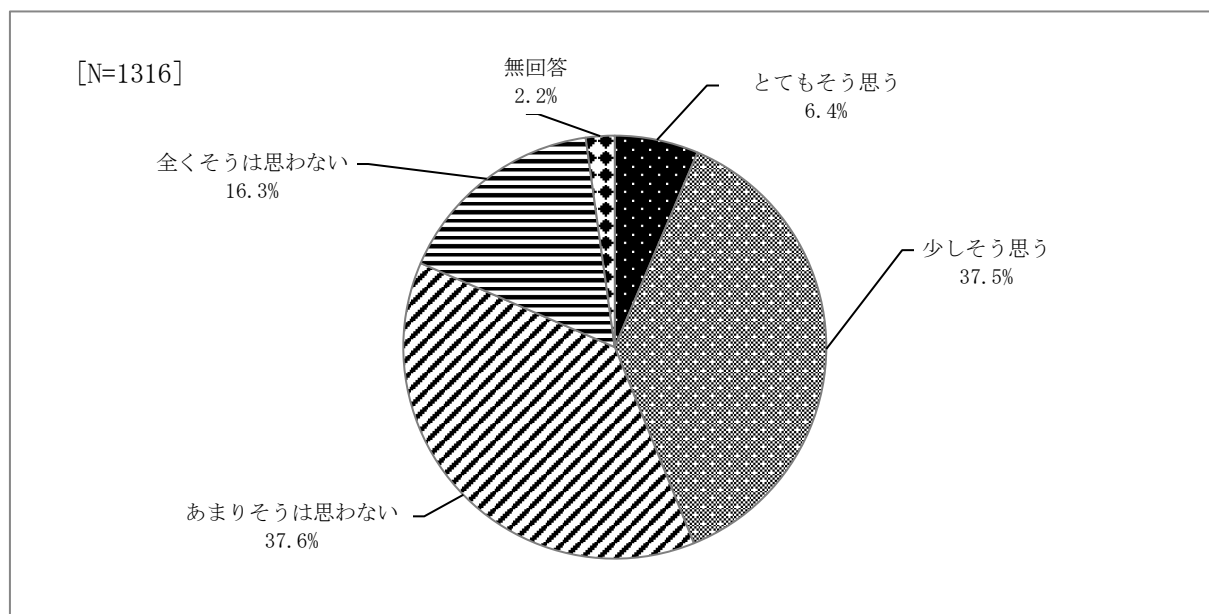
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	とても そう思う	少し そう思う	あまり そうとは思 わない	全く そうは思 わない	無回 答
全体		1316	83	501	556	161	15
性別	男	606	35	212	267	87	5
	女	710	48	289	289	74	10
年代	18～19歳	23	0	8	11	4	0
	20～29歳	89	3	20	52	14	0
	30～39歳	116	8	25	58	25	0
	40～49歳	200	9	50	101	39	1
	50～59歳	215	14	76	98	26	1
	60～69歳	275	16	120	107	30	2
	70歳以上	398	33	202	129	23	11
地区	河北	411	26	153	179	50	3
	河南	185	10	82	69	23	1
	盛南	186	13	63	85	23	2
	厨川	278	21	105	111	34	7
	都南	214	10	82	96	25	1
	玉山	42	3	16	16	6	1

問 21 あなたは、認知症の人と話をすることについて、抵抗感がありますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

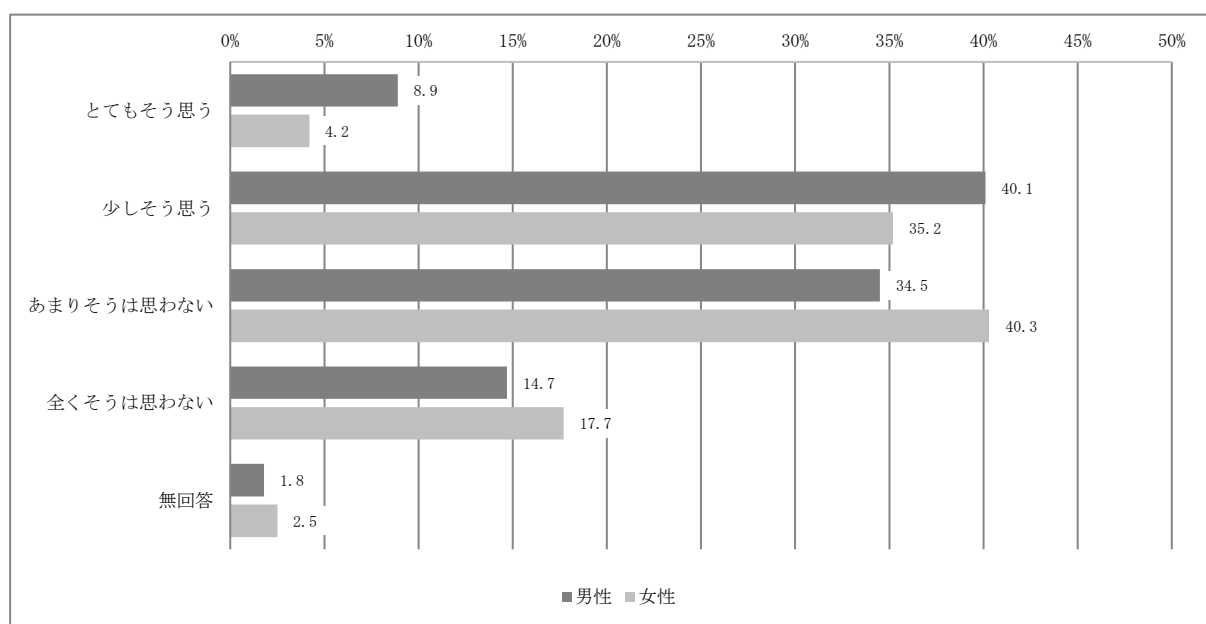
- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそうは思わない |
| 2 少しそう思う | 4 全くそうは思わない |

【全体】



「とてもそう思う」「少しそう思う」の合計が43.9%、「あまりそうは思わない」「全くそうは思わない」の合計が53.9%と、認知症の人と話をすることへの抵抗感がやや少ない傾向が見られた。認知症の人との交流や触れ合う機会への参加を促す取組も一定の効果が期待できると考えられる。

【性別】



「あまりそうは思わない」「全くそうは思わない」を合計すると、男性は49.2%、女性は58.0%であり、男性よりも女性の方が認知症の人と話すことへの抵抗感が少ない傾向が見られた。

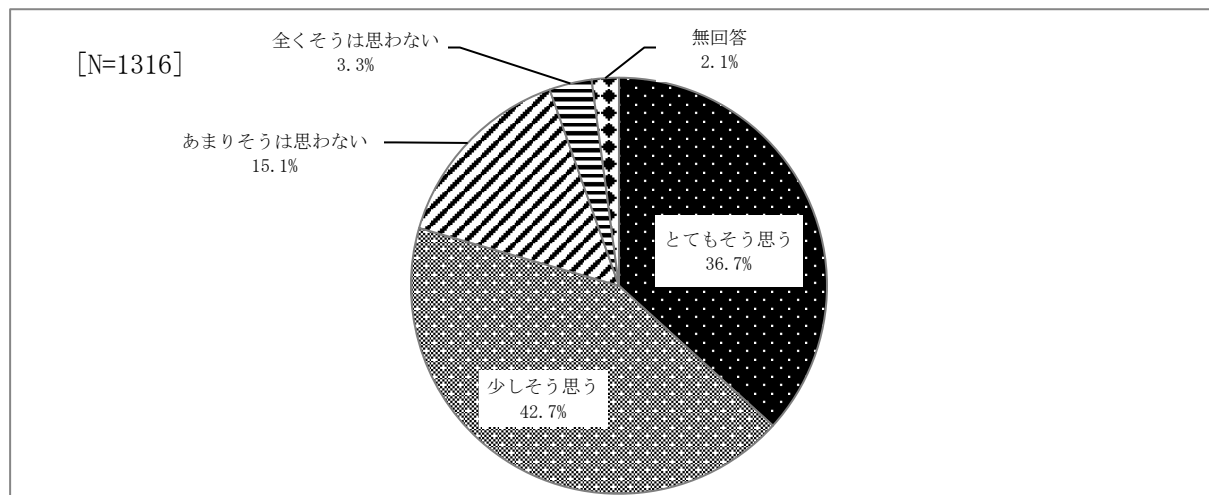
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	とても そう思う	少し そう思う	あまり そうは 思わない	全く そうは 思わない	無 回答
全体		1316	84	493	495	215	29
性別	男	606	54	243	209	89	11
	女	710	30	250	286	126	18
年代	18～19歳	23	2	9	9	3	0
	20～29歳	89	10	33	29	17	0
	30～39歳	116	5	43	47	20	1
	40～49歳	200	14	78	65	39	4
	50～59歳	215	10	80	80	44	1
	60～69歳	275	24	109	106	30	6
	70歳以上	398	19	141	159	62	17
地区	河北	411	22	139	164	77	9
	河南	185	17	70	69	24	5
	盛南	186	11	76	73	23	3
	厨川	278	16	102	102	51	7
	都南	214	12	90	75	34	3
	玉山	42	6	16	12	6	2

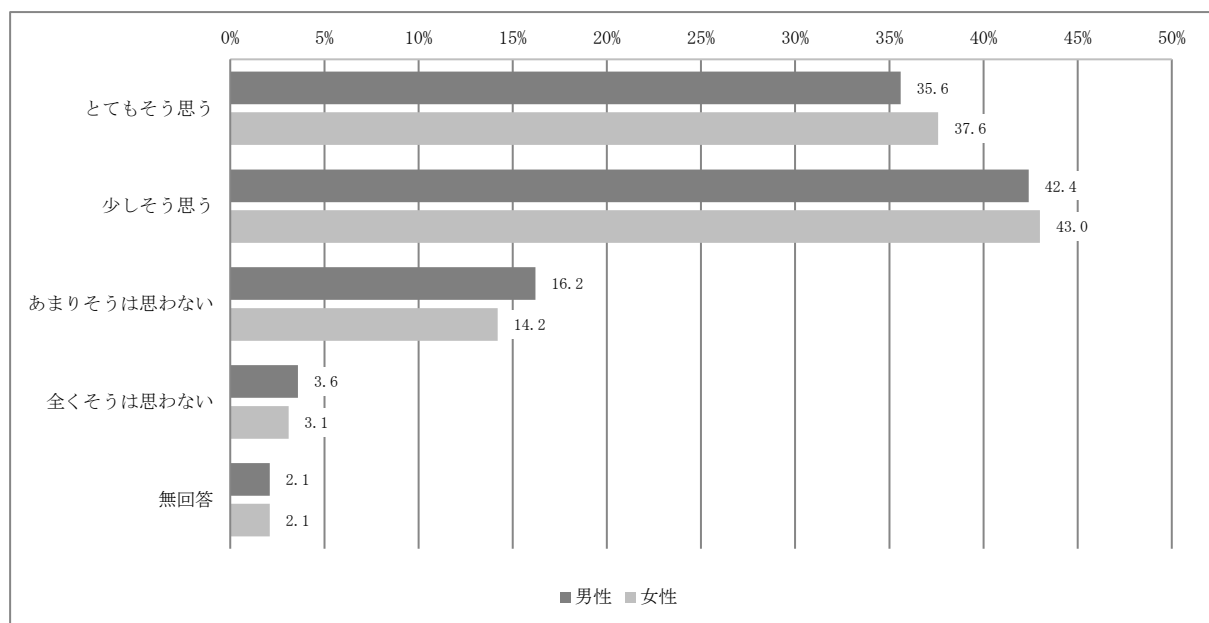
問 22 あなたは、自身が認知症になった場合に、家族や周囲の人などに打ち明けることができますか。当てはまるもの 1つ に✓を付けてください。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそうは思わない |
| 2 少しそう思う | 4 全くそうは思わない |

【全体】



【性別】



【全体を通じて】

「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせると79.4%となる。また、性別による大きな差は認められず、認知症になった場合に約8割の人が家族や周囲に打ち明ける意志があることが分かる。自身が認知症になった場合に打ち明ける意志や希望がある反面、打ち明けることができないと感じている人の割合も一定数いることから、認知症に関する正しい理解が必要になると考えられる。

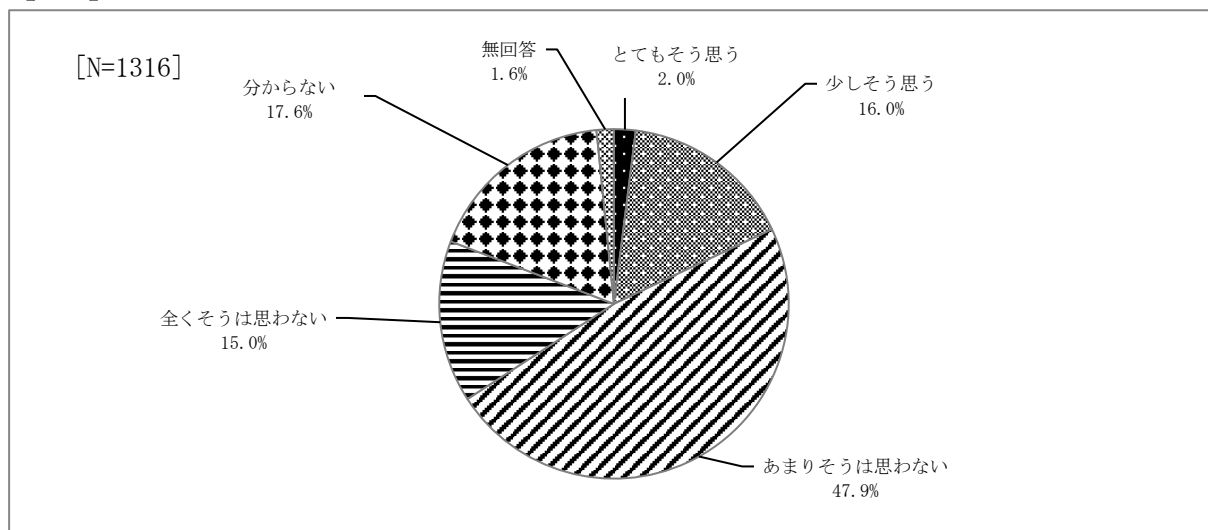
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	とても そう思う	少し そう思う	あまり そうは 思わない	全く そうは 思わない	無 回答
全体		1316	483	562	199	44	28
性別	男	606	216	257	98	22	13
	女	710	267	305	101	22	15
年代	18～19歳	23	8	9	3	3	0
	20～29歳	89	26	38	22	3	0
	30～39歳	116	42	45	23	5	1
	40～49歳	200	75	87	29	7	2
	50～59歳	215	79	95	30	10	1
	60～69歳	275	107	111	48	5	4
	70歳以上	398	146	177	44	11	20
地区	河北	411	156	163	66	17	9
	河南	185	57	97	19	8	4
	盛南	186	71	76	33	4	2
	厨川	278	105	110	44	10	9
	都南	214	78	101	28	4	3
	玉山	42	16	15	9	1	1

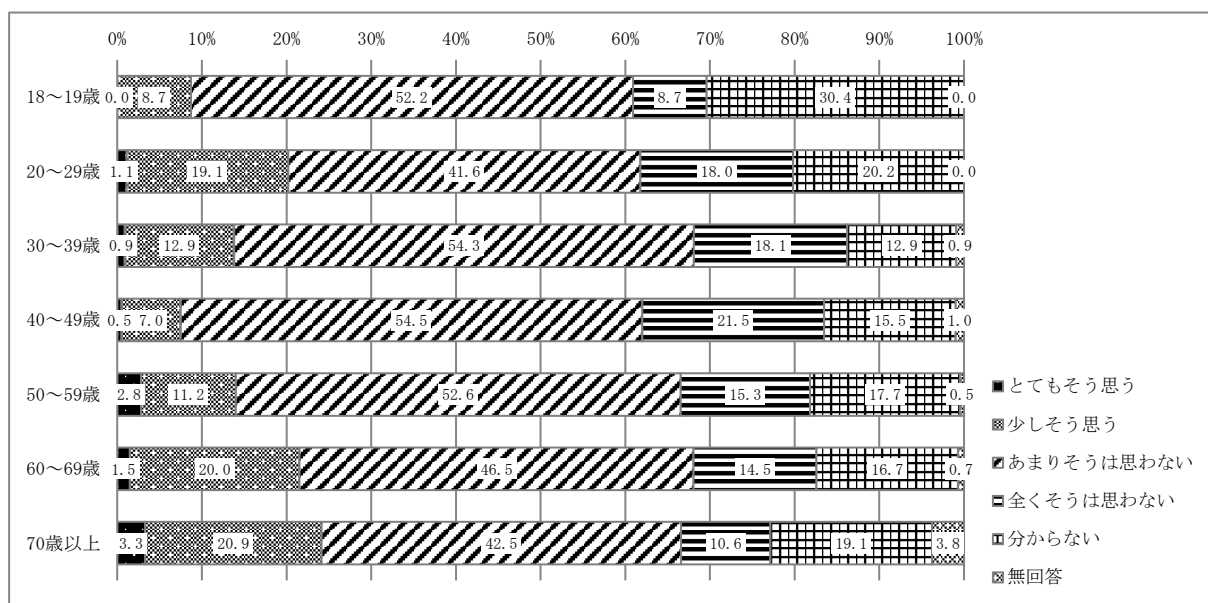
問 23 あなたは、自身が認知症になった場合に、地域において、自分の意思が尊重され、自分の望む生活が継続できると思いますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 とてもそう思う | 4 全くそうは思わない |
| 2 少しそう思う | 5 分からない |
| 3 あまりそうは思わない | |

【全体】



【年代別】



【全体を通じて】

「あまりそうは思わない」が47.9%、「全くそうは思わない」が15.0%であり、6割以上の方が、自分が認知症になった場合に自分の意思の尊重や自分の望む生活を継続することはできないと感じている。また、どの年代においても「あまりそうは思わない」の割合が最も高い。全体として、自分の望む生活はできないと考えている人の割合が高いことから、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる仕組みづくりが必要と考えられる。

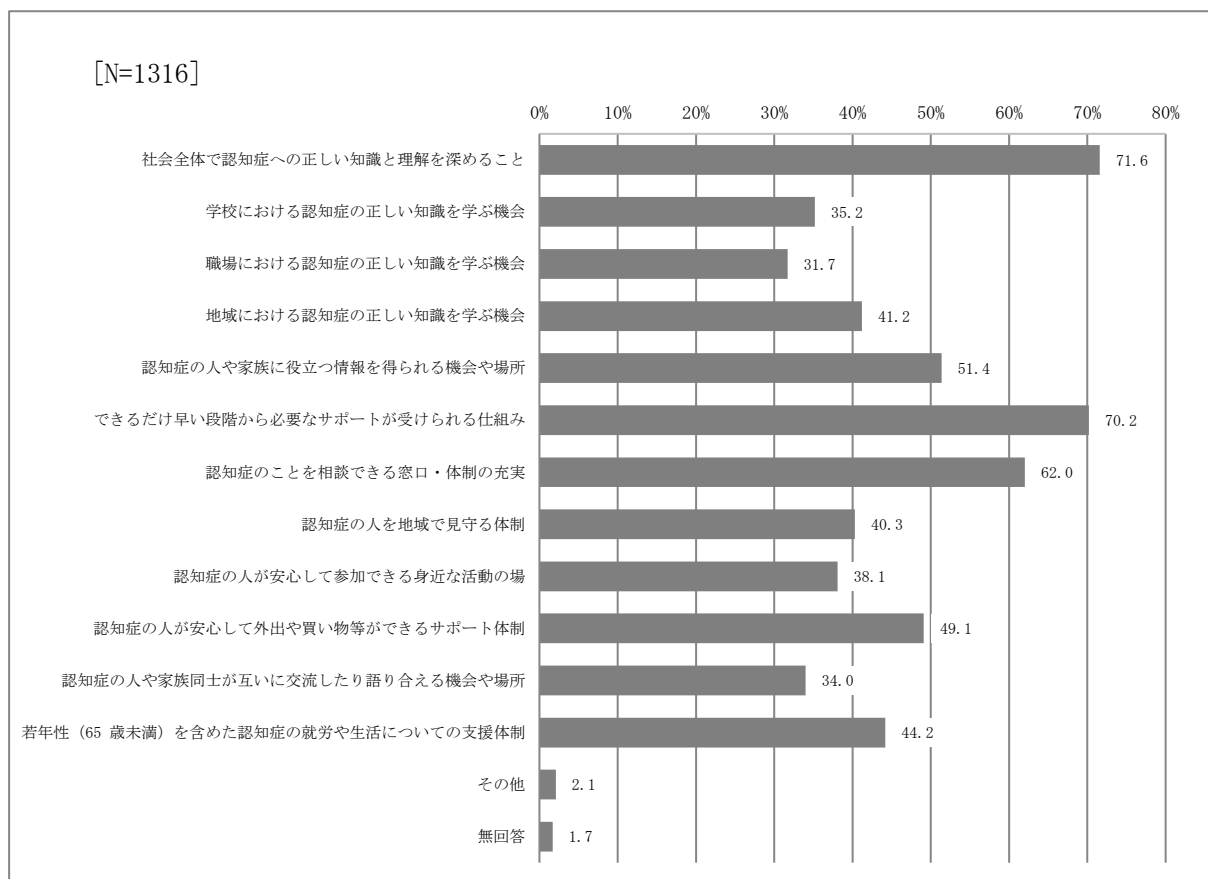
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	とても 思う	少し 思う	あまり そうは 思わない	全く そうは 思わない	分 からない	無 回答
全体		1316	26	210	631	197	231	21
性別	男	606	17	98	278	91	114	8
	女	710	9	112	353	106	117	13
年代	18～19歳	23	0	2	12	2	7	0
	20～29歳	89	1	17	37	16	18	0
	30～39歳	116	1	15	63	21	15	1
	40～49歳	200	1	14	109	43	31	2
	50～59歳	215	6	24	113	33	38	1
	60～69歳	275	4	55	128	40	46	2
	70歳以上	398	13	83	169	42	76	15
地区	河北	411	8	62	196	73	66	6
	河南	185	6	27	89	24	36	3
	盛南	186	3	29	98	28	27	1
	厨川	278	3	49	129	38	52	7
	都南	214	5	37	100	28	41	3
	玉山	42	1	6	19	6	9	1

問 24 認知症になっても暮らしやすい社会になるために、あなたが必要だと思うことは何ですか。
当てはまるもの全てに✓を付けてください。

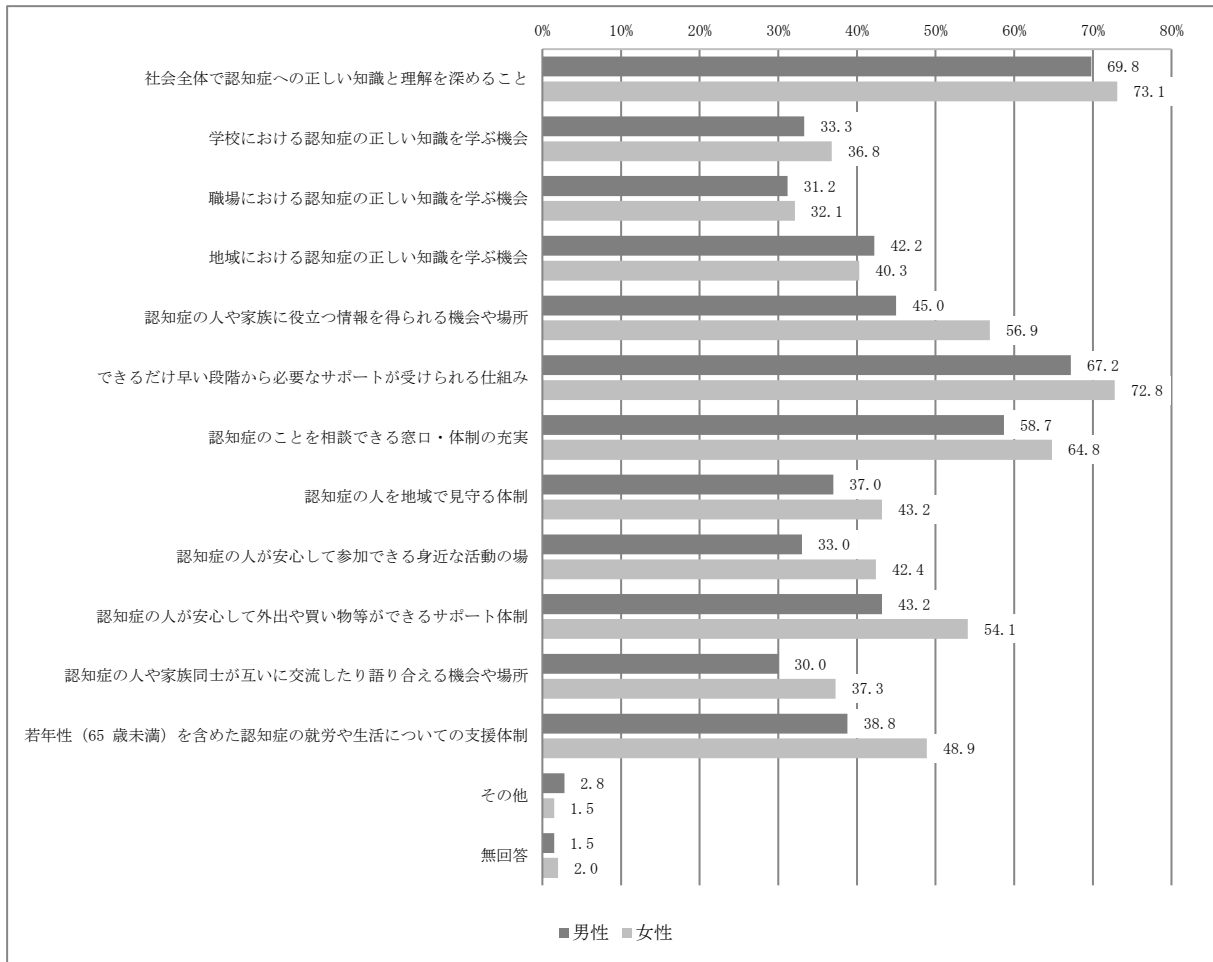
- 1 社会全体で認知症への正しい知識と理解を深めること
- 2 学校における認知症の正しい知識を学ぶ機会
- 3 職場における認知症の正しい知識を学ぶ機会
- 4 地域における認知症の正しい知識を学ぶ機会
- 5 認知症の人や家族に役立つ情報を得られる機会や場所
- 6 できるだけ早い段階から必要なサポートが受けられる仕組み
- 7 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実
- 8 認知症の人を地域で見守る体制
- 9 認知症の人が安心して参加できる身近な活動の場
- 10 認知症の人が安心して外出や買い物等ができるサポート体制
- 11 認知症の人や家族同士が互いに交流したり語り合える機会や場所
- 12 若年性（65歳未満）を含めた認知症の就労や生活についての支援体制
- 13 その他（ ）

【全体】



「社会全体で認知症への正しい知識と理解を深めること」「できるだけ早い段階から必要なサポートが受けられる仕組み」「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が上位となった。社会全体の理解、早期サポートの仕組み、相談体制等の充実に高いニーズが認められる。

【性別】



多くの項目で男性よりも女性の割合が高いことから、女性の方が男性よりも支援やサポートを必要と考える傾向があると考えられる。

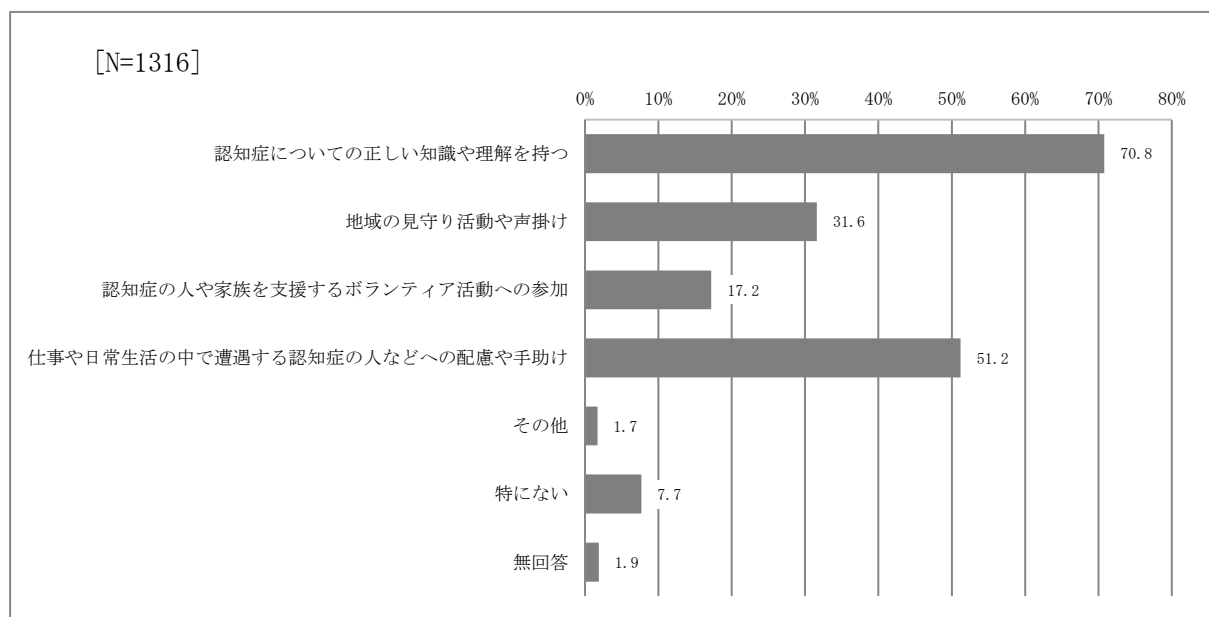
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	社会全体で認知症への正しい知識と理解を深めること	学校における認知症の正しい知識を学ぶ機会	職場における認知症の正しい知識を学ぶ機会	地域における認知症の正しい知識を学ぶ機会	認知症の人や家族に役立つ情報を得られる機会や場所	できるだけ早い段階から必要なサポートが受けられる仕組み	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	認知症の人を地域で見守る体制	認知症の人が安心して参加できる身近な活動の場	認知症の人が安心して外出や買い物等ができるサポート体制	認知症の人や家族同士が互いに交流したり語り合える機会や場所	若年性（65歳未満）を含めた認知症の就労や生活についての支援体制	その他	無回答
全体		1316	942	463	417	542	677	924	816	531	501	646	447	582	28	23
性別	男	606	423	202	189	256	273	407	356	224	200	262	182	235	17	9
	女	710	519	261	228	286	404	517	460	307	301	384	265	347	11	14
年代	18～19歳	23	15	9	4	3	10	14	11	12	9	8	7	7	0	0
	20～29歳	89	64	41	28	30	46	68	55	27	34	41	27	43	1	0
	30～39歳	116	80	41	40	39	49	82	61	41	39	54	34	57	1	1
	40～49歳	200	133	82	75	78	94	141	119	79	66	103	61	106	9	2
	50～59歳	215	143	62	59	75	109	156	136	79	74	93	58	101	4	1
	60～69歳	275	217	107	93	119	154	194	195	118	97	134	96	125	8	3
	70歳以上	398	290	121	118	198	215	269	239	175	182	213	164	143	5	16
地区	河北	411	302	163	141	186	219	309	263	181	176	218	147	209	12	6
	河南	185	134	57	57	73	90	127	117	70	65	88	54	67	3	3
	盛南	186	122	62	51	65	93	127	108	64	56	77	59	71	4	2
	厨川	278	196	93	81	108	142	183	170	117	105	129	101	123	5	8
	都南	214	156	75	77	95	114	147	131	83	89	114	71	94	3	3
	玉山	42	32	13	10	15	19	31	27	16	10	20	15	18	1	1

問 25 認知症の人や家族が暮らしやすい社会を築くために、あなたが行動してみたいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

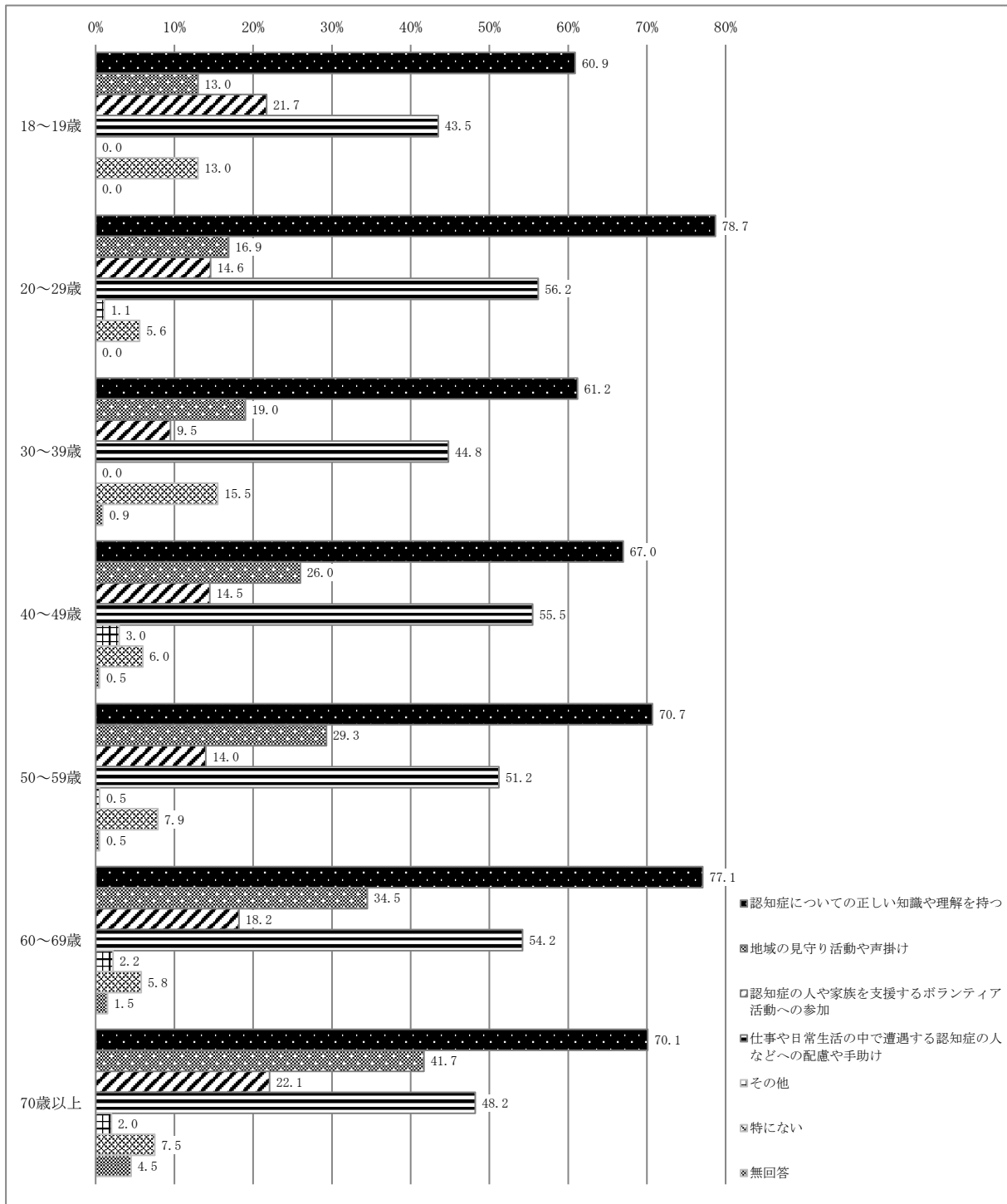
- 1 認知症についての正しい知識や理解を持つ
- 2 地域の見守り活動や声掛け
- 3 認知症の人や家族を支援するボランティア活動への参加
- 4 仕事や日常生活の中で遭遇する認知症の人などへの配慮や手助け
- 5 その他（ ）
- 6 特にない

【全体】



特に割合が高かった項目は「認知症についての正しい知識や理解を持つ」「仕事や日常生活の中で遭遇する認知症の人などへの配慮や手助け」「地域の見守り活動や声掛け」であった。啓発や適切な対応等についての実践的な学びの機会が必要と考えられる。

【年代別】



どの年代においても「認知症についての正しい知識や理解を持つ」「仕事や日常生活の中で遭遇する認知症の人などへの配慮や手助け」の割合が高い傾向が見られる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

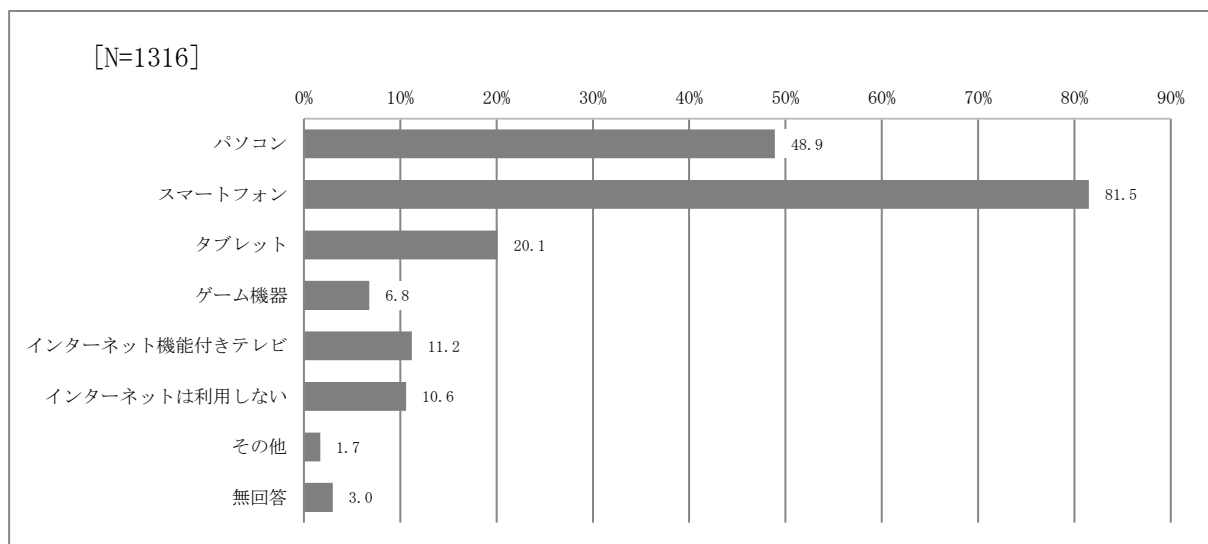
		実数 (人)	社会全体で認知症への正しい知識と理解を深めること	学校における認知症の正しい知識を学ぶ機会	職場における認知症の正しい知識を学ぶ機会	地域における認知症の正しい知識を学ぶ機会	認知症の人や家族に役立つ情報を得られる機会や場所	できるだけ早い段階から必要なサポートが受けられる仕組み	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	認知症の人を地域で見守る体制	認知症の人が安心して参加できる身近な活動の場	認知症の人が安心して外出や買い物等ができるサポート体制	認知症の人や家族同士が互いに交流したり語り合える機会や場所	若年性（65歳未満）を含めた認知症の就労や生活についての支援体制	その他	無回答
全体		1316	932	416	226	674	22	101	25	932	416	226	674	22	101	25
性別	男	606	422	185	93	286	11	60	10	422	185	93	286	11	60	10
	女	710	510	231	133	388	11	41	15	510	231	133	388	11	41	15
年代	18～19歳	23	14	3	5	10	0	3	0	14	3	5	10	0	3	0
	20～29歳	89	70	15	13	50	1	5	0	70	15	13	50	1	5	0
	30～39歳	116	71	22	11	52	0	18	1	71	22	11	52	0	18	1
	40～49歳	200	134	52	29	111	6	12	1	134	52	29	111	6	12	1
	50～59歳	215	152	63	30	110	1	17	1	152	63	30	110	1	17	1
	60～69歳	275	212	95	50	149	6	16	4	212	95	50	149	6	16	4
	70歳以上	398	279	166	88	192	8	30	18	279	166	88	192	8	30	18
地区	河北	411	300	131	78	216	7	30	8	300	131	78	216	7	30	8
	河南	185	129	54	21	87	3	14	2	129	54	21	87	3	14	2
	盛南	186	129	52	26	85	3	16	3	129	52	26	85	3	16	3
	厨川	278	189	90	48	144	7	23	8	189	90	48	144	7	23	8
	都南	214	159	70	42	121	2	11	3	159	70	42	121	2	11	3
	玉山	42	26	19	11	21	0	7	1	26	19	11	21	0	7	1

《テーマ4 盛岡市役所のデジタル化について》

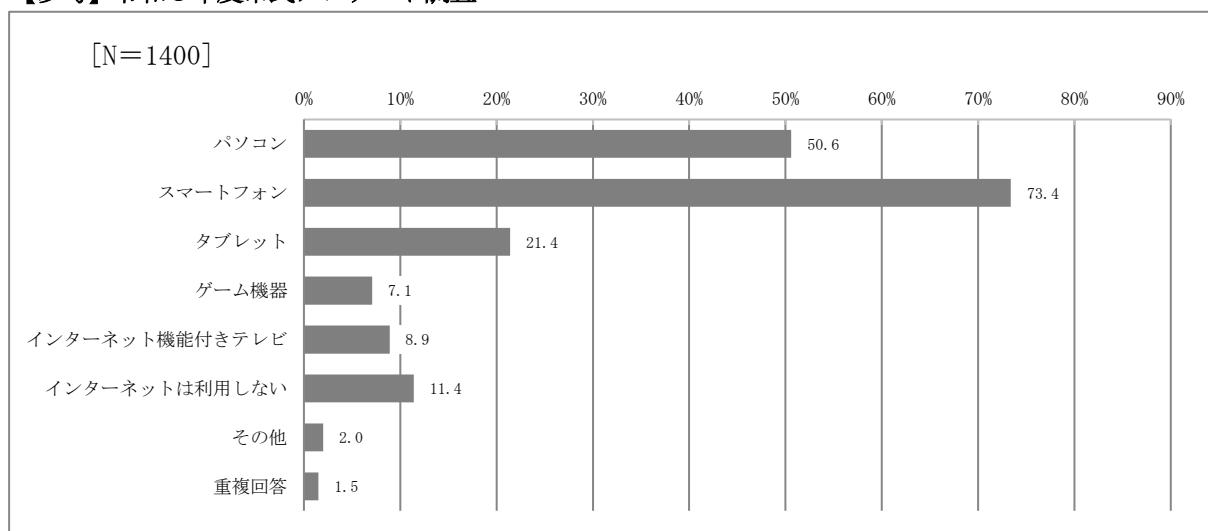
問 26 日常生活でインターネットを利用するときに使う端末は何ですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 パソコン | 5 インターネット機能付きテレビ |
| 2 スマートフォン | 6 インターネットは利用しない |
| 3 タブレット | 7 その他（ ） |
| 4 ゲーム機器 | |

【全体】

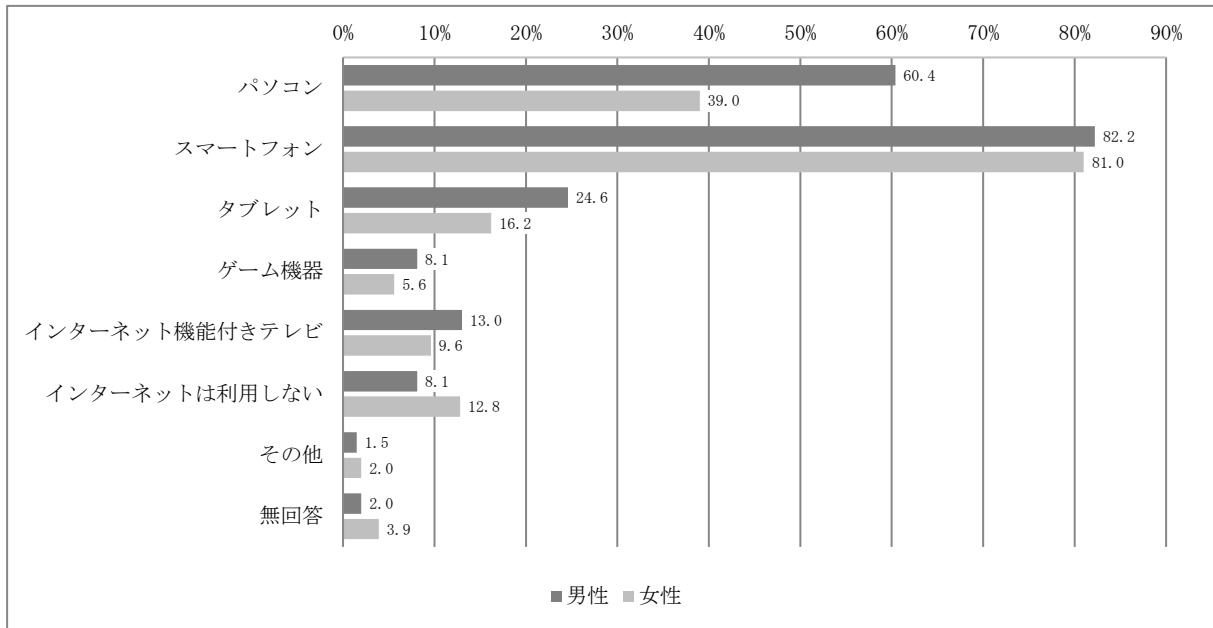


【参考】令和3年度市民アンケート調査

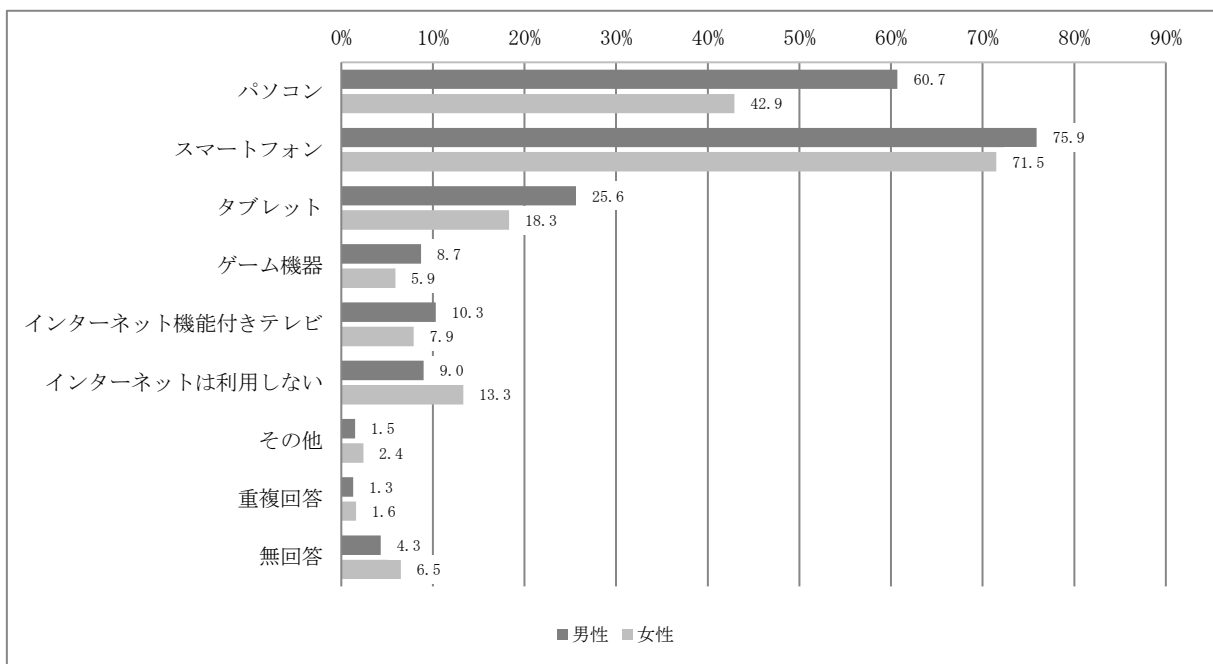


「スマートフォン」が81.5%、次に「パソコン」が48.9%、「タブレット」が20.1%と続いた。令和3年度の調査では、「スマートフォン」が73.4%、「パソコン」が50.6%、「タブレット」が21.4%だったことから、スマートフォンがさらに普及し生活の一部となっていると考えられる。市の情報発信や行政手続きオンライン化、各種手続きのデジタル化を進める場合、スマートフォンでの利用を前提とした、検討や取組を引き続き進める必要がある。

【性別】



【参考】令和3年度市民アンケート調査



インターネット利用については、男女ともに「スマートフォン」の割合が最も高かった。一方で、「パソコン」の利用においては、男性が60.4%、女性が39.0%となり差は21.4ポイントであったが、令和3年度の同調査では差が17.8ポイントであったことから、「パソコンを使うのは男性が多い」という傾向が進んでいるものと考えられる。

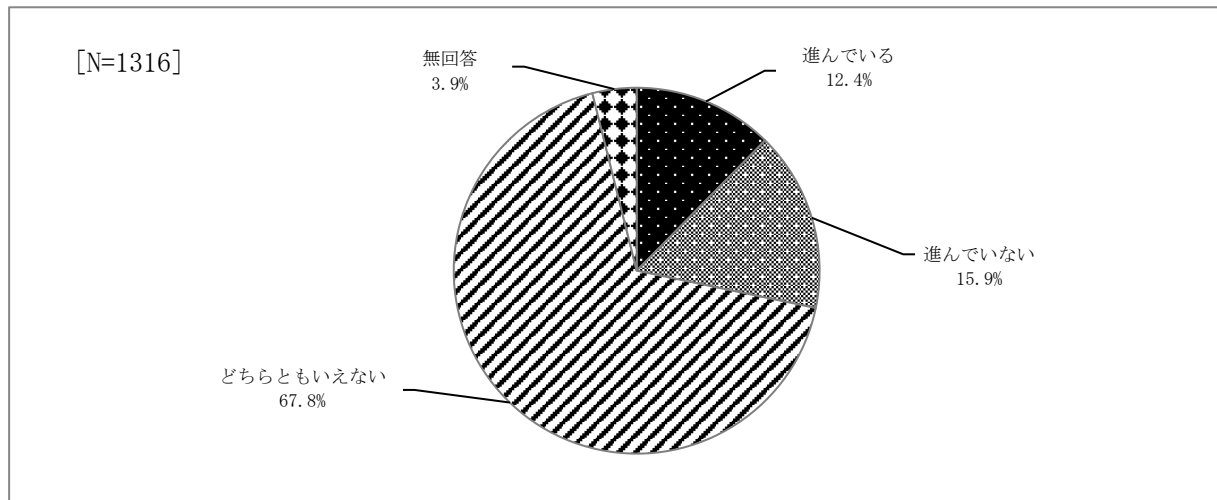
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	パソコン	スマートフォン	タブレット	ゲーム機器	インターネット機能付きテレビ	インターネットは利用しない	その他	無回答
全体		1316	643	1073	264	89	147	140	23	40
性別	男	606	366	498	149	49	79	49	9	12
	女	710	277	575	115	40	68	91	14	28
年代	18～19歳	23	14	23	6	7	2	0	0	0
	20～29歳	89	55	88	28	17	12	0	0	0
	30～39歳	116	64	113	38	17	16	0	0	1
	40～49歳	200	127	197	62	31	45	1	1	0
	50～59歳	215	132	204	50	13	26	4	1	0
	60～69歳	275	142	235	46	1	28	22	6	4
	70歳以上	398	109	213	34	3	18	113	15	35
地区	河北	411	205	329	83	17	46	42	12	10
	河南	185	97	158	43	15	20	14	0	5
	盛南	186	103	156	34	14	26	18	1	6
	厨川	278	117	222	56	23	22	30	6	11
	都南	214	107	174	43	18	29	30	4	6
	玉山	42	14	34	5	2	4	6	0	2

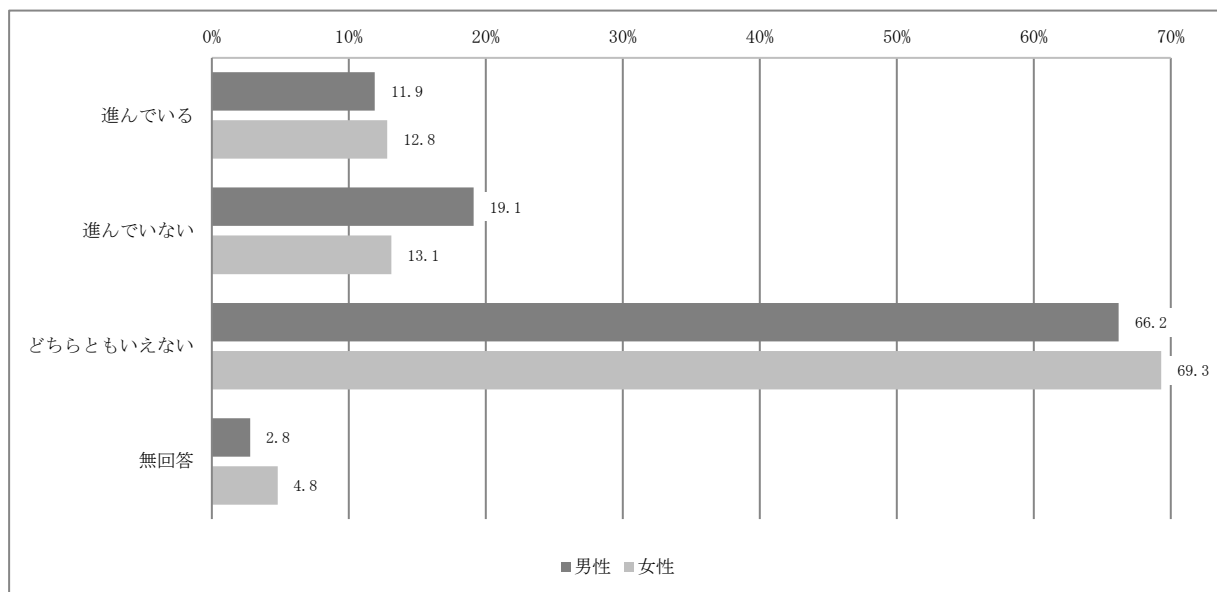
問 27 あなたは、盛岡市役所のデジタル化は進んでいると感じますか。当てはまるもの1つに✓を付けてください。

- 1 進んでいる
- 2 進んでいない
- 3 どちらともいえない

【全体】



【性別】



【全体を通じて】

「進んでいる」が12.4%、「進んでいない」が15.9%と大きな差は認められなかった。性別では、「進んでいない」は男性19.1%、女性13.1%となっており、男性の方が女性よりもデジタル化が進んでいないと考えている傾向があった。

「進んでいない」の解消に向け、また、「どちらともいえない」が「進んでいる」実感を得られるよう、利便性を高めながら分かりやすいデジタル化を進めていく必要がある。

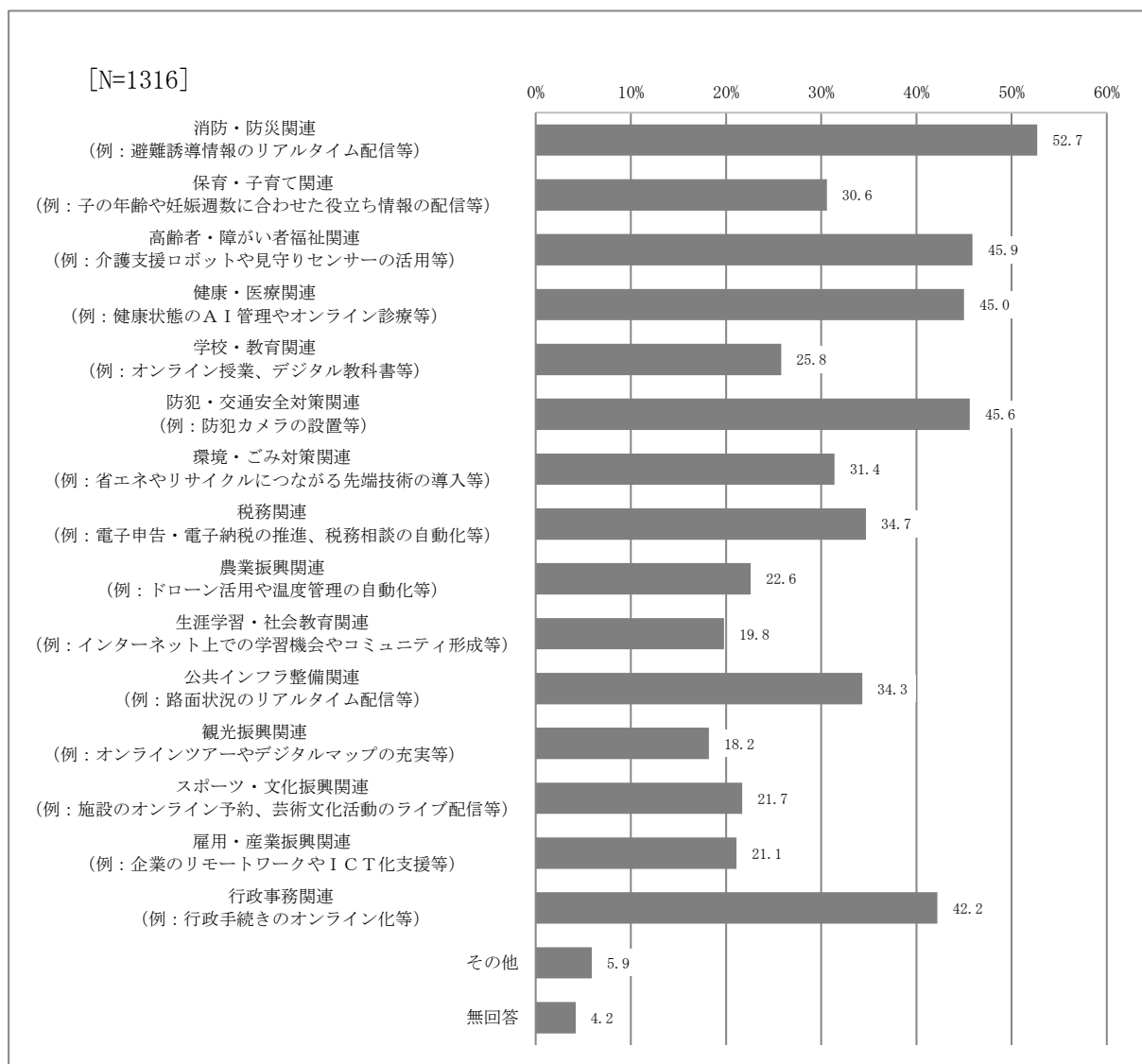
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	進んでいる	進んでいない	どちらともいえない	無回答
全体		1316	163	209	893	51
性別	男	606	72	116	401	17
	女	710	91	93	492	34
年代	18～19歳	23	4	5	14	0
	20～29歳	89	21	19	49	0
	30～39歳	116	14	38	62	2
	40～49歳	200	20	48	130	2
	50～59歳	215	28	27	158	2
	60～69歳	275	32	36	200	7
	70歳以上	398	44	36	280	38
地区	河北	411	43	78	277	13
	河南	185	27	25	125	8
	盛南	186	21	32	123	10
	厨川	278	31	41	195	11
	都南	214	37	31	138	8
	玉山	42	4	2	35	1

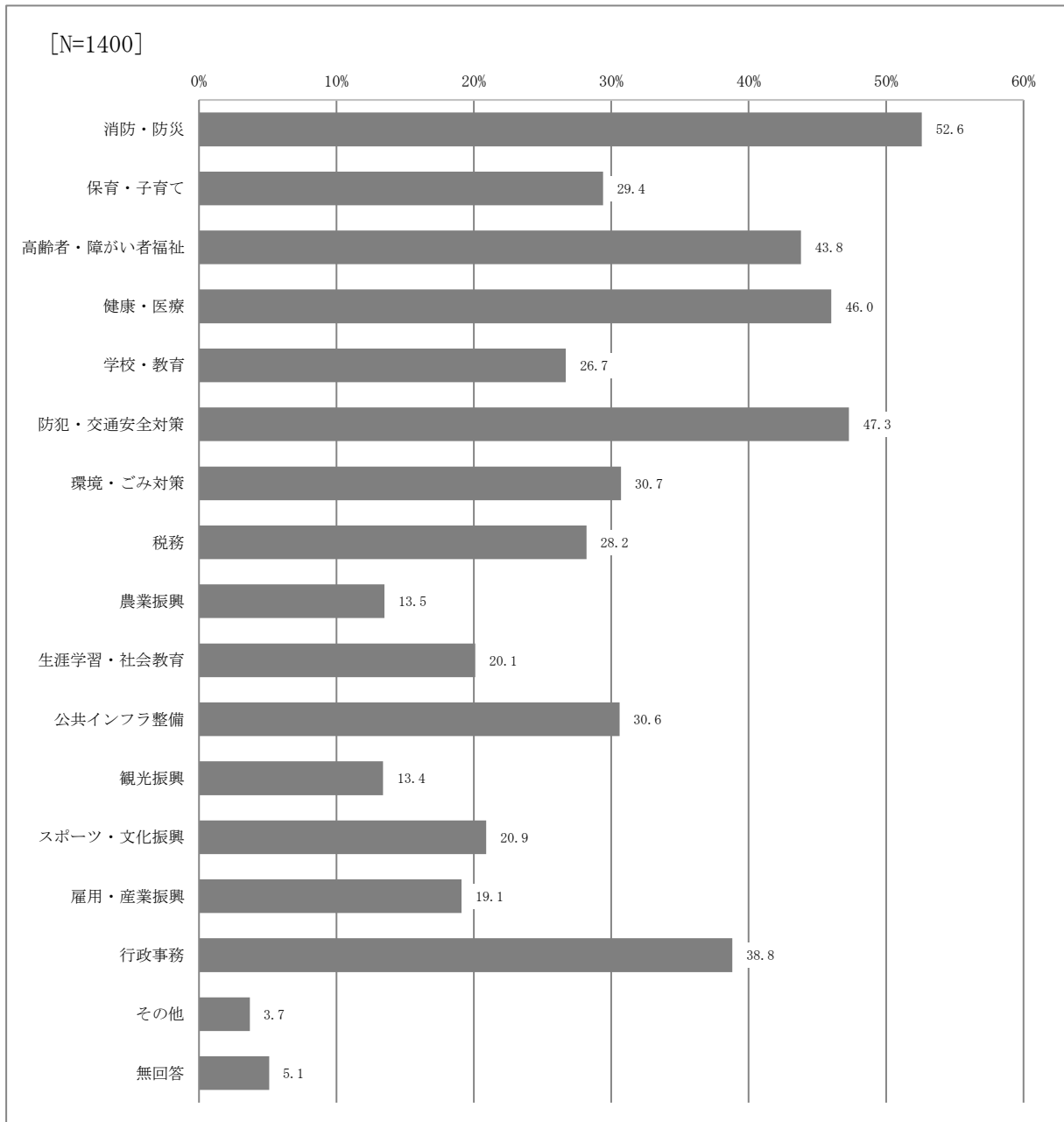
問 28 市の施策として、どの分野のデジタル化が進むと暮らしやすくなると思いますか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

- 1 消防・防災関連（例：避難誘導情報のリアルタイム配信等）
- 2 保育・子育て関連（例：子の年齢や妊娠週数に合わせた役立ち情報の配信等）
- 3 高齢者・障がい者福祉関連（例：介護支援ロボットや見守りセンサーの活用等）
- 4 健康・医療関連（例：健康状態のA I 管理やオンライン診療等）
- 5 学校・教育関連（例：オンライン授業、デジタル教科書等）
- 6 防犯・交通安全対策関連（例：防犯カメラの設置等）
- 7 環境・ごみ対策関連（例：省エネやリサイクルにつながる先端技術の導入等）
- 8 税務関連（例：電子申告・電子納税の推進、税務相談の自動化等）
- 9 農業振興関連（例：ドローン活用や温度管理の自動化等）
- 10 生涯学習・社会教育関連（例：インターネット上での学習機会やコミュニティ形成等）
- 11 公共インフラ整備関連（例：路面状況のリアルタイム配信等）
- 12 観光振興関連（例：オンラインツアーやデジタルマップの充実等）
- 13 スポーツ・文化振興関連（例：施設のオンライン予約、芸術文化活動のライブ配信等）
- 14 雇用・産業振興関連（例：企業のリモートワークやI C T化支援等）
- 15 行政事務関連（例：行政手続きのオンライン化等）
- 16 その他（ ）

【全体】

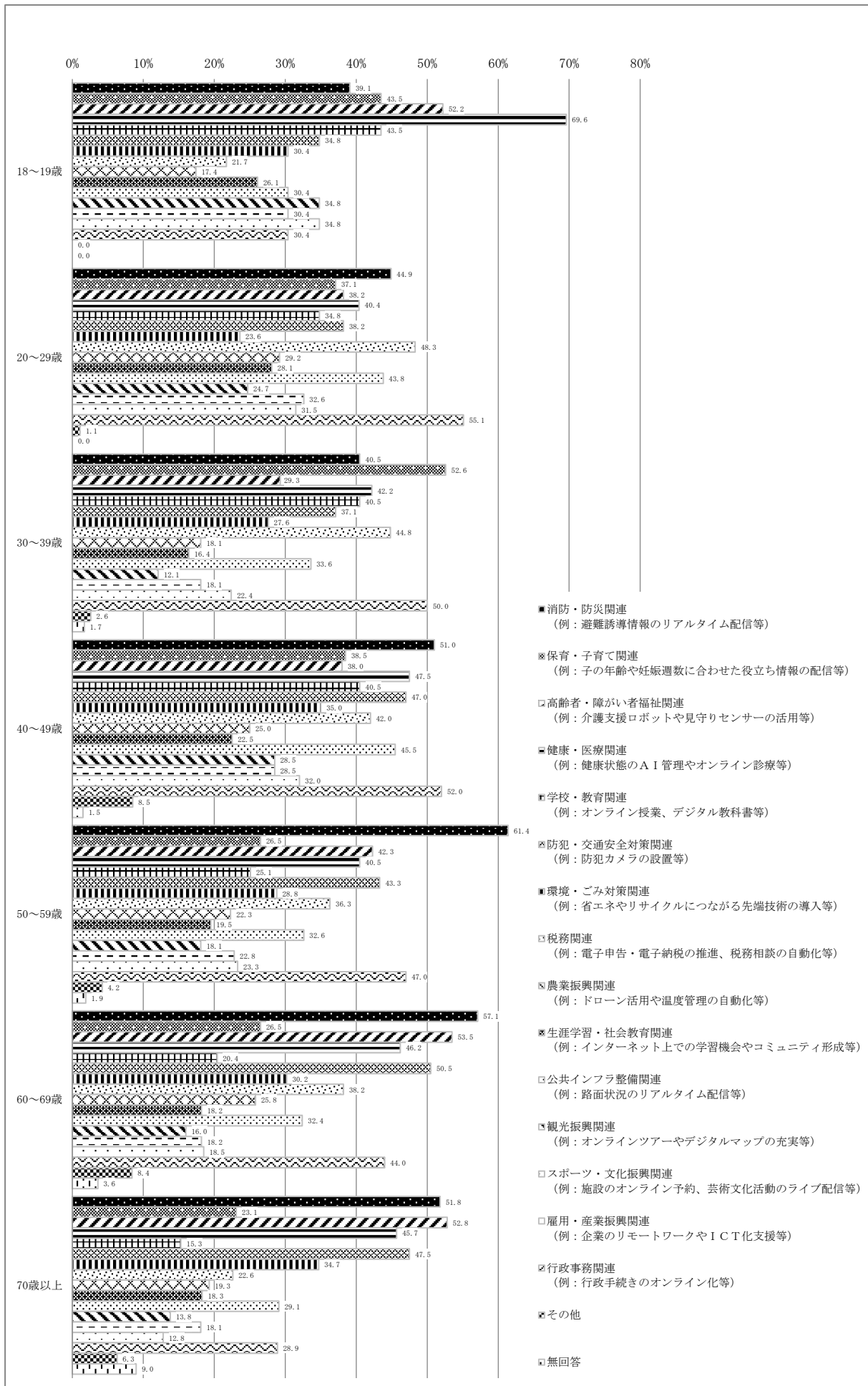


【参考】令和3年度市民アンケート調査



「消防・防災関連」が52.7%で最も割合が高く、「防犯・交通安全対策関連」も45.6%となっており、生活の安心・安全面でのデジタル化が進むと暮らしやすくなると考えている人の割合が高いことがうかがえる。また、「高齢者・障がい者福祉関連」が45.9%、「健康・医療関連」が45.0%、「行政事務関連」が42.2%となっている。令和3年度の同調査においても同様の傾向であることから、引き続き日常生活を送るために欠かせない分野におけるデジタル化が求められていることがうかがえる。

【年代別】



30代では「保育・子育て関連」が52.6%、60代以上では「高齢者・障がい者福祉関連」が60代で53.5%、70代で52.8%となっており、各々の世代で密接する分野のデジタル化を選ぶ傾向がみられ、ライフステージに応じたデジタル化を進め、利便性を高めていく必要がある。50代では、「消防・防災関連」が61.4%と他の項目よりも割合が高く、当該年代の防災意識の高さがうかがえる。一方、10代では「健康・医療関連」が69.6%と突出して高くなっており、若年層の健康意識への高まりがうかがえる。

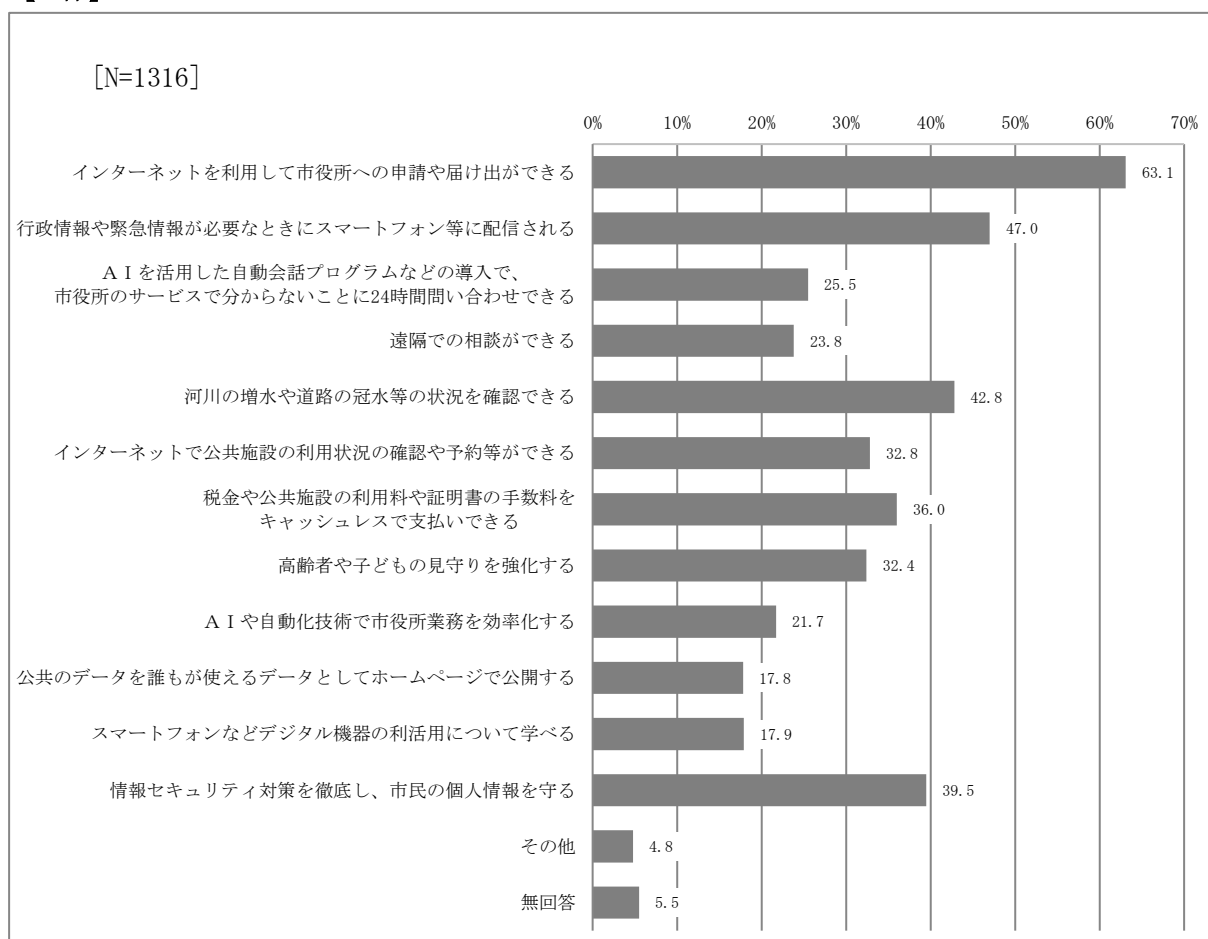
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	消防・防災関連 (例：避難誘導情報のリアルタイム配信等)	保育・子育て関連 (例：子の年齢や妊娠週数に合わせた役立ち情報の配信等)	高齢者・障がい者福祉関連 (例：介護支援ロボットや見守りセンサーの活用等)	健康・医療関連 (例：健康状態のAI管理やオンライン診療等)	学校・教育関連 (例：オンライン授業、デジタル教科書等)	防犯・交通安全対策関連 (例：防犯カメラの設置等)	環境・ごみ対策関連 (例：省エネやリサイクルにつながる先端技術の導入等)	税務関連 (例：電子申告・電子納税の推進、税務相談の自動化等)	農業振興関連 (例：ドローン活用や温度管理の自動化等)	生涯学習・社会教育関連 (例：インターネット上での学習機会やコミュニティ形成等)	公共インフラ整備関連 (例：路面状況のリアルタイム配信等)	観光振興関連 (例：オンラインツアーやデジタルマップの充実等)	スポーツ・文化振興関連 (例：施設のオンライン予約、芸術文化活動のライブ配信等)	雇用・産業振興関連 (例：企業のリモートワークやICT化支援等)	行政事務関連 (例：行政手続きのオンライン化等)	その他	無回答
全体		1316	693	403	604	592	340	600	413	457	297	260	451	239	285	278	555	78	55
性別	男	606	310	187	260	294	171	278	208	251	150	138	224	119	152	134	284	39	20
	女	710	383	216	344	298	169	322	205	206	147	122	227	120	133	144	271	39	35
年代	18～19歳	23	9	10	12	16	10	8	7	5	4	6	7	8	7	8	7	0	0
	20～29歳	89	40	33	34	36	31	34	21	43	26	25	39	22	29	28	49	1	0
	30～39歳	116	47	61	34	49	47	43	32	52	21	19	39	14	21	26	58	3	2
	40～49歳	200	102	77	76	95	81	94	70	84	50	45	91	57	57	64	104	17	3
	50～59歳	215	132	57	91	87	54	93	62	78	48	42	70	39	49	50	101	9	4
	60～69歳	275	157	73	147	127	56	139	83	105	71	50	89	44	50	51	121	23	10
	70歳以上	398	206	92	210	182	61	189	138	90	77	73	116	55	72	51	115	25	36
地区	河北	411	225	129	188	182	106	193	131	146	92	93	149	84	91	84	184	26	13
	河南	185	104	56	87	96	52	80	63	66	37	37	61	35	39	47	70	6	9
	盛南	186	92	54	78	74	45	69	50	69	36	28	57	27	34	32	78	15	8
	厨川	278	145	78	128	123	70	137	93	85	64	54	89	45	61	59	115	18	14
	都南	214	108	76	106	100	59	105	67	81	63	42	81	43	53	49	95	10	6
	玉山	42	19	10	17	17	8	16	9	10	5	6	14	5	7	7	13	3	5

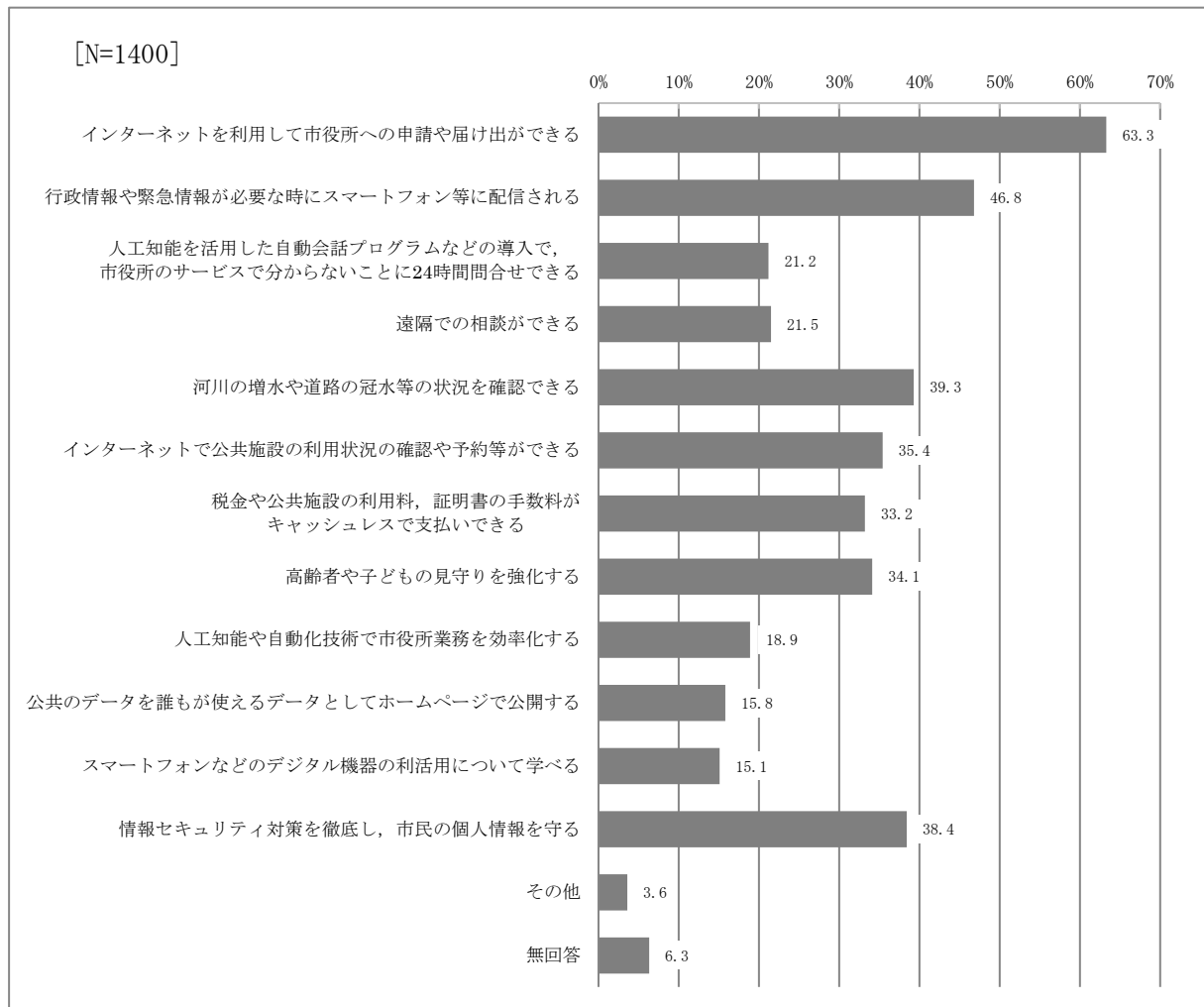
問 29 今後、行政手続きや行政サービスがデジタル化されることで、期待することはどのようなことですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

- 1 インターネットを利用して市役所への申請や届け出ができる
- 2 行政情報や緊急情報が必要なときにスマートフォン等に配信される
- 3 A Iを活用した自動会話プログラムなどの導入で、市役所のサービスで分からないことに24時間問い合わせできる
- 4 遠隔での相談ができる
- 5 河川の増水や道路の冠水等の状況を確認できる
- 6 インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる
- 7 税金や公共施設の利用料や証明書の手数料をキャッシュレスで支払いできる
- 8 高齢者や子どもの見守りを強化する
- 9 A Iや自動化技術で市役所業務を効率化する
- 10 公共のデータを誰もが使えるデータとしてホームページで公開する
- 11 スマートフォンなどデジタル機器の利活用について学べる
- 12 情報セキュリティ対策を徹底し、市民の個人情報を守る
- 13 その他 ()

【全体】

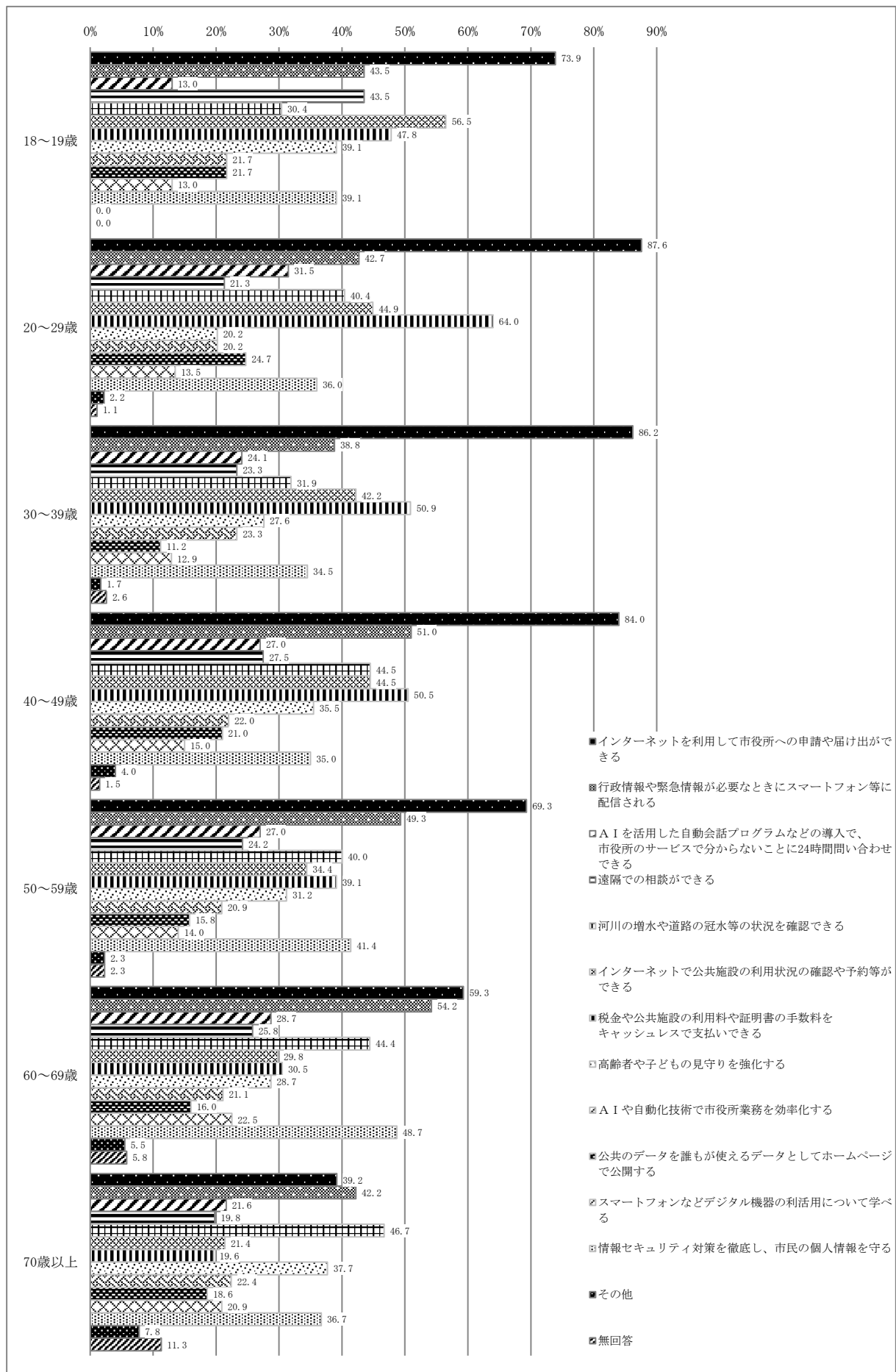


【参考】令和3年度市民アンケート調査



全体的な傾向としては、令和3年度と同調査とほぼ変わらず、「インターネットを利用して市役所への申請や届け出ができる」が63.1%と最も高く、次が「行政情報や緊急情報が必要なときにスマートフォン等に配信される」が47.0%であった。引き続き、場所や時間に捉われない行政サービスの提供が求められていると考えられることから、行政手続きのオンライン化や必要な人に必要な情報を配信できるよう、取り組んでいく必要があると考えられる。

【年代別】



「インターネットを利用して市役所への申請や届け出ができる」は70代以上を除くすべての世代で最も割合が高くなっており、幅広い年代で行政手続きのオンライン化はニーズがあることがうかがえる。10代では「インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる」、20代及び30代では「税金や公共施設の利用料や証明書の手数料をキャッシュレスで支払いできる」が次に高い割合となっており、各年代の生活に応じた傾向を示している。

【性別、年代別、地区別の回答数】

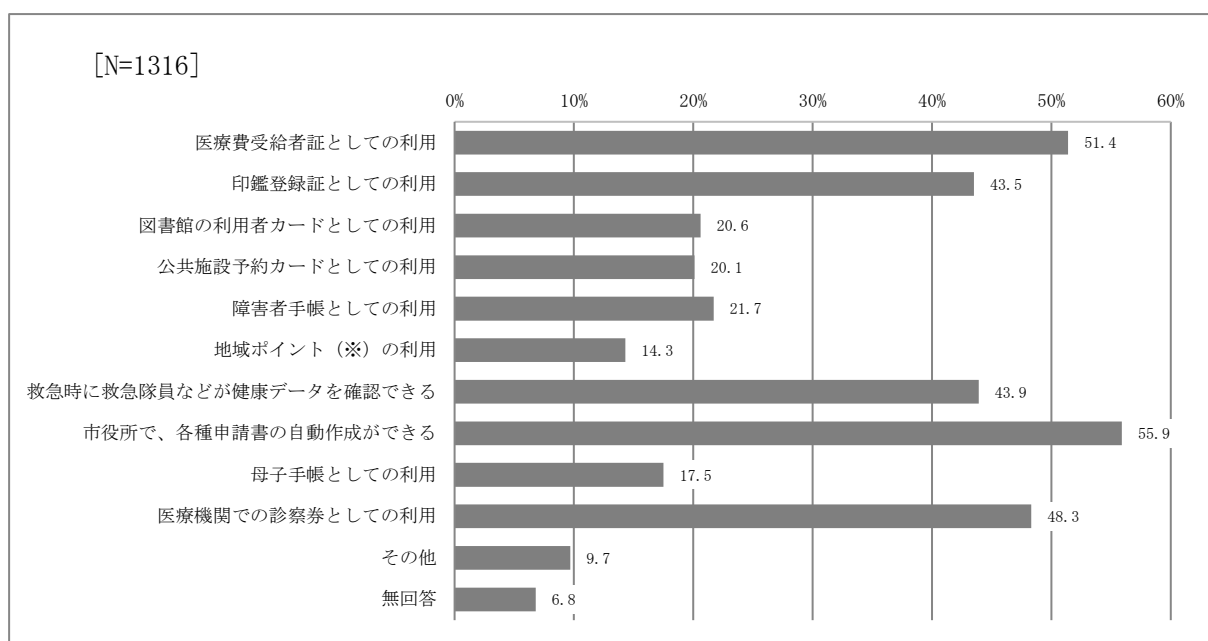
		実数（人）	インターネットを利用して市役所への申請や届け出ができる	行政情報や緊急情報が必要ときにスマートフォン等に配信される	分らないことに24時間問い合わせできる	遠隔での相談ができる	河川の増水や道路の冠水等の状況を確認できる	インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる	税金や公共施設の利用料や証明書の手数料をキャッシュレスで支払いできる	高齢者や子どもの見守りを強化する	AIや自動化技術で市役所業務を効率化する	公共のデータを誰もが使えるデータとしてホームページで公開する	スマートフォンなどデジタル機器の活用について学べる	情報セキュリティ対策を徹底し、市民の個人情報を守る	その他	無回答
全体		1316	831	618	336	313	563	432	474	426	286	234	235	520	63	73
性別	男	606	414	288	164	153	272	214	251	185	166	140	121	245	31	23
	女	710	417	330	172	160	291	218	223	241	120	94	114	275	32	50
年代	18～19歳	23	17	10	3	10	7	13	11	9	5	5	3	9	0	0
	20～29歳	89	78	38	28	19	36	40	57	18	18	22	12	32	2	1
	30～39歳	116	100	45	28	27	37	49	59	32	27	13	15	40	2	3
	40～49歳	200	168	102	54	55	89	89	101	71	44	42	30	70	8	3
	50～59歳	215	149	106	58	52	86	74	84	67	45	34	30	89	5	5
	60～69歳	275	163	149	79	71	122	82	84	79	58	44	62	134	15	16
	70歳以上	398	156	168	86	79	186	85	78	150	89	74	83	146	31	45
地区	河北	411	265	197	110	101	178	146	166	135	104	74	64	150	26	20
	河南	185	120	93	44	40	86	61	58	59	43	40	41	84	4	9
	盛南	186	124	84	41	37	79	62	74	49	36	27	21	71	13	10
	厨川	278	167	127	73	65	114	84	91	98	57	56	61	122	12	19
	都南	214	139	101	61	59	90	69	77	72	45	32	39	80	7	8
	玉山	42	16	16	7	11	16	10	8	13	1	5	9	13	1	7

問 30 あなたは、マイナンバーカードでできることに何を期待しますか。当てはまるものを全てに✓を付けてください。

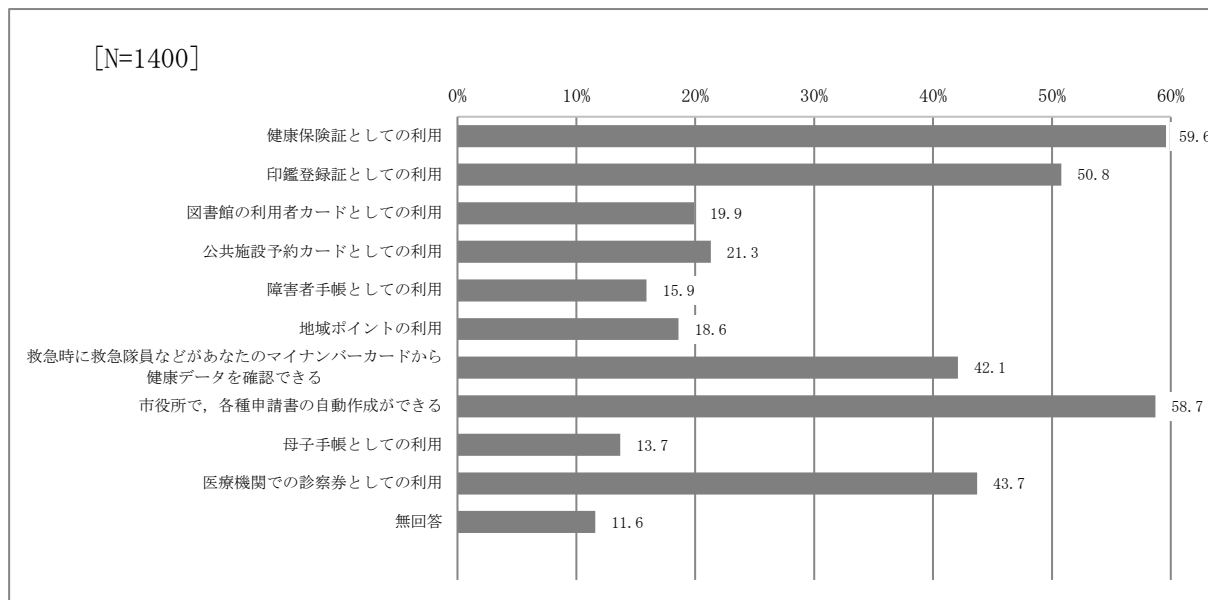
- 1 医療費受給者証としての利用
- 2 印鑑登録証としての利用
- 3 図書館の利用者カードとしての利用
- 4 公共施設予約カードとしての利用
- 5 障害者手帳としての利用
- 6 地域ポイント（※）の利用
- 7 救急時に救急隊員などが健康データを確認できる
- 8 市役所で、各種申請書の自動作成ができる
- 9 母子手帳としての利用
- 10 医療機関での診察券としての利用
- 11 その他（ ）

※ ある一定のエリア内で発行され、支払いに利用できるポイントサービスのこと。

【全体】

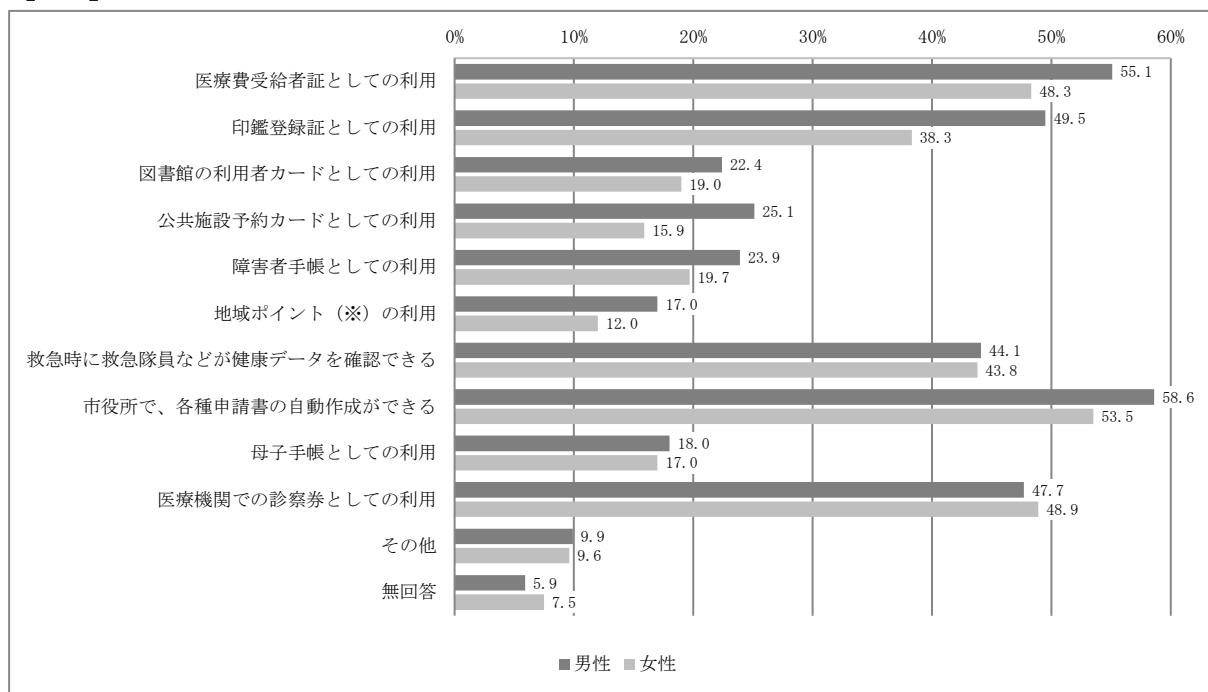


【参考】令和3年度市民アンケート調査



令和3年度の同調査と傾向に差はないが、それぞれ令和3年度比べ「図書館の利用者カードとしての利用」が0.7ポイント、「障害者手帳としての利用」が5.8ポイント、「救急時に救急隊員などが健康データを確認できる」が1.8ポイント、「母子手帳としての利用」が3.8ポイント、「医療機関での診察券としての利用」が4.6ポイント上昇しており、公的な場面だけでなく、私生活においても幅広い用途での利用ニーズが高まってきているものと考えられる。

【性別】



男性、女性ともに「市役所で各種申請書の自動作成ができる」の割合が最も高くなっており、マイナンバーカードを活用した行政手続きの利便性の向上へのニーズは男女ともに高いことがうかがえる。

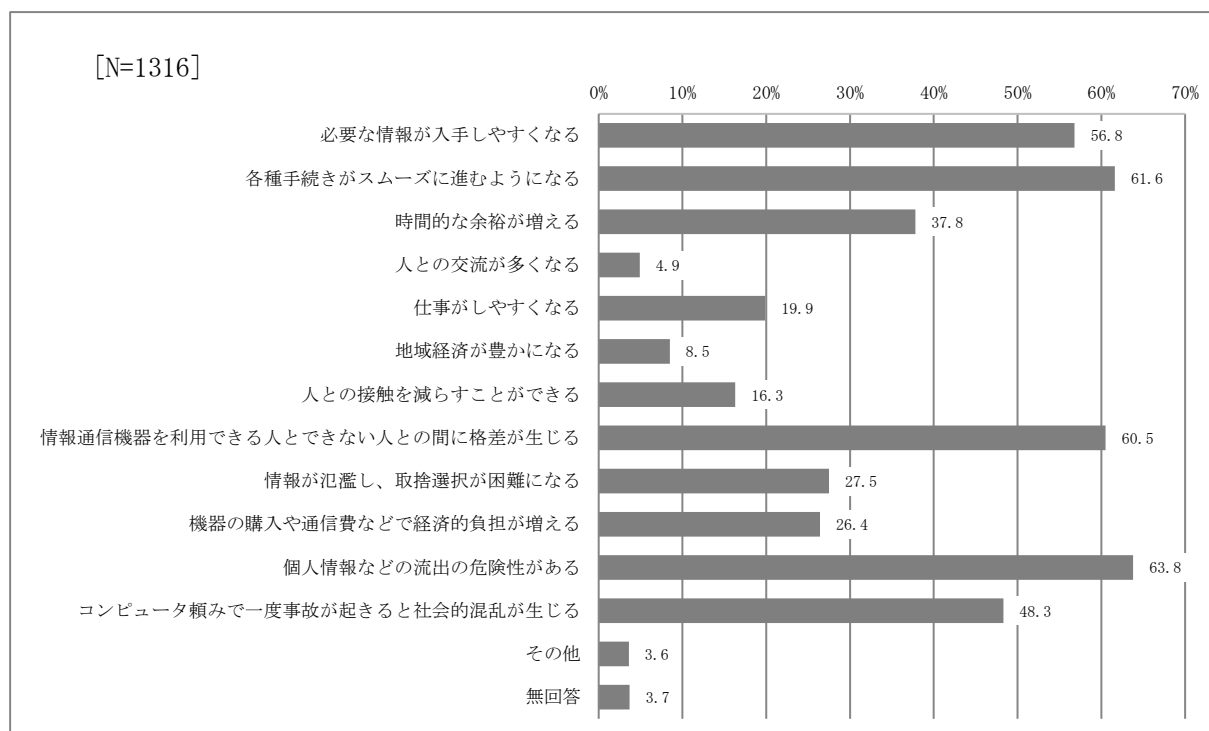
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	医療費受給者証としての利用	印鑑登録証としての利用	図書館の利用者カードとしての利用	公共施設予約カードとしての利用	障害者手帳としての利用	地域ポイント（※）の利用	救急時に救急隊員などが健康データを確認できる	市役所で、各種申請書の自動作成ができる	母子手帳としての利用	医療機関での診察券としての利用	その他
全体		1316	677	572	271	265	285	188	578	735	230	636	128
性別	男	606	334	300	136	152	145	103	267	355	109	289	60
	女	710	343	272	135	113	140	85	311	380	121	347	68
年代	18～19歳	23	18	9	3	4	3	6	11	10	8	11	0
	20～29歳	89	42	36	23	22	14	19	45	58	20	38	5
	30～39歳	116	55	47	25	25	21	22	45	67	32	46	10
	40～49歳	200	99	99	60	55	50	41	91	135	47	88	19
	50～59歳	215	93	86	44	41	52	36	90	125	39	91	26
	60～69歳	275	144	125	50	52	64	34	119	162	40	135	30
	70歳以上	398	226	170	66	66	81	30	177	178	44	227	38
地区	河北	411	218	196	88	81	101	58	182	240	71	194	42
	河南	185	101	86	35	37	40	33	90	112	40	97	13
	盛南	186	86	74	29	35	34	23	84	111	28	82	19
	厨川	278	146	108	59	53	53	38	123	144	44	134	28
	都南	214	108	95	56	54	49	33	89	113	44	107	20
	玉山	42	18	13	4	5	8	3	10	15	3	22	6

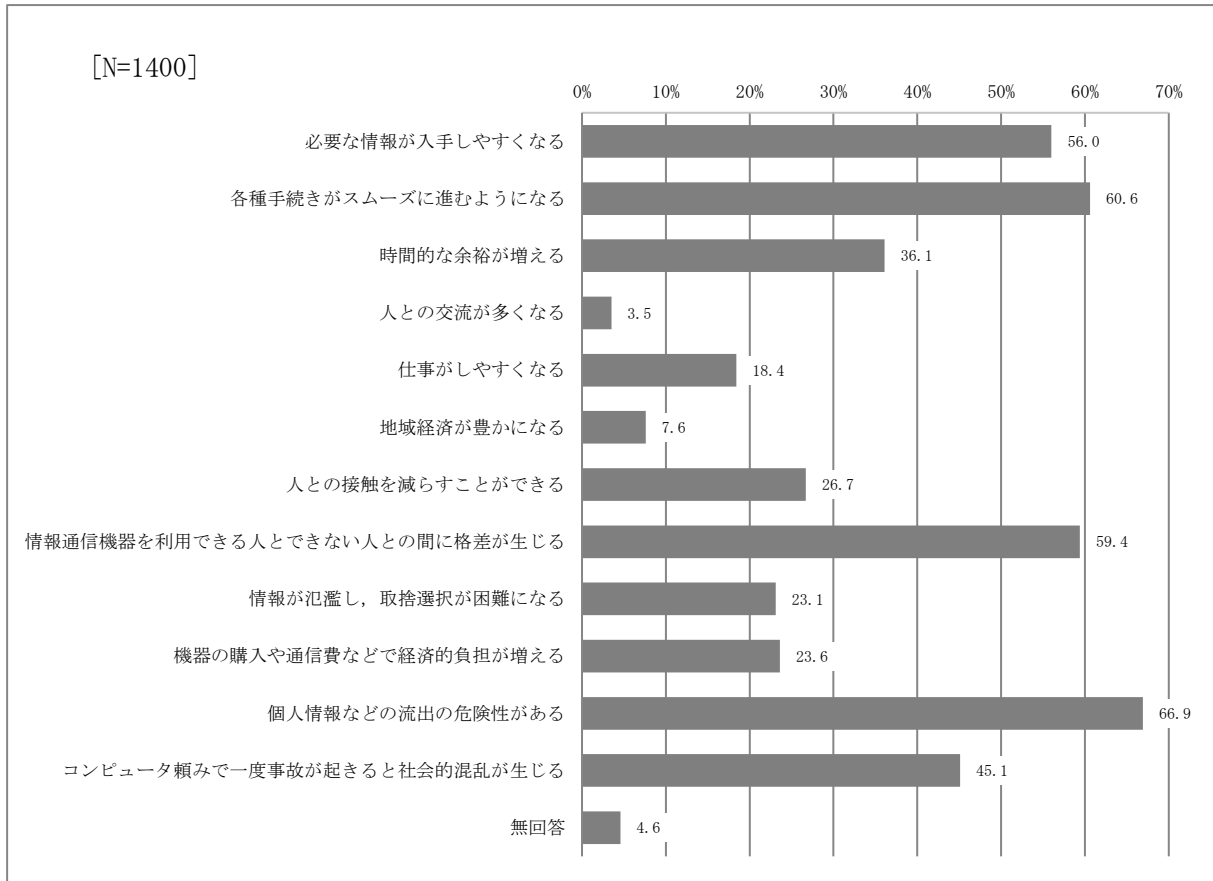
問 31 あなたは、デジタル化が進展することによって生じる影響について、どのようにお考えですか。当てはまるもの全てに✓を付けてください。

- 1 必要な情報が入手しやすくなる
- 2 各種手続きがスムーズに進むようになる
- 3 時間的な余裕が増える
- 4 人との交流が多くなる
- 5 仕事がしやすくなる
- 6 地域経済が豊かになる
- 7 人との接触を減らすことができる
- 8 情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる
- 9 情報が氾濫し、取捨選択が困難になる
- 10 機器の購入や通信費などで経済的負担が増える
- 11 個人情報などの流出の危険性がある
- 12 コンピュータ頼みで一度事故が起きると社会的混乱が生じる
- 13 その他（ ）

【全体】



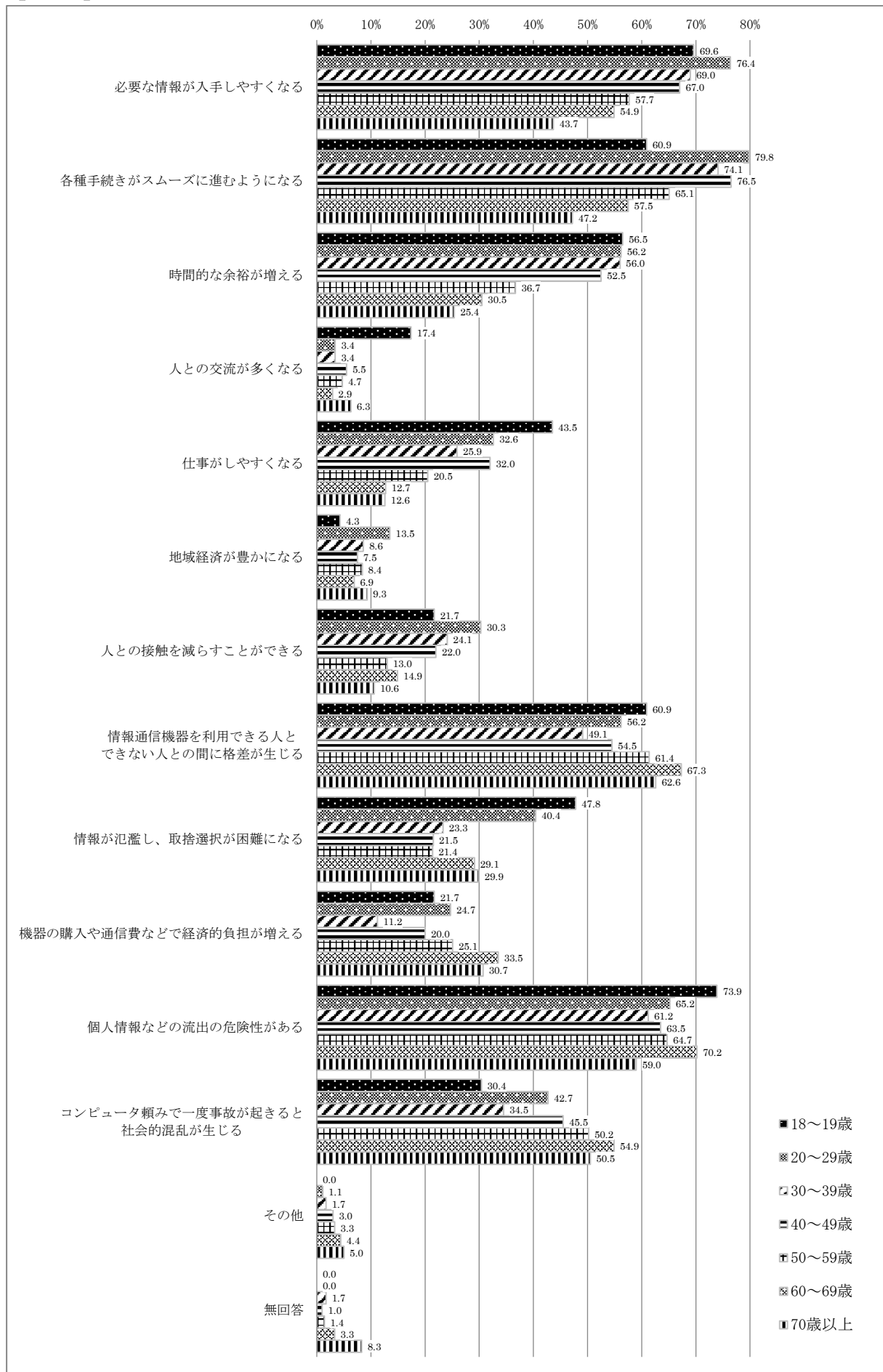
【参考】令和3年度市民アンケート調査



令和3年度と同調査と全体的な傾向に変化はないが、「人との接触を減らすことができる」が令和3年度は26.7%であったところ、令和7年度は16.3%となっており、コロナ禍を経て意識の変化がうかがえる。

また、「必要な情報が入手しやすくなる」が56.8%、「各種手続きがスムーズに進むようになる」が61.6%と、デジタル化の進展に好意的な設問への回答の割合が高い一方で、「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる」が60.5%、「個人情報などの流出の危険性がある」が63.8%といった負の面に着目した設問への回答の割合も高く、令和3年度と同様、デジタル化の進展への期待と不安が2項目ずつ入り混じる結果となった。デジタル化を進めるに当たっては、引き続き個人情報の流出や格差解消に力を入れ、市民が安心して利用できる環境の整備が必要と考えられる。

【年代別】



「個人情報などの流出の危険性がある」は全年代で高い割合となっているが、特に10代と60代で70%を超えており、デジタルへの慣れや利用頻度を問わず、セキュリティへの意識が高まっていることがうかがえる。デジタル化を進める上では、セキュリティを考慮しながら進めることが必要であると考えられる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	必要な情報が入手しやすくなる	各種手続きがスムーズに進むようになる	時間的な余裕が増える	人との交流が多くなる	仕事やしやすくなる	地域経済が豊かになる	人との接触を減らすことができる	情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる	情報が氾濫し、取捨選択が困難になる	機器の購入や通信費などで経済的負担が増える	個人情報などの流出の危険性がある	コンピュータ頼みで一度事故が起きると社会的混乱が生じる	その他	無回答
	全体	1316	747	810	497	65	262	112	215	796	362	348	840	636	48	49
性別	男	606	373	384	241	34	142	65	102	368	171	183	373	285	24	17
	女	710	374	426	256	31	120	47	113	428	191	165	467	351	24	32
年代	18～19歳	23	16	14	13	4	10	1	5	14	11	5	17	7	0	0
	20～29歳	89	68	71	50	3	29	12	27	50	36	22	58	38	1	0
	30～39歳	116	80	86	65	4	30	10	28	57	27	13	71	40	2	2
	40～49歳	200	134	153	105	11	64	15	44	109	43	40	127	91	6	2
	50～59歳	215	124	140	79	10	44	18	28	132	46	54	139	108	7	3
	60～69歳	275	151	158	84	8	35	19	41	185	80	92	193	151	12	9
	70歳以上	398	174	188	101	25	50	37	42	249	119	122	235	201	20	33
地区	河北	411	237	256	150	27	80	36	60	257	115	108	268	220	19	14
	河南	185	111	113	76	8	35	17	31	121	50	45	122	82	4	5
	盛南	186	98	114	71	2	39	13	32	100	50	48	117	76	9	5
	厨川	278	149	166	98	14	58	23	43	171	76	77	166	129	9	18
	都南	214	131	142	88	12	44	22	42	130	60	62	142	106	5	4
	玉山	42	21	19	14	2	6	1	7	17	11	8	25	23	2	3

令和7年度市民アンケート調査結果報告書

令和8年1月発行

〈発行・編集〉

盛岡市市長公室広聴広報課

〒020-8530 盛岡市内丸12番2号

電話 (019) 626-7517 (直通)

〈調査結果の考察担当〉

- ・環境部廃棄物対策課
- ・市民部男女共同参画推進室
- ・保健福祉部長寿社会課
- ・総務部情報企画課

この報告書は再生紙を使用しています。